YAMAHA

DIGITAL MIXING CONSOLE

TF5
TF3
TF1
TF-RACK

V4.5 リファレンスマニュアル

JA

目次

概要 4
- リファレンスマニュアルの使い方 4
- ディスプレイについて 4

共通操作 8
- ライブラリー画面 8
- SOFT KEYBOARD 画面 10
- メニュー 10
- ボタン / スライダーの操作 10

ツールバー 11
- SCENE 画面 11
- METER 画面 14
- RECORDER 画面(INPUT/OUTPUT/TITLE LIST 画面) 15
- MONITOR 画面 19
- SETUP 画面(V3.0 以降) 22
- LOGIN 画面(V3.0 以降) 44

OVERVIEW 画面 47
- CH STRIP セクション 47
- FADER セクション 49
- SELECTED CHANNEL セクション(V4.0 以降) 50

専用画面 57
- INPUT 画面 57
- EQ 画面 59
- GATE 画面 63
- COMP 画面 65
- FX 画面(FX1/FX2/INS FX1 ～ 6) 67
- SEND TO AUX 画面 73
- ASSIGN 画面 74
- AUTOMIXER 画面(V3.5 以降) 74
- CH VIEW 画面 76
- CH NAME 画面 84
- GEQ 画面 85
- OUTPUT 画面 87
- SEND FROM 画面 88
- DCA ASSIGN 画面 90
- DELAY 画面(V2.5 以降) 92

メンテナンス画面 93
- Initialize All Memory 画面 93
- Initialize Current Memory 画面 94
- Initialize NY64-D 画面(V3.0 以降) 94
- Input Port Trim 画面 95
- Output Port Trim 画面 95
- Fader Calibration 画面(TF5/TF3/TF1) 96
- Channel Color Calibration 画面(TF5/TF3/TF1) 97

資料 98
- Scene/Preset 対象パラメーターリスト 98
- アクセス制限テンプレートの対応パラメーターリスト 104
- クイックコンフィグ時のチャンネル対応表 106
- 本体メッセージ 108

索引 110

寸法図 112

使い方目次

プリセットをリコールする 9
プリセットを編集する 9
専用画面を表示する 11
現在のセッティングを新しいシーンに保存する 12
シーンを呼び出す 12
シーンを編集する 12
シーンのフェードタイムを設定する(V4.0 以降) 13
入力を設定する 16
出力を設定する 17
録音する 18
USB ストレージデバイスの曲を再生する 19
音声入力をチェックする 20
オシレーターを設定する 21
PREFERENCE を設定する 26
[USER DEFINED KEYS]に機能を割り当てる 30
[USER DEFINED KNOBS]に機能を割り当てる 31
フットスイッチに機能を割り当てる 31
カスタムフェーダーバンクを設定する 32
カスタムフェーダーバンクを呼び出す(TF5/TF3/TF1) 32
リコールセーフ機能を使う 38
ミュートグループに割り当てるチャンネルを選ぶ 39
アクセス制限をかける 46
ユーザー設定を初期化する 46
ユーザー設定を他の TF シリーズにロードする 46
OVERVIEW 画面の操作 54
チャンネルの設定をコピーして他のチャンネルにペーストする 55
ステレオリンク、入力ソースを設定する 58
マニュアルモードで EQ を操作する 61
1-knob モードで EQ を操作する 61
HPF を設定する 62
LPF を設定する 62
GATE を設定する 64
コンプレッサーを設定する 66
エフェクトを設定する 68
インサートエフェクトを設定する 68
AUX バスへの送り量を設定する 73
AUTOMIXER を設定する 75
GEQ を使う 86
フェーダーで GEQ を操作する(TF5/TF3/TF1) 86
インプットチャンネルからの送りを設定する 88
アウトプットチャンネル(AUX、STEREO、SUB)から MATRIX への
SEND レベルを設定する(V2.5 以降) 89
DCA グループに割り当てるチャンネルを選ぶ 90
メンテナンス画面の表示と操作のしかた 93
フェーダーを調整する 96
再調整が必要なフェーダーが見つかった場合の対処方法 96
チャンネルカラーを調整する 97

リファレンスマニュアルの使い方

TF シリーズリファレンスマニュアル(本書)は、用語の検索機能やリンク機能を活用できます。

用語の検索

用語を検索するときは、本書を表示しているソフトウェアの機能を使います。
Adobe Reader を使っているときは、検索バーに用語を入力してコンピューターキーボードの <Enter> キーを押すと、入力した用語を検索します。

前の画面 / 次の画面を表示する

Adobe Reader を使っているときは、前の画面 / 次の画面を表示できます。ページのリンクでページを移動したあとに、前の画面に戻りたいときに便利です。

索引を使う

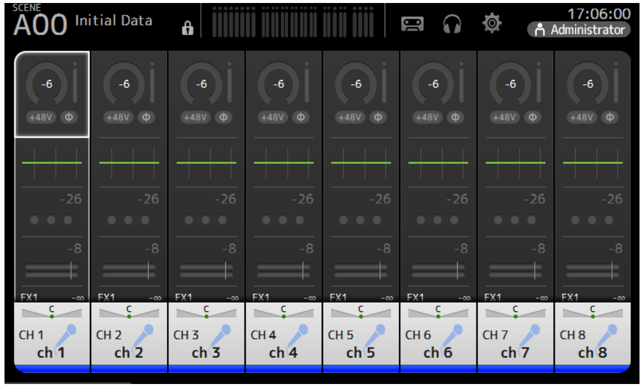
110 ページ以降に、索引が掲載されています。目的の機能の説明ページをさがすときに、この索引を活用してください。

ディスプレイについて

TF シリーズのディスプレイに表示される画面について、紹介します。

OVERVIEW 画面

起動したときに最初に表示される画面です。
この画面から各専用画面に移動して操作します。
どの画面が開いていても、ホームキー を押すとこの OVERVIEW 画面に戻ります。
TF5/TF3/TF1 では、CH STRIP セクションが表示されます。

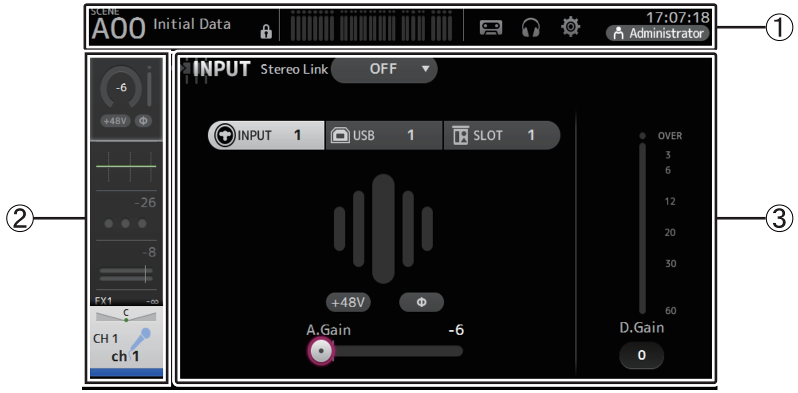


TF-RACK では、FADER セクションが表示されます。また、ホームキー を押すたびに、CH STRIP セクションと FADER セクションとが切り替わります。

OVERVIEW 画面については、P.47 で説明します。

専用画面

画面上の各要素をタッチして、専用画面を表示します。



① **ツールバー(→ P.11)**
頻繁に使用する機能のボタンを表示します。ボタンをタッチすると、専用画面がメイン表示部に表示されます。

② **ナビゲーション表示部**
メイン表示部に表示する画面を選択します。

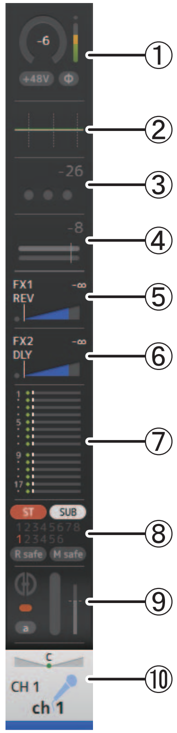
③ **メイン表示部(→ P.57)**
ツールバーやナビゲーション表示部で選んだ機能の専用画面を表示します。

■ナビゲーション表示部

選択しているチャンネルの各機能を表示します。
表示する機能を、上下にドラッグして切り替えます。

CH1 ～ CH32

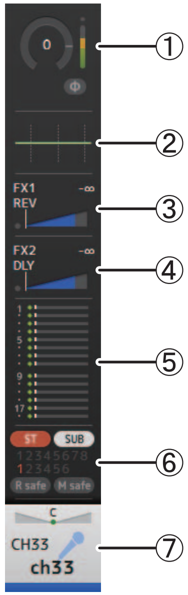
① INPUT 画面を表示します。(→ P.57)
② EQ 画面を表示します。(→ P.59)
③ GATE 画面を表示します。(→ P.63)
④ COMP 画面を表示します。(→ P.65)
⑤ FX1 画面を表示します。(→ P.67)
⑥ FX2 画面を表示します。(→ P.67)
⑦ SEND TO AUX 画面を表示します。(→ P.73)
⑧ ASSIGN 画面を表示します。(→ P.74)
⑨ AUTOMIXER 画面を表示します。(V3.5 以降)(→ P.74)
⑩ CH VIEW 画面を表示します。(→ P.76)



NOTE
AUTOMIXER 画面は CH1 ～ CH8 でのみ表示されます。

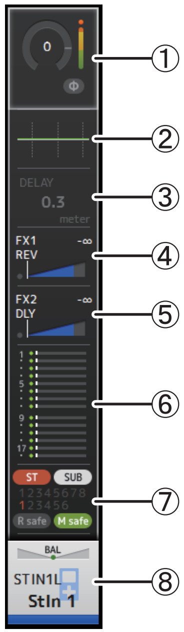
CH33 ～ CH40

① INPUT 画面を表示します。(→ P.57)
② EQ 画面を表示します。(→ P.59)
③ FX1 画面を表示します。(→ P.67)
④ FX2 画面を表示します。(→ P.67)
⑤ SEND TO AUX 画面を表示します。(→ P.73)
⑥ ASSIGN 画面を表示します。(→ P.74)
⑦ CH VIEW 画面を表示します。(→ P.76)



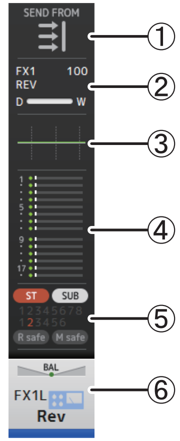
STIN1/2

① INPUT 画面を表示します。(→ P.57)
② EQ 画面を表示します。(→ P.59)
③ DELAY 画面を表示します。(→ P.92)
④ FX1 画面を表示します。(→ P.67)
⑤ FX2 画面を表示します。(→ P.67)
⑥ SEND TO AUX 画面を表示します。(→ P.73)
⑦ ASSIGN 画面を表示します。(→ P.74)
⑧ CH VIEW 画面を表示します。(→ P.76)



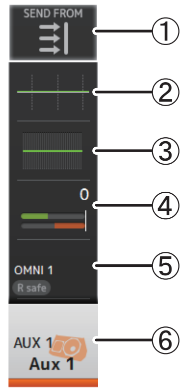
FX RTN 1/2

① SEND FROM 画面を表示します。(→ P.88)
② FX1/FX2 画面を表示します。(→ P.67)
③ EQ 画面を表示します。(→ P.59)
④ SEND TO AUX 画面を表示します。(→ P.73)
⑤ ASSIGN 画面を表示します。(→ P.74)
⑥ CH VIEW 画面を表示します。(→ P.76)



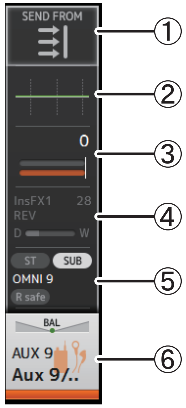
AUX1 ～ AUX8

① SEND FROM 画面を表示します。(→ P.88)
② EQ 画面を表示します。(→ P.59)
③ GEQ 画面を表示します。(→ P.85)
④ COMP 画面を表示します。(→ P.65)
⑤ OUTPUT 画面を表示します。(→ P.87)
⑥ CH VIEW 画面を表示します。(→ P.76)



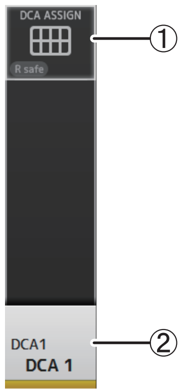
AUX9/10 ～ AUX19/20

① SEND FROM 画面を表示します。(→ P.88)
② EQ 画面を表示します。(→ P.59)
③ COMP 画面を表示します。(→ P.65)
④ INSFX 画面を表示します。(→ P.67)
⑤ OUTPUT 画面を表示します。(→ P.87)
⑥ CH VIEW 画面を表示します。(→ P.76)



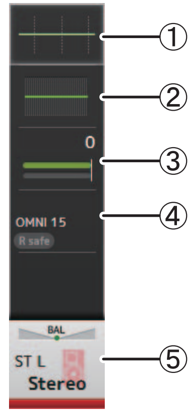
DCA1 ～ DCA8

① DCA ASSIGN 画面を表示します。(→ P.90)
② CH VIEW 画面を表示します。(→ P.76)



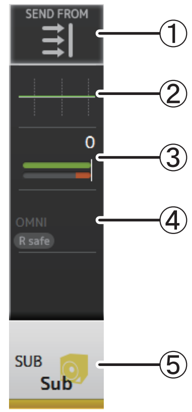
STEREO

① EQ 画面を表示します。(→ P.59)
② GEQ 画面を表示します。(→ P.85)
③ COMP 画面を表示します。(→ P.65)
④ OUTPUT 画面を表示します。(→ P.87)
⑤ CH VIEW 画面を表示します。(→ P.76)



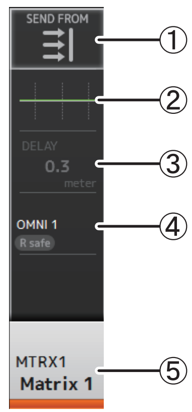
SUB

① SEND FROM 画面を表示します。(→ P.88)
② EQ 画面を表示します。(→ P.59)
③ COMP 画面を表示します。(→ P.65)
④ OUTPUT 画面を表示します。(→ P.87)
⑤ CH VIEW 画面を表示します。(→ P.76)



MATRIX1 ～ MATRIX4

① SEND FROM 画面を表示します。(→ P.88)
② EQ 画面を表示します。(→ P.59)
③ DELAY 画面を表示します。(→ P.92)
④ OUTPUT 画面を表示します。(→ P.87)
⑤ CH VIEW 画面を表示します。(→ P.76)



共通操作

トップパネルのディスプレイセクションのライブラリーキー、メニューキーを押したときに出る画面、各画面での共通操作について説明します。

ライブラリー画面

保存されているプリセットを呼び出します。

プリセットには、各ソースに適したチャンネルの設定が保存されています。プリセットを呼び出して大まかな設定ができた状態から各チャンネルの音作りを始めると、効率よい作業ができます。また、自身でよく使う設定を保存しておくこともできます。

① **チャンネル名表示**
チャンネル名情報を表示します。

② **カテゴリー選択ボタン**
タッチすると、カテゴリーの選択肢を表示します。
選択したカテゴリーのプリセットをリストに表示します。

③ **ライブラリー切り替えボタン**
操作の対象にするライブラリーを切り替えます。選択したライブラリーに保存されたプリセットをリストに表示します。
LIBRARY A：ライブラリーA に保存されたプリセットを表示します。
LIBRARY B：ライブラリーB に保存されたプリセットを表示します。

④ **リスト**
リストの項目名をタッチすると、タッチした項目の内容でソートします（Information を除く）。
プリセットをタッチすると選択できます。選択したプリセットはハイライト表示になり、保存、呼び出し、編集の対象にします。

 の欄をタッチすると、鍵アイコンが付いたり消えたりします。鍵アイコンを付けると、上書きを禁止することができます。
Date 欄には、最後に保存した日時を表示します。

⑤ **リコール対象選択**
チェックボックスがオンになっているパラメーターはリコールの対象になります。

インプットチャンネル
- HA：アナログゲイン / デジタルゲインの設定、ファンタム電源のオン / オフ、フェイズの設定
- Input Select：入力ソースの設定
- Name：チャンネル名、アイコン、チャンネルカラー

AUX1 ～ 8, STEREO チャンネル
- GEQ：GEQ の設定
- Name：チャンネル名、アイコン、チャンネルカラー

FX RTN, AUX9/10 ～ AUX19/20 チャンネル
- FX：エフェクトの設定
- Name：チャンネル名、アイコン、チャンネルカラー

SUB, MATRIX1 ～ 4 チャンネル
- Name：チャンネル名、アイコン、チャンネルカラー

⑥ **Recall CH ボタン**
選択中のチャンネルにプリセットをリコールします。

⑦ **Edit ボタン**
タッチすると、タイトルとコメントを編集する画面を表示します（SOFT KEYBOARD 画面→ P.10）。

⑧ **Store ボタン**
リストで選択しているプリセットに現在のチャンネルの設定を上書き保存します。

⑨ **Store As ボタン**
現在のチャンネルの設定を、新規プリセットとして保存します。
タッチすると、プリセット名を入力する画面を表示します（SOFT KEYBOARD 画面→ P.10）。

⑩ **プリセット数表示（V1.1 以降）**
プリセット数を表示します。分母がプリセットの全数、分子が ② カテゴリー選択ボタンで選択したカテゴリーのプリセット数です。

専用画面からライブラリー画面を開く

各専用画面からライブラリー画面を開くと、ライブラリー画面に下記のボタンが追加で表示されます。

Recall EQ ボタン
EQ 画面から呼び出したときに表示され、EQ の設定のみリコールできます。

Recall Gate ボタン
GATE 画面から呼び出したときに表示され、GATE の設定のみリコールできます。

Recall COMP ボタン
COMP 画面から呼び出したときに表示され、COMP の設定のみリコールできます。

Recall FX ボタン
FX 画面から呼び出したときに表示され、エフェクトの設定のみリコールできます。

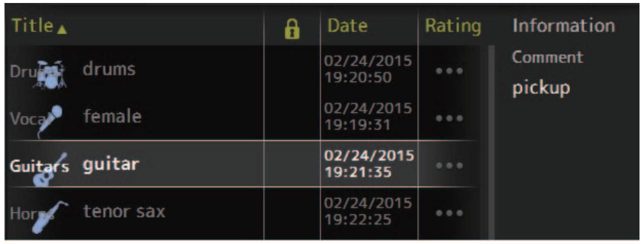
Recall GEQ ボタン
GEQ 画面から呼び出したときに表示され、GEQ の設定のみリコールできます。

プリセットをリコールする

1. ライブラリー切り替えボタンをタッチして、目的のプリセットを格納しているライブラリーを選択する

プリセットのリストを表示します。

プリセットのリスト



リストの項目名をタッチすると、タッチした項目の内容でソートします(Information を除く)。

2. 目的のプリセットをタッチして選択する

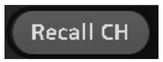
選択したプリセットはハイライト表示になります。

3. リコール対象を選択する

各設定をリコールするかどうかをチェックボックスで選びます。

4. Recall CH ボタンをタッチする

選択中のチャンネルにプリセットをリコールします。



プリセットを編集する

1. プリセットをリコールする

2. Edit ボタンをタッチする

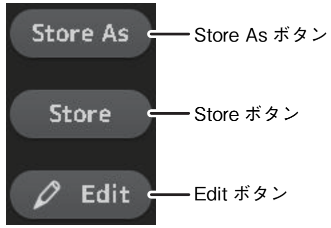
タイトルとコメントを編集する画面を表示します(SOFT KEYBOARD 画面→ P.10)。

目的の項目を編集してください。

3. Store ボタンまたは Store As ボタンをタッチする

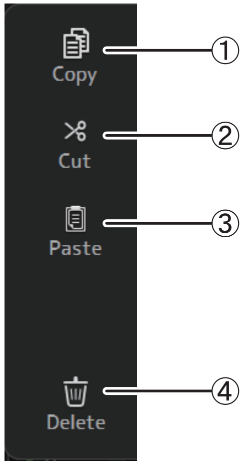
Store ボタン: リストで選択しているプリセットに現在のチャンネルの設定を上書き保存します。

Store As ボタン: 現在のチャンネルの設定を、新規プリセットとして保存します。



Library 画面のメニュー

Library 画面でメニューキー ( ) を押すと、以下のメニューアイコンが表示されます。



① **Copy**
選択しているプリセットをコピーします。

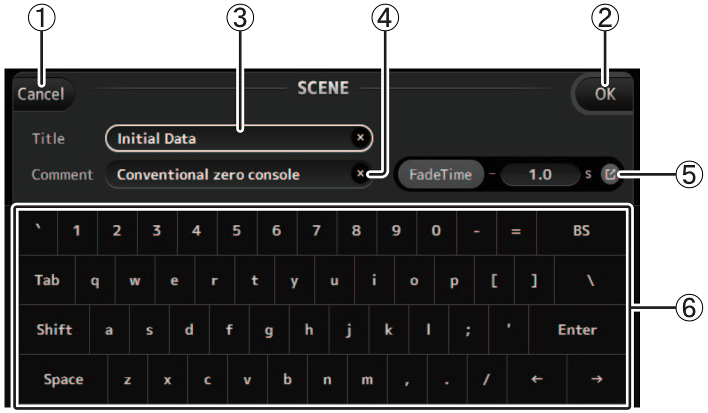
② **Cut**
選択しているプリセットを切り取ります。

③ **Paste**
表示しているリストに、コピーや切り取りしたプリセットをペーストします。

④ **Delete**
選択しているプリセットを削除します。

SOFT KEYBOARD 画面

タイトル名やコメントを編集します。画面によって表示される内容は異なります。



① Cancel ボタン
編集を無効にし、元の画面に戻ります。

② OK ボタン
編集結果を保存します。

③ Title 欄
シーンの名称を入力します。

④ Comment 欄
付加情報を入力します。

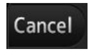
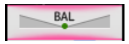
⑤ FadeTime 設定
シーンで使用するフェードタイムのオン / オフと、フェードタイムを設定します。右端にあるボタンをタッチすると、FADE TIME 画面(→ P.14)に移動します。

⑥ キーボード
タッチした文字を入力します。

メニュー

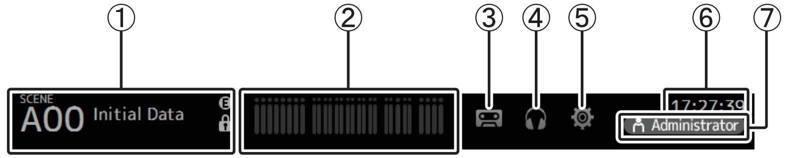
現在の画面で操作できるメニューを表示します。メニューの内容は、表示している画面によって変わります。表示されるメニューの内容については、各画面の説明をご参照ください。

ボタン / スライダーの操作

ディスプレイの表示	文中の表記	説明
	クローズボタン［×］	タッチすると、現在の画面を閉じます。
	OK ボタン	現在の状態で設定します。
	Cancel ボタン	操作を中止し、前の画面に戻ります。
	クリアボタン	入力した情報を消去します。
	ジャンプマーク	関係する画面を表示します。
	スライダー	タッチするとピンク色で点滅し、操作できる状態になります。 ディスプレイのスライダーをドラッグして設定できますが、［TOUCH AND TURN］ノブを回しても設定できます。
	パンスライダー	タッチするとピンク色で点滅し、[TOUCH AND TURN] ノブで操作できる状態になります。
	バランススライダー	
	編集マーク	キーボード画面など、情報を編集する画面を表示します。
	メニュー	「▼」マークがあるボタンをタッチすると、メニューを表示します。
	テキストボックス	数値を入力するテキストボックスでは、タッチするとピンク色で点滅し、設定変更可能状態になります。 ピンク色で点滅しているときにタッチすると、数値を入力する画面を表示します。 ［TOUCH AND TURN］ノブを回しても設定できます。 テキストを入力するテキストボックスでは、タッチするとSOFT KEYBOARD 画面が開きます。
オンの状態（例）： オフの状態（例）：	オン / オフ	タッチして、機能の有効（オン）/ 無効（オフ）を切り替えます。

ツールバー

ツールバーには、頻繁に使用する機能や、システム設定をする画面へのアイコンが用意されています。
メイン表示部の表示を切り替えても、ツールバーは常に表示します。



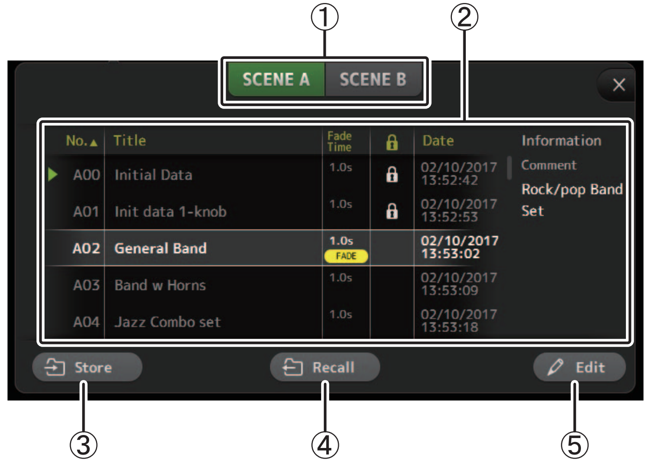
① SCENE 画面を表示します。
② METER 画面を表示します。(→ P.14)
③ RECORDER 画面を表示します。(→ P.15)
④ MONITOR 画面を表示します。(→ P.19)
⑤ SETUP 画面を表示します。(→ P.22)(V3.0 以降)
⑥ 現在時刻を表示します。(→ P.42)
⑦ LOGIN 画面を表示します。(→ P.44)(V3.0 以降)
アイコンには現在ログインしているユーザー名が表示されます。また、下記の 4 つの場合に、ステータスを表示します。
ACCESS：USB 端子に接続した USB ストレージデバイスにアクセス中
CUE：キューがオンになっている
OSCILLATOR：オシレーターがオンになっている
Quick Config：クイックコンフィグを設定している(V2.0 以降)

専用画面を表示する

各アイコンをタッチすると専用画面を表示します。
再度同じアイコンをタッチするか、右上のクローズボタン[×]をタッチすると元の画面に戻ります。

SCENE 画面

ミキサーの設定を保存した「シーン」を管理する画面です。
また、シーンを呼び出すときには、特定の設定の呼び出しを除外することもできます(リコールセーフ)。



① **シーンリスト切り替えボタン**
表示するシーンリストを切り替えます。
SCENE A：シーンリスト A を表示します。
SCENE B：シーンリスト B を表示します。

② **シーンリスト**
保存されたシーンをリスト表示します。
リストの項目名をタッチすると、タッチした項目の内容でソートします(Information を除く)。
シーンをタッチすると選択できます。選択したシーンはハイライト表示になり、保存、呼び出し、編集の対象になります。
現在呼び出しているシーンの先頭には、緑の三角マークが付きます。
の欄をタッチすると、鍵アイコンが付いたり消えたりします。鍵アイコンを付けると、上書きを禁止できます。
Date 欄には、最後に保存した日時が表示されます。
Fade Time 欄(V4.0 以降)には、Fade Time 機能が有効かどうかと、設定時間が表示されます。

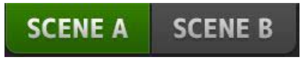
③ Store ボタン
現在のミキサーの設定をシーンリストで選択されている番号のシーンに保存します。
タッチすると、タイトルとコメントを編集する画面を表示します（SOFT KEYBOARD 画面→P.10）。

④ Recall ボタン
シーンリストで選択しているシーンを呼び出します。

⑤ Edit ボタン
タッチすると、タイトルとコメントを編集する画面を表示します（SOFT KEYBOARD 画面→P.10）。

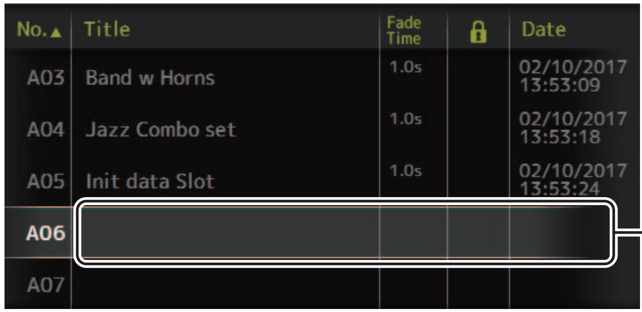
現在のセッティングを新しいシーンに保存する

1. ツールバーのシーンエリアをタッチする



2. シーンリスト切り替えボタンをタッチして、シーンを保存するシーンリストを選択する
シーンリストを表示します。

3. 空のシーンをタッチする



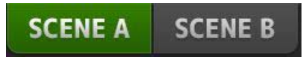
空のシーン

4. Store ボタンをタッチする
タイトル、コメント、フェードタイムを編集する画面を表示します（SOFT KEYBOARD 画面→P.10）。
目的の項目を編集してください。

5. OK ボタンをタッチする
現在のセッティングが新しいシーンとして保存されます。

シーンを呼び出す

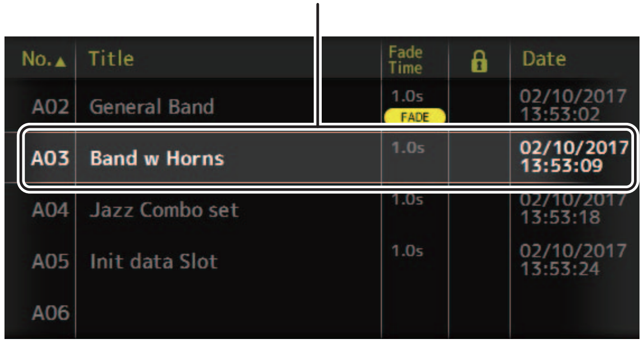
1. シーンリスト切り替えボタンをタッチして、目的のシーンを格納しているシーンリストを選択する



シーンリストを表示します。

2. 目的のシーンをタッチして選択する
選択したシーンはハイライト表示になります。
リストの項目名をタッチすると、タッチした項目の内容でソートします（Information を除く）。

選択したシーン



3. Recall ボタンをタッチする

シーンに保存されているミキサーの設定をリコールします。
リコールしたシーン名は、画面の左上に表示します。

シーンを編集する

1. 編集するシーンを選択する

2. Edit ボタンをタッチする
タイトル、コメント、フェードタイムを編集する画面を表示します（SOFT KEYBOARD 画面→P.10）。
目的の項目を編集してください。

3. OK ボタンをタッチする
シーンリストで選択しているシーンに上書き保存します。

シーンのフェードタイムを設定する(V4.0 以降)

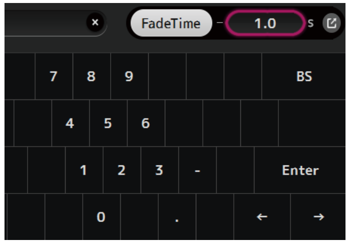
1. フェードタイムを設定するシーンを選択する

2. Edit ボタンをタッチする

タイトル、コメント、フェードタイムを編集する画面を表示します(SOFT KEYBOARD 画面→P.10)。

3. フェードタイムをオンにするには、FadeTime ボタンをタッチして、オフにするにはもう一度タッチする

4. フェードタイムを設定するには、フェードタイム表示をタッチして、キーボードで入力する

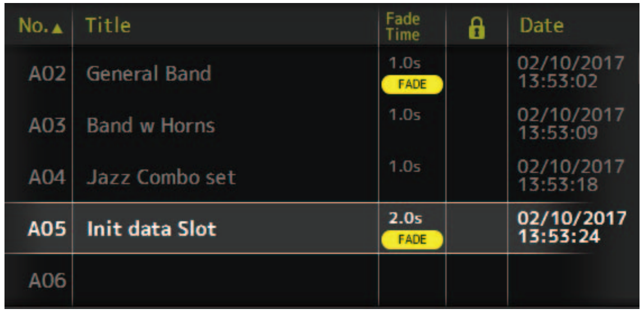


5. チャンネルごとにフェードタイムのオン / オフを設定するには、右端のボタンをタッチする

6. FADE TIME 画面で、チャンネルごとにオン / オフを設定する

7. OK ボタンをタッチする

シーンにフェードタイムが設定されます。

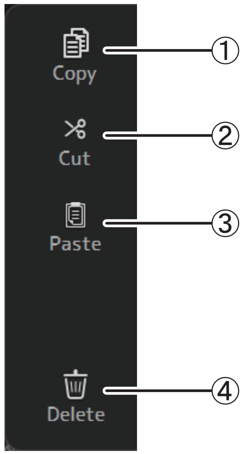


NOTE

- 移動中のフェーダーを、対応する [SEL] キーを押しながら止めると、その位置でフェード効果が停止します。
- フェーダー移動中に同じシーンをリコールすると、すべてのチャンネル/DCA グループのフェーダーが、目的の位置にすぐに移動します。

SCENE 画面のメニュー

SCENE 画面でメニューキー を押すと、以下のメニューアイコンが表示されます。



① **Copy**
選択しているシーンの設定をコピーします。

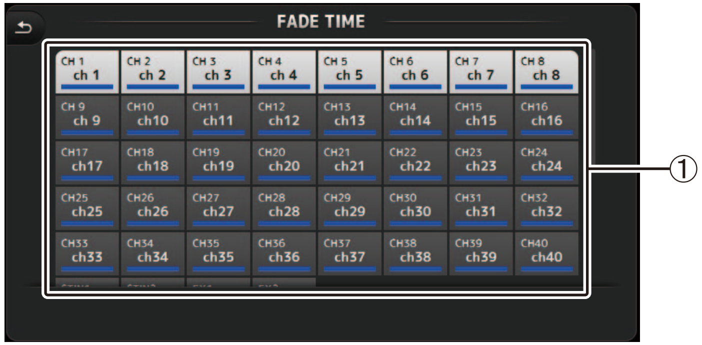
② **Cut**
選択しているシーンの設定を切り取ります。

③ **Paste**
現在表示しているリストに、コピーや切り取りしたシーンをペーストします。

④ **Delete**
選択しているシーンを削除します。

FADE TIME 画面(V4.0 以降)

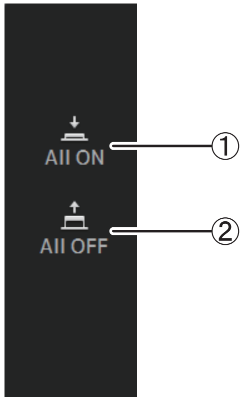
シーンのフェードタイムを反映するチャンネルを、個別にオン / オフできます。



① **チャンネルボタン**
フェードタイムを反映するチャンネルを個別にオン / オフします。白くなっているとオンの状態です。

FADE TIME 画面のメニュー

FADE TIME 画面でメニューキー ( ) を押すと、以下のメニューアイコンが表示されます。

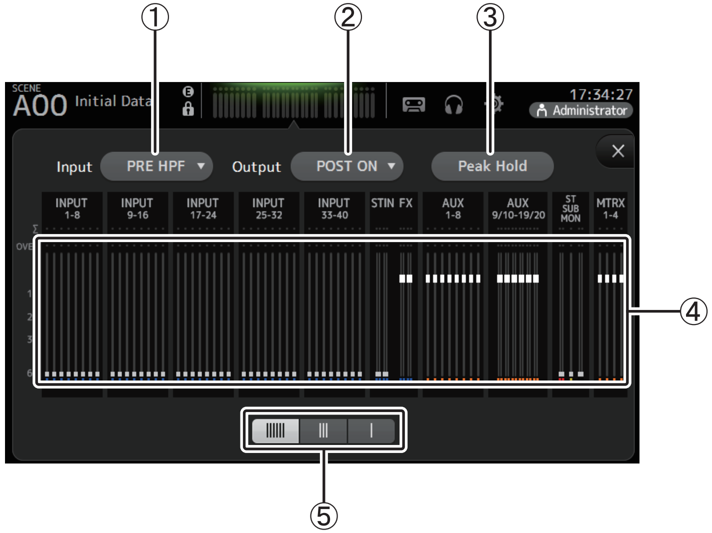


① All ON
すべてのチャンネルのフェードタイムをオンにします。

② All OFF
すべてのチャンネルのフェードタイムをオフにします。

METER 画面

すべてのチャンネルの入出力レベルを表示したり、レベルメーターのメーターポイント(レベルを検出する位置)を切り替えたりできます。



① **入力メーターポイント選択メニュー**
入力レベルを計測するポイントをメニューから選択します。
PRE HPF：ヘッドアンプの直後(HPF の直前)
PRE FADER：フェーダーの直前
POST ON：[ON]キーの直後

② **出力メーターポイント選択メニュー**
出力レベルを計測するポイントをメニューから選択します。
PRE EQ：EQ の直前
PRE FADER：フェーダーの直前
POST ON：[ON]キーの直後

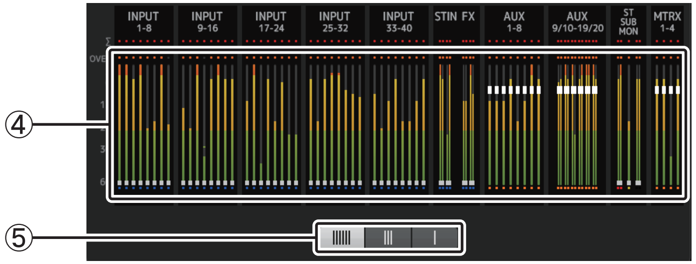
③ **Peak Hold ボタン**
オンにすると、各メーターのピークが保持されます。オフにすると、それまで保持されていたピークレベルの表示がクリアされます。Peak Hold ボタンのオン / オフは、インプット系 / アウトプット系チャンネルの両方に影響します。

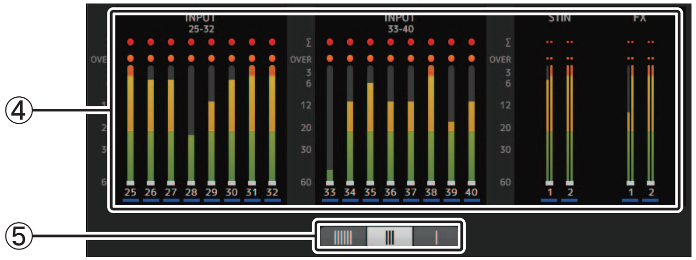
NOTE

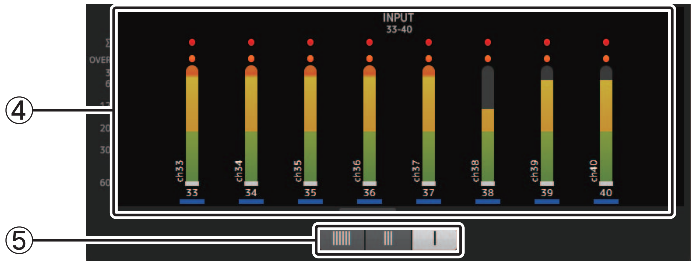
USER DEFINED キーに、Peak Hold ボタンのオン / オフを切り替える機能を割り当てることもできます。(→ P.27)

④ **メーター**
チャンネルの入力または出力レベルを表示します。

⑤ **メーター表示切り替えボタン**
表示するメーターの本数を切り替えます。3 種類の表示があります。







RECORDER 画面(INPUT/OUTPUT/TITLE LIST 画面)

iPad 端子に接続された USB ストレージデバイスへの録音やオーディオファイルの再生や管理などをします。

TF シリーズには、iPad 端子に USB ストレージデバイスを接続して内部信号をオーディオファイルとして録音したり、USB ストレージデバイス内のオーディオファイルを再生したりする機能が搭載されています。
また、iPad 端子に、iPad, iPhone などの iOS 機器を接続して iOS 機器からのオーディオ出力をミキサーに入力できます。

録音時のファイルフォーマットはサンプルレート 48kHz, 24bit, ステレオの WAV フォーマットになります。
また、再生時には MP3(MPEG-1 Audio Layer-3)ファイルも再生できます。

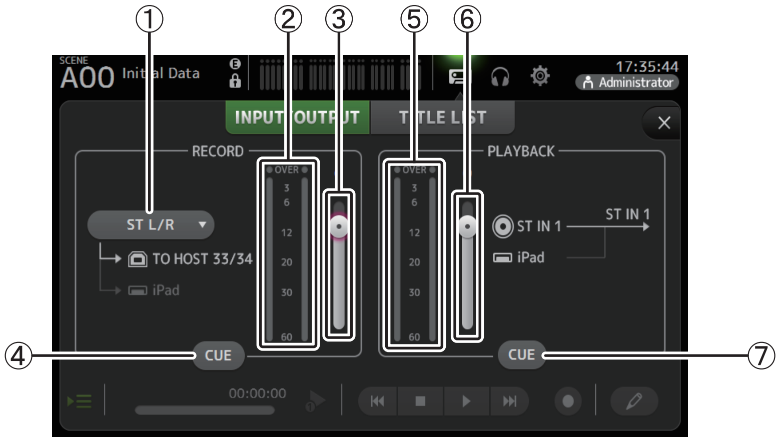
この機能を使えば、STEREO バスや AUX バスに出力されている信号を USB ストレージデバイスに録音したり、iPad や USB ストレージデバイスに保存した BGM や効果音を ST IN 1 チャンネルに入力したりできます。

NOTE

- 録音と再生は同時に行なえません。
- 録音中の信号を INPUT チャンネルに入力することはできません。
- 使用できる USB ストレージデバイスは FAT32 でフォーマットされたものだけです。必要に応じて(トップパネル右側の)USB 端子に接続して SAVE/LOAD 画面のコンテキストメニューからフォーマットをしてください。
- セクターサイズが 512 バイトの USB ストレージデバイスをご使用ください。(2TB を超える HDD はご使用になれません。)
- アロケーションユニットサイズが 4096 バイト未満の USB ストレージデバイスはご使用になれません。(容量が小さい USB メモリーが該当する場合があります。)
- 録音には HDD、SSD など書き込み速度の速いデバイスをご使用ください。USB メモリー、iOS 機器は再生のみの対応です。
- 再生できる MP3 ファイルは、サンプルレート 44.1 kHz または 48 kHz、ビットレートが 128kbps ~ 320kbps のものです。VBR(可変ビットレート)のファイルも再生できますが、曲の長さや経過時間が正しく表示されません。
- TF StageMix からの操作を実現するため、同じフォルダ内のオーディオファイル数を 150 までに制限しています。フォルダ数含めて 150 を超える場合は曲名リストに表示されません。150 曲を超える場合は、フォルダを分けてご使用ください。(V4.0 以降)

INPUT/OUTPUT 画面

録音の入出力を操作します。



① **録音ソース選択メニュー**
タッチすると表示されるメニューから、録音するソースを選びます。
ここで選択された録音ソースが同時に USB TO HOST 端子の 33 チャンネルと 34 チャンネルにも出力されます。
V3.5 以降では、MTRX 1/2、MTRX 3/4 も選択できます。

② **録音レベルメーター**
録音レベルを表示します。

③ **録音レベルスライダー**
録音レベルを設定します。

④ **録音 CUE ボタン**
録音ソースのキューのオン / オフを切り替えます。

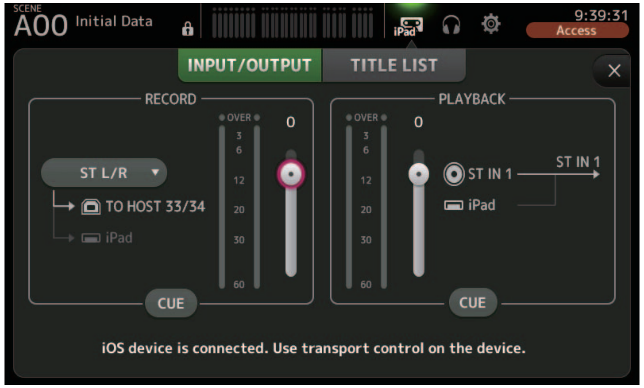
⑤ **再生レベルメーター**
再生レベルを表示します。

⑥ **再生レベルスライダー**
再生レベルを設定します。

⑦ **再生 CUE ボタン**
再生ソースのキューのオン / オフを切り替えます。

NOTE

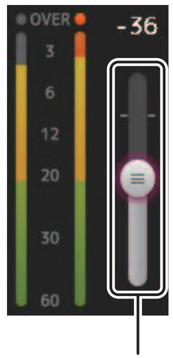
iPad などの iOS 機器を接続した場合は、「iOS device is connected. Use transport control on the device.」と画面に表示され、再生ボタンなどが表示されません。iOS 機器側のアプリケーションで操作してください。



入力を設定する

1. 録音ソース選択メニューをタッチし、録音ソースをメニューから選択する

2. 録音レベルスライダーをドラッグして、録音レベルを設定する

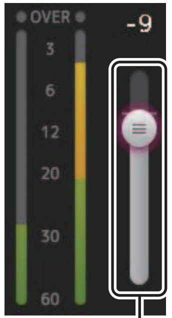


録音レベルスライダー

3. 録音ソースをモニターして確認するときは、録音 CUE ボタンを
タッチしてオンにする

出力を設定する

1. 再生レベルスライダーをドラッグして、再生レベルを設定する

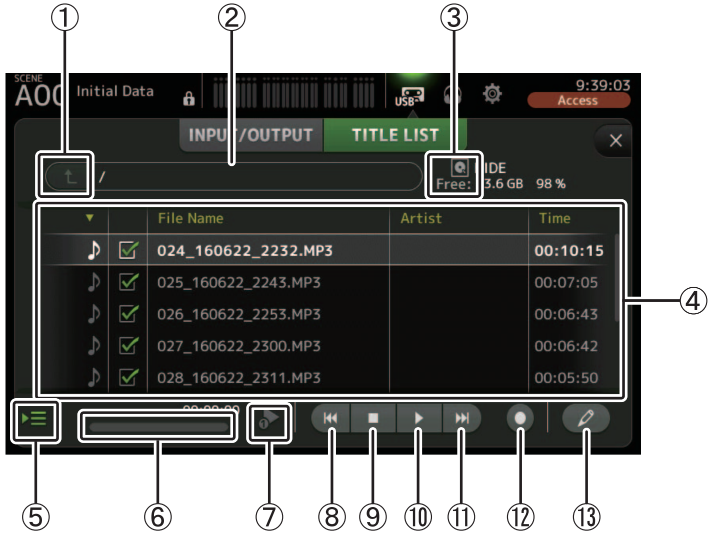


再生レベルスライダー

2. 再生 CUE ボタンをタッチしてオンにする

TITLE LIST 画面

iPad 端子に接続した USB ストレージデバイスの曲ファイルを再生したり、USB ストレージデバイスに 2MIX ソースを録音します。



① **ディレクトリー移動ボタン**
カレントディレクトリーを 1 階層上に移動します。

② **カレントディレクトリー情報**
USB ストレージデバイスのカレントディレクトリーのパスを表示します。

③ **USB ストレージデバイス情報**
USB ストレージデバイスのボリューム名を表示します。
USB ストレージデバイスの空き容量を残量とパーセントで表示します。

④ **曲名リスト**
カレントディレクトリー内の曲ファイルを表示します。
リストの項目名をタッチすると、タッチした項目の内容でソートします。
曲ファイル名をタッチすると選択でき再生、編集ができます。
音符アイコンをタッチすると、再生を開始または一時停止します。
チェックボックスが有効な場合は、全曲再生時、再生の対象のファイルになります。
File Name 欄にはファイル名を表示します。
Artist 欄にはアーティスト情報が（MP3 ファイルのみ）、Time 欄には曲の長さを表示します。

フォルダ数含めて 150 を超える場合は、曲名リストにファイルが表示されず ⑤ ～ ⑬ の操作はできません。
この場合、「Recorder supports a maximum of 150 items in a folder. Please remove some files from this folder to continue.」と表示されます。(V4.0 以降)

⑤ 再生自動追従設定ボタン
全曲再生時の曲に応じて曲名リスト内のハイライト表示が追従する機能のオン / オフを切り替えます。

⑥ 曲ファイル情報表示インジケーター
MP3 ファイルの再生中は、ファイルのビットレートと再生位置を表示します。
WAV ファイルの再生中は、ファイルのサンプルレートと再生位置を表示します。
録音中は、WAV ファイルのサンプルレートと録音経過時間を表示します。

⑦ プレイモード設定ボタン
ループ再生機能を設定します。
タッチするたびに、機能が切り替わります。

：1 曲を 1 度再生します(SINGLE)。

：1 曲を繰り返し再生します(SINGLE REPEAT)。

：曲名リストでチェックがオンになっている全曲を 1 度再生します(ALL)。

：曲名リストでチェックがオンになっている全曲を繰り返し再生します(ALL REPEAT)

⑧ PREVIOUS ボタン
タッチすると、曲の先頭または前曲の先頭に再生位置を移動します。

⑨ 停止ボタン
録音 / 再生を停止します。

⑩ 再生 / 一時停止ボタン
曲の再生 / 一時停止をします。

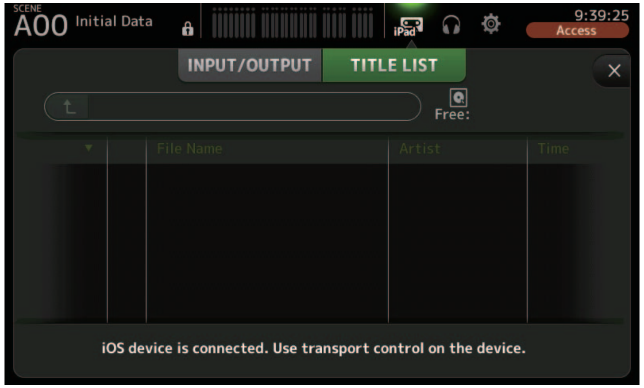
⑪ NEXT ボタン
次曲の先頭に再生位置を移動します。

⑫ 録音ボタン
録音待機状態にします。フォルダ内のオーディオファイル数がフォルダ数含め 150 を超える場合は録音ボタンは操作できません。

⑬ ファイル名編集ボタン
ファイル名編集画面を表示します。

NOTE

iPad などの iOS 機器を接続した場合は、「iOS device is connected. Use transport control on the device.」と画面に表示され、再生ボタンが表示されません。iOS 機器側のアプリケーションで操作してください。



録音する

1. USB ストレージデバイスを iPad 端子に接続する

2. 録音ボタンをタッチする
録音ボタンが点滅して、録音待機状態になります。

3. 録音開始のタイミングになったら、再生 / 一時停止ボタンをタッチする
録音中は、録音ボタンが点灯します。
再生 / 一時停止ボタンで、録音の中断 / 再開ができます。

4. 録音終了のタイミングになったら、停止ボタンをタッチする
ファイル名は内蔵時計の日時から自動生成されます。

5. 必要に応じてファイル名編集ボタンを押して、ファイル名を変更する

USB ストレージデバイスの曲を再生する

1. 曲名リストの再生する曲をタッチする

異なるディレクトリーの曲を再生する場合は、ディレクトリー移動ボタンをタッチして、目的の曲があるディレクトリーを表示してください。

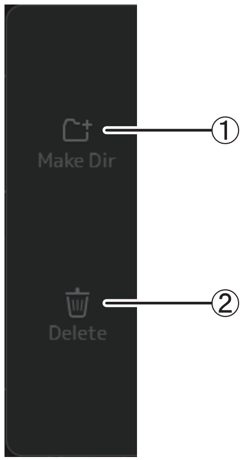
2. プレイモード設定ボタンをタッチして、プレイモードを選択する

3. 再生ボタンをタッチする

再生を開始します。

RECORDER 画面のメニュー

RECORDER 画面でメニューキー（≡）を押すと、以下のメニューアイコンが表示されます。



① **Make Dir**

カレントディレクトリーに新規ディレクトリーを作成します。フォルダ内のオーディオファイル数がフォルダ数含め 150 を超える場合は Make Dir は操作できません。

② **Delete**

選択されているファイルを削除します。

MONITOR 画面

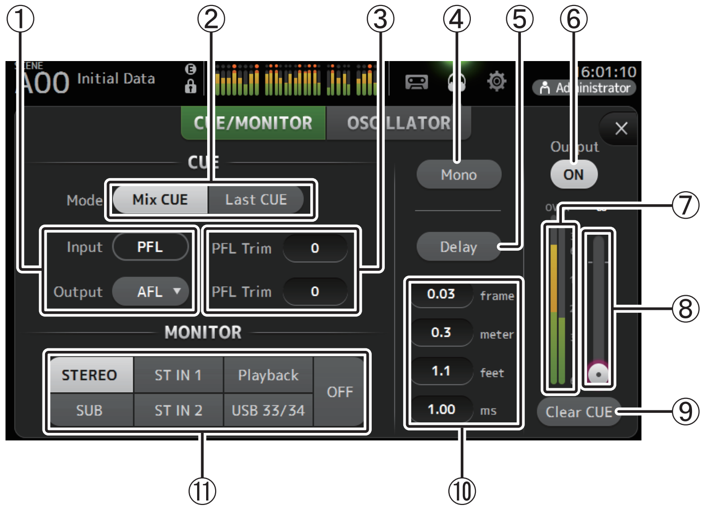
CUE やモニターのソース選択とオシレーターの操作をします。

CUE/MONITOR 画面では、ヘッドフォンやニアフィールドモニターで確認する信号の操作をします。常時モニターするソースの選択や、個々のチャンネルをモニターする CUE 機能を操作します。

OSCILLATOR 画面では、オシレーターの設定状況を確認したり、オシレーターのオン / オフを切り替えたりできます。TF シリーズにはサイン波やピンクノイズを任意のバスに出力するオシレーターが内蔵されており、外部機器のチェックや会場の特性をテストするのに利用できます。

CUE/MONITOR 画面

各チャンネルの音声入力が正しいかヘッドフォンなどでチェックします。また、モニターするソースの選択やモニター音のモノラル化、ディレイを操作します。



① **CUE ポイント選択ボタン**

チェックする位置を選択します。

PFL：フェーダーの直前

AFL：フェーダーの直後（インプットは、PFL（フェーダーの直前）に固定）

② **CUE モードボタン**

CUE のモードを切り替えます。

Mix CUE：複数チャンネルの CUE が有効になります。

Last CUE：最後に操作したチャンネルだけ CUE が有効になります。

③ PFL Trim 設定テキストボックス(V3.5 以降)
PFL を選択したときの CUE モニターの音量を調節します。設定範囲は -30dB ～ +20dB です。
タッチすると、それぞれの数値を入力する画面を表示します(→ P.10)。

④ Mono ボタン
オンにすると、モニター信号がモノラルになります。

⑤ Delay ボタン
モニター信号を遅延させます。

⑥ モニターアウトプットボタン
モニター出力のオン / オフを切り替えます。
[PHONES] 端子にはこの設定にかかわらず信号が出力されます。

⑦ モニターレベルメーター
モニター信号のレベルを表示します。

⑧ モニターレベルスライダー
モニターの出力レベルを設定します。
[PHONES] 端子にはこの設定にかかわらず信号が出力されます。

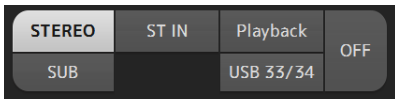
⑨ Clear CUE ボタン
キューを一括してクリアします。

⑩ ディレイ設定テキストボックス
ディレイを、frame(フレーム、V3.5 以降)、meter(メートル)、feet(フィート)、または ms(ミリ秒)で指定できます。
タッチすると、それぞれの数値を入力する画面を表示します(→ P.10)。

⑪ モニター選択ボタン
モニターソースを選択します。

TF5/TF3/TF1

TF-RACK

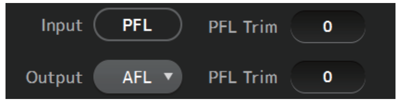


音声入力をチェックする

1. CUE モードボタンをタッチして、キューモードを選択する

2. モニター選択ボタンをタッチして、モニターソースを選択する

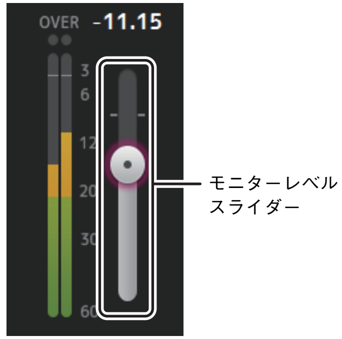
3. CUE ポイント選択ボタンをタッチして、チェックする位置を選択する



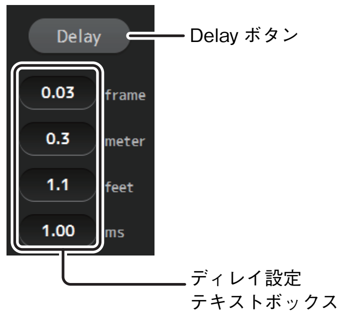
4. PFL Trim 設定テキストボックスをタッチして、CUE モニターの音量を設定する

5. モニターアウトプットボタンをタッチして、モニター出力のオン / オフを切り替える

6. モニターレベルスライダーをドラッグしてモニターレベルを調整する



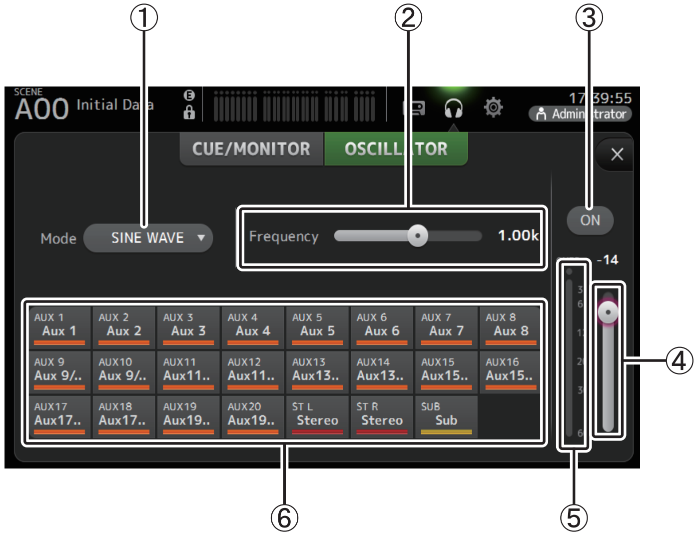
7. ディレイ間隔を設定する
ディレイ設定テキストボックスをタッチすると、ディレイの値を入力する画面を表示します。frame(フレーム)、meter (メートル)、feet(フィート)、または ms(ミリ秒)で指定できます。フレームレートは、PREFERENCE 画面の Others セクションで設定します。(→ P.26)



8. Delay ボタンをタッチする
ディレイが有効になります。

OSCILLATOR 画面

オシレーターの詳細設定を行ないます。



① **オシレーターモードボタン**
使用するオシレーターを次の 3 つから選択します。
SINE WAVE: サイン波を連続的に出力します。
PINK NOISE: ピンクノイズを連続的に出力します。
BURST NOISE: ピンクノイズを断続的に出力します。

② **パラメーターフィールド**
オシレーターモードに応じて、設定できるパラメーターが表示されます。
オシレーターモードが SINE WAVE のとき、Frequency(オシレーターの周波数)を設定します。
オシレーターモードが BURST NOISE のとき、Width(ノイズの長さ)と Interval(ノイズとノイズの間隔の長さ)を設定します。
オシレーターモードが PINK NOISE のときは、何も表示されません。

③ **オシレーター出力ボタン**
オシレーターの出力のオン / オフを切り替えます。オンにすると、オシレーターの信号がアサインボタンで選んだインプットチャンネルやバスに送ります。

④ **オシレーター出力レベルスライダー**
オシレーターの出力レベルを調整します。

⑤ **オシレーター出力レベルメーター**
オシレーターの出力レベルを表示します。

⑥ **オシレーターアサインボタン**
オシレーターの出力信号を送るチャンネルを選択します。ボタンをタッチして個々のチャンネルを指定します(複数選択可)。

オシレーターを設定する

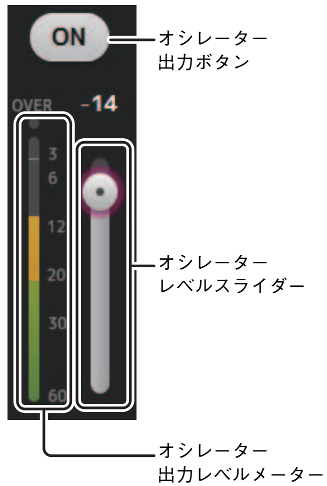
1. オシレーターモードボタンをタッチして、動作モードを選択する

2. オシレーターアサインボタンをタッチして、オシレーター信号を送るチャンネルを選択する

3. オシレーター出力ボタンをタッチして、オシレーターの出力をオンにする

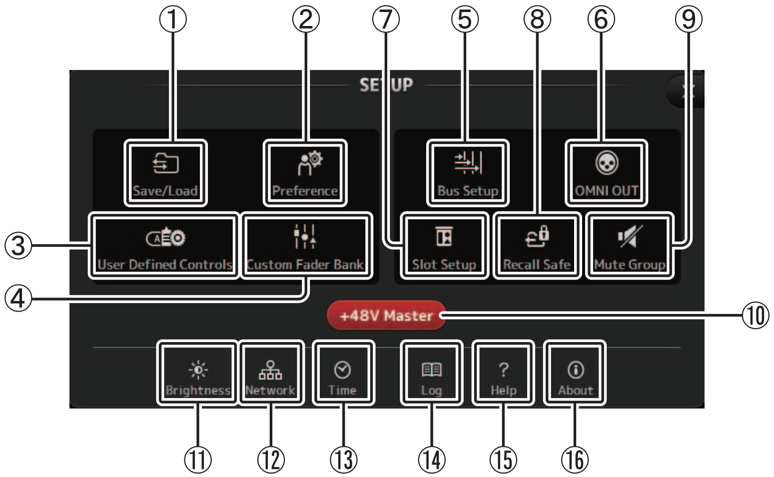
4. オシレーター出力レベルメーターで出力レベルを確認し、オシレーターレベルスライダーをドラッグして、出力レベルを調整する

オシレーターモードが SINE WAVE のときは、オシレーターの周波数も調整できます。
オシレーターモードが BURST NOISE のときは、ノイズの幅(Width)と間隔(Interval)も調整できます。



SETUP 画面(V3.0 以降)

ミキサー全体の設定や OMNI OUT の設定、リコールセーフの設定、ユーザーデファインドキーやノブのアサイン、カスタムフェーダーバンクの設定、その他プリファレンスなどの設定をします。



① Save/Load アイコン(→ P.23)
SAVE/LOAD 画面を表示します。

② Preference アイコン(→ P.25)
PREFERENCE 画面を表示します。

③ User Defined Control アイコン(→ P.27)
USER DEFINED CONTROLS 画面を表示します。

④ Custom Fader Bank アイコン(→ P.32)
CUSTOM FADER BANK 画面を表示します。

⑤ Bus Setup アイコン(→ P.33)
BUS SETUP 画面を表示します。

⑥ OMNI OUT アイコン(→ P.34)
OMNI OUT 画面を表示します。

⑦ Slot Setup アイコン(V2.0 以降)(→ P.34)
SLOT SETUP 画面を表示します。

⑧ Recall Safe アイコン(→ P.38)
RECALL SAFE 画面を表示します。

⑨ Mute Group アイコン(V4.0 以降)(→ P.39)
MUTE GROUP ASSIGN 画面を表示します。

⑩ +48V Master ボタン
本体のファンタム電源全体のマスターのオン / オフを切り替えます。このボタンがオフのときは、各チャンネルの INPUT 画面(→ P.57)にある +48V ボタンをオンにしても、ファンタム電源は供給されません。

⑪ Brightness アイコン(→ P.40)
BRIGHTNESS 画面を表示します。

⑫ Network アイコン(→ P.41)
NETWORK 画面を表示します。

⑬ Time アイコン(→ P.42)
TIME 画面を表示します。

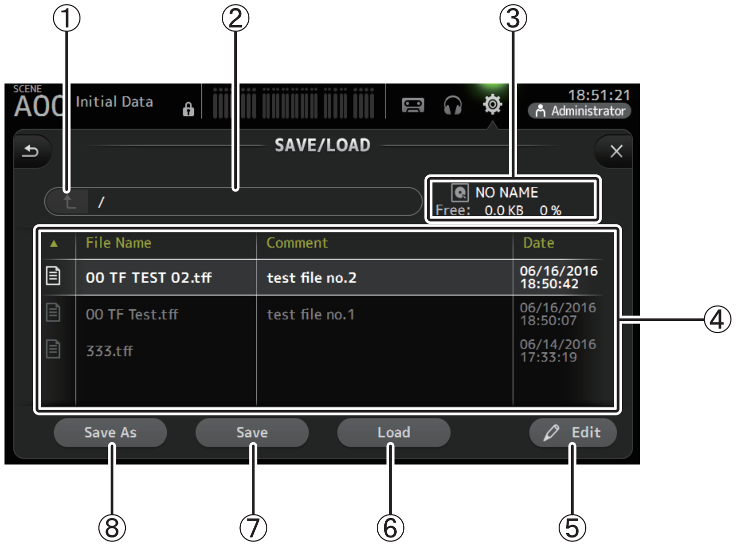
⑭ Log アイコン(→ P.42)
LOG 画面を表示します。

⑮ Help アイコン(→ P.43)
HELP 画面を表示します。

⑯ About アイコン(→ P.43)
ABOUT 画面を表示します。

SAVE/LOAD 画面

保存されているファイルやサブディレクトリーが表示されます。



① **ディレクトリー移動ボタン**
カレントディレクトリーを一つ上のディレクトリーに移動します。
カレントディレクトリーが一番上の階層の場合は、グレーアウトします。

② **カレントディレクトリー表示**
現在のディレクトリー(カレントディレクトリー)名が表示されます。

③ **ボリューム名表示**
USB ストレージデバイスのボリューム名と空き容量が表示されます。

④ **ファイルリスト**
USB ストレージデバイスに保存されているファイルやサブディレクトリーが表示されます。反転した行は、操作対象として選ばれていることを表わしています。
ファイルリストの以下の項目名をタッチすると、リストが並び替わります。タッチするごとに並び替え順が昇順と降順に切り替わります。
File Name:ファイル名またはディレクトリー名と、そのタイプを示すアイコンが表示されます。
Comment:TF シリーズのファイルに入れたコメントが表示されます。Edit ボタンをタッチすると、ファイルにコメントを入力するキーボード画面(→ P.10)が表示されます。
Date:ファイルの「更新日時」が表示されます。

⑤ **Edit ボタン**
ファイル名、コメントを編集する画面を表示します。

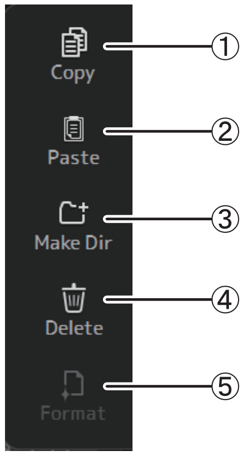
⑥ **Load ボタン**
選択している TF シリーズ設定ファイルをロードします。
Load ボタンを押すと、LOAD SELECT 画面が表示されます。(V2.0 以降)

⑦ **Save ボタン**
TF シリーズの内部設定を一括して上書き保存します。

⑧ **Save As ボタン**
TF シリーズの内部設定を一括して新しいファイルとして保存します。

SAVE/LOAD 画面のメニュー

SAVE/LOAD 画面でメニューキー を押すと、以下のメニューアイコンが表示されます。



① **Copy**
選択しているファイルをコピーします。

② **Paste**
選択しているディレクトリーにファイルをペーストします。

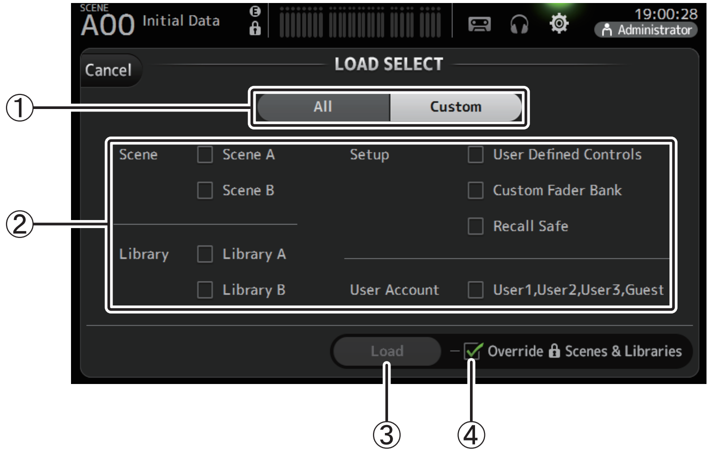
③ **Make Dir**
ディレクトリーを新たに作成します。

④ **Delete**
選択しているファイルを削除します。

⑤ **Format**
接続している USB ストレージデバイスを初期化します。

LOAD SELECT 画面(V2.0 以降)

TF シリーズの設定ファイルをロードするときに、ロードする内容を設定します。



① **All/Custom 選択ボタン**
ロード対象のデータを切り替えます。All のときはすべてのデータがロードされます。
Custom のときは、ロード対象を選択するチェックボックスが表示されます。

② **ロード対象選択チェックボックス**
ロードしたい項目にチェックを入れます。
User Account チェックボックスは、All と Custom のどちらにも表示され、Administrator でログインしているときだけチェックを操作できます。

③ **Load ボタン**
タッチすると設定データをロードします。

④ **Override Protected Scenes & Libraries チェックボックス**
オンにすると、設定データをロードしたときにプロテクトをかけたシーンとライブラリーも消去されます。プロテクトをかけたシーンやライブラリーを残しておきたいときは、このチェックを外してオフにします。

SAVE/LOAD の対象データ

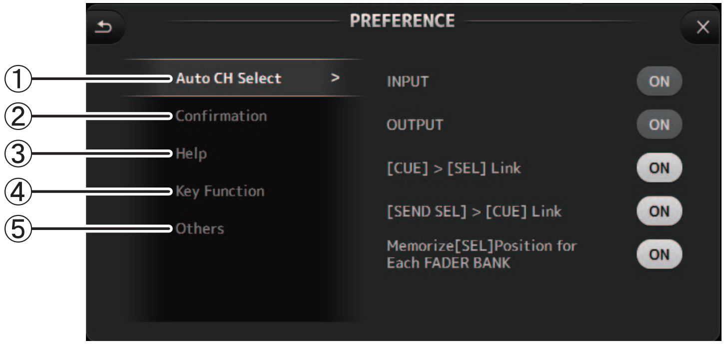
SAVE/LOAD 画面で操作できるデータは下記のとおりです。

対象	内容
Scene Memory	全 Scene と Current Scene
Channel Library	全 Channel Preset
+48V Master	
Mute Safe	
Mute Master	
Cue	各チャンネルの Cue は除く
Oscillator	Oscillator ON 以外
Monitor	
Meter	
Recall Safe	
User Defined Keys	
User Defined Knobs	
Foot Switch	
Custom Fader Bank	
Preference	Help Language, Show Help at Startup, Touch Area Optimization, [HOME] Key 以外
Slot Setup	Quick Config, HA Control
User Account	Administrator でログインしているときのみロード可能

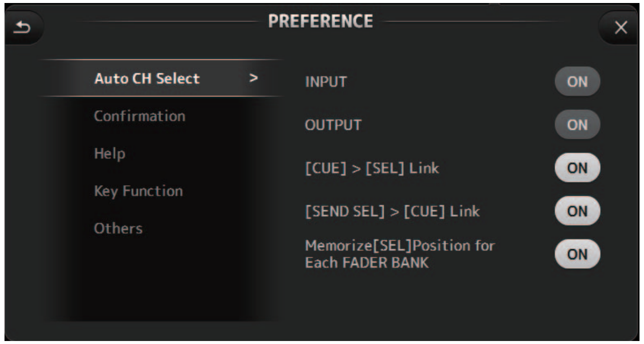
対象外	内容
Cue	各チャンネルの Cue
Oscillator	Oscillator ON
Brightness	
Preference	Help Language, Show Help at Startup, Touch Area Optimization, [HOME] Key
Date Time	
Network	
Console Lock	
Input Port Trim	
Output Port Trim	
Fader Calibration	
Channel Color Calibration	

PREFERENCE 画面

画面の表示や [SEL] キーの連動のオン / オフなどの操作環境に関する設定を、ユーザーの好みに合わせて設定します。



① Auto CH Select セクション



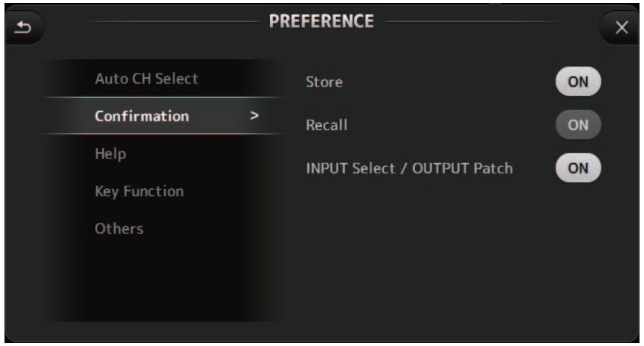
INPUT/OUTPUT: あるチャンネルの[ON]キーやフェーダーを操作したときに、そのチャンネルを選択状態にするかどうかを設定します。
インプットチャンネルとアウトプットチャンネルを個別に設定できます。

[CUE] >[SEL] Link: CUE をオンにしたチャンネルを選択状態にするかどうかを設定します。

[SEND SEL] > [CUE] Link(V4.0 以降): SENDS ON FADER モードのチャンネル選択とキューを連動させるかどうかを設定します。

Memorize[SEL]Position for Each FADER BANK: フェーダーバンクにチャンネルの位置を記憶させるかどうかを設定します。

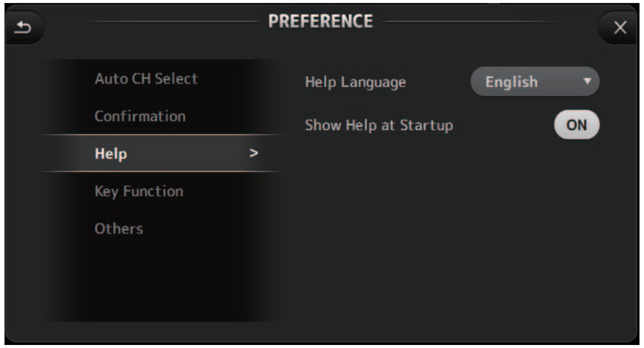
② Confirmation セクション



Store/Recall: オンにすると、それぞれストア / リコール操作のときに、確認のメッセージが表示されます。

INPUT Select/OUTPUT Patch: オンにすると、インプット選択 / OMNI OUT パッチを変更するときに、確認のメッセージが表示されます。

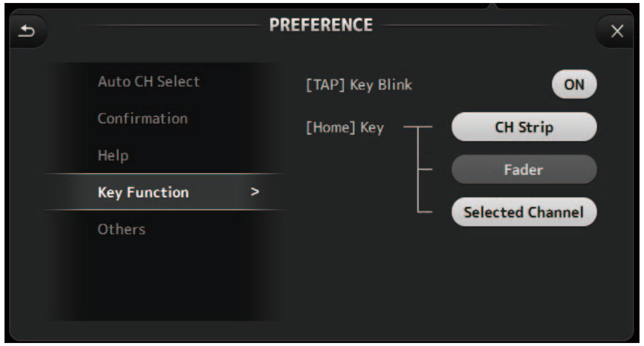
③ Help セクション



Help Language: ヘルプ表示の言語を選択します。

Show Help at Startup: 本機の電源を入れたときに、起動アニメーションに続いて HELP 画面を表示する機能をオン / オフします。

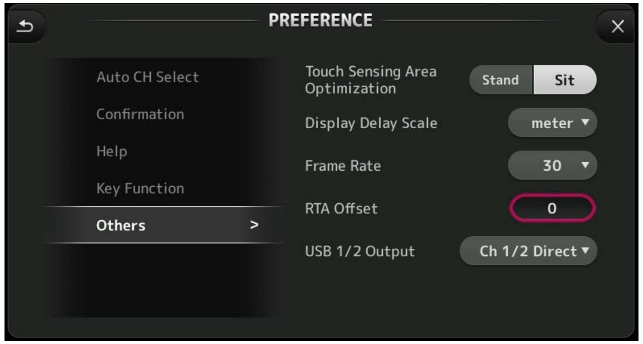
④ Key Function セクション（V4.0 以降）



[TAP] Key Blink（V2.0 以降）: [TAP] キーの点滅をオン / オフします。オフの状態でもタップテンポを入力できます。

[Home] Key（V4.0 以降）: トップパネルの [Home] キーを押したときに表示する OVERVIEW 画面のセクションを選択します。[Home] キーを押すたびに、オンにしているセクションが順番に表示されます。

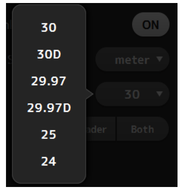
⑤ Others セクション



Touch Sensing Area Optimization: タッチ操作に反応する領域を補正します。
Stand: 上からの操作に対して反応しやすくなります。
Sit: 下からの操作に対して反応しやすくなります。

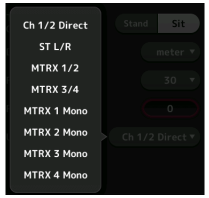
Display Delay Scale（V2.5 以降）: MATRIX チャンネル、ST IN チャンネルの DELAY ボックスの表示単位を、frame（フレーム）、meter（メートル）、feet（フィート）、ms（ミリ秒）から選択します。

Frame Rate（V3.5 以降）: frame 単位でのディレイ設定のフレームレートを選択します。



RTA Offset（V3.6 以降）: EQ 画面、GEQ 画面の RTA の感度を調整します。タッチすると、数値を入力する画面を表示します。

USB 1/2 Output（V4.5 以降）: USB TO HOST 端子の 1 チャンネルと 2 チャンネルに出力する信号を選択します。



Ch 1/2 Direct はフェーダー直前からの出力、ST L/R、AUX、MTRX はフェーダー後の出力です。

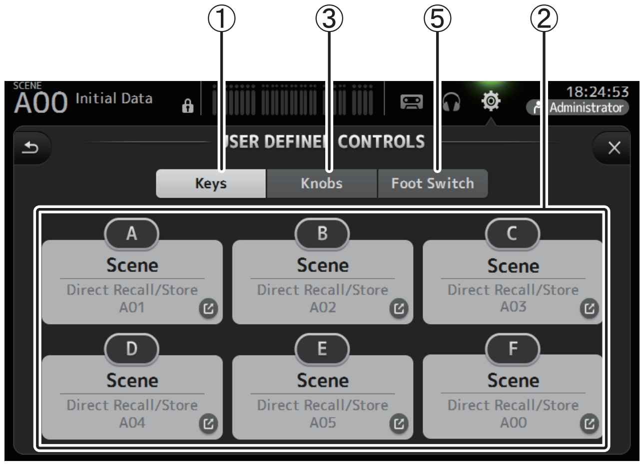
PREFERENCE を設定する

1. **画面の各ボタンを使って、プリファレンスを設定する**

2. **設定が終わったら、クローズボタン[×]をタッチする**

USER DEFINED CONTROLS 画面

[USER DEFINED KEYS]、[USER DEFINED KNOBS]、フットスイッチに割り当てる機能を設定します。



① **Keys ボタン**

トップパネルの[USER DEFINED KEYS]に割り当てる機能を設定します。

② **KEYS 設定ボタン(A ～ F)**

タッチすると、USER DEFINED KEYS に割り当てる機能を選択する画面(機能選択画面)を表示します。

USER DEFINED KEYS に割り当てできる機能

FUNCTION	PARAMETER1	PARAMETER2	機能説明
No Assign			機能の割り当てなし
Automixer	Bypass	Group a, Group b	PARAMETER2 で設定したグループのバイパス
	Specific CH	CH1~CH8	PARAMETER2 で設定したチャンネルの Automixer の ON/OFF
Brightness	Bank Change		Brightness 設定のバンクを切り替えます。V1.1 からの機能です。
CH ON	Specific CH	CH 1~CH40, STIN1, STIN2, FX1, FX2, DCA1~8, AUX 1~8, AUX 9/10~19/20, STEREO, SUB, MATRIX1~4 (V2.5以降)	PARAMETER2 で設定したチャンネルの ON/OFF
CH Select	Inc		PARAMETER1 で設定した方向にチャンネルを順次選択
	Dec		
	Specific CH	CH 1~CH40, STIN1L~STIN2R, FX1L~FX2R, AUX 1~8, AUX 9~20, STEREO L, R, SUB, MATRIX1~4 (V2.5以降)	PARAMETER2 で設定したチャンネルの選択
CUE	Specific CH	CH 1~CH40, STIN1, STIN2, FX1, FX2, DCA 1~8, AUX 1~8, AUX 9/10~19/20, STEREO, SUB, MATRIX1~4 (V2.5以降)	PARAMETER2 で設定したチャンネルの CUE の ON/OFF
Effect	Bypass	FX1, FX2, INS FX1~6	PARAMETER2 で設定したエフェクトのバイパス
EQ	Band Select	HPF, LPF, Low, Low-Mid, High-Mid, High	PARAMETER2 で設定したバンドを選択(V3.0 以降)
Help			ヘルプを表示
Meter	Peak Hold ON		METER のピークホールド機能の ON/OFF
Monitor	Output		モニターアウトの ON/OFF
	Source Select	STEREO, SUB, STIN 1, STIN 2, STIN (TF-RACK), USB 33/34, Playback	PARAMETER2 で設定したモニターソースを選択
Mute Master	MUTE GROUP 3, MUTE GROUP 4, MUTE GROUP 5, MUTE GROUP 6		PARANMETER1 で選んだミュートグループの Mute Master を ON/OFF
Oscillator	Oscillator On		オシレーターの ON/OFF
	Specific CH	AUX 1~AUX20, STEREO L, R, SUB	PARAMETER2 で選択したチャンネルへのオシレーターアサインの ON/OFF
Page Change	Bookmark		2 秒以上の長押しで表示中の画面をブックマークに保存する。2 秒未満の場合は保存してあった画面を呼び出す。
	Bookmark with “SEL”		選択チャンネルも込みで、ブックマークに保存する。その他は同上。
	Close Popup		ポップアップ画面を閉じる機能

FUNCTION	PARAMETER1	PARAMETER2	機能説明
Recorder	Transport	Play/Pause	RECORDER 画面の Play/Pause ボタンと同じ機能
		Stop	RECORDER 画面の Stop ボタンと同じ機能
		Next	RECORDER 画面の Next ボタンと同じ機能
		Previous	RECORDER 画面の Previous ボタンと同じ機能
		Rec	RECORDER 画面の Rec ボタンと同じ機能
		Auto Rec	録音を停止し、新しいファイルで次の録音を開始する機能
		Rec & Start	ワンタッチで録音を開始する機能
SCENE	Inc		一つ大きい番号の SCENE を選択
	Dec		一つ小さい番号の SCENE を選択
	Store		選択した番号にカレント設定を上書きストア
	Recall		選択した番号の SCENE をリコール
	Inc Recall		一つ番号の大きい SCENE をリコール
	Dec Recall		一つ番号の小さい SCENE をリコール
	Direct Recall/Store	No.A00~A99, No.B00~B99	PARAMETER2 で設定した番号の SCENE をリコールする。2 秒以上長押しした場合はその番号にカレント設定を上書きストアする。

③ Knobs ボタン

タッチすると、[USER DEFINED KNOBS] に割り当てる機能を設定します。

④ KNOBS 設定ボタン

タッチすると、USER DEFINED KNOBS に割り当てる機能を選択する画面（機能選択画面）を表示します。

USER DEFINED KNOBS に割り当てできる機能

機能		機能説明
No Assign		機能の割り当てなし
Brightness	CH Name	CH NAME の明るさの操作（TF5/TF3/TF1 のみ）
	CH Color	CH COLOR インジケーターの明るさの操作（TF5/TF3/TF1 のみ）
	Screen	TOUCH SCREEN の明るさの操作
	Panel	PANEL の LED の明るさの操作
CH Level	Specific CH	PARAMETER2 で選択したチャンネルのレベルの操作（V3.0 以降）
CH Select	Inc/Dec	チャンネルの選択（V3.0 以降）
Monitor Level		MONITOR LEVEL の操作
Selected CH	Automixer Weight	選択したチャンネルの AUTOMIXER の Weight の操作（V3.5 以降）
	CH Level	選択したチャンネルのレベルの操作（V3.0 以降）
	Comp 1-knob/Thr	選択したチャンネルの COMP の 1-knob または THRESHOLD の操作 1-knob COMP が ON の場合は 1-knob 操作、1-knob COMP が OFF の場合は THRESHOLD の操作
	Digital Gain	選択したチャンネルの DIGITAL GAIN の操作（V3.0 以降）
	EQ 1-knob/Gain	選択したチャンネルの EQ の 1-knob または GAIN の操作 1-knob EQ が ON の場合は 1-knob 操作、1-knob EQ が OFF の場合は、GAIN の操作
	EQ Band Select	選択したチャンネルの EQ のバンド選択（V3.0 以降）
	EQ Frequency	選択したチャンネルの EQ の周波数の操作
	EQ Q	選択したチャンネルの EQ の Q の操作
	Gate Threshold	選択したチャンネルの GATE の THRESHOLD の操作
	HPF	選択したチャンネルの HPF の操作 ノブの回転で周波数
	Input Gain	選択したチャンネルの ANALOG GAIN または DIGITAL GAIN の操作 チャンネルの INPUT SELECT が INPUT の場合は ANALOG GAIN の操作 チャンネルの INPUT SELECT が USB, iPad, STIN の場合は DIGITAL GAIN の操作
	Send Level	選択したチャンネルの、PARAMETER2 で選択したバス（FX、AUX、SUB）へのセンドレベル（V3.0 以降）
	Pan/BAL	選択したチャンネルの PAN（または BALANCE）の操作
RTA Offset		RTA Offset の操作（V3.6 以降）

⑤ **Foot Switch ボタン**

タッチすると、フットスイッチに割り当てる機能を設定します。

⑤

⑥ Foot Switch 設定ボタン

⑥ **Foot Switch 設定ボタン**

フットスイッチに割り当てる機能を設定する画面（機能選択画面）を表示します。

Footswitch に割り当てできる機能

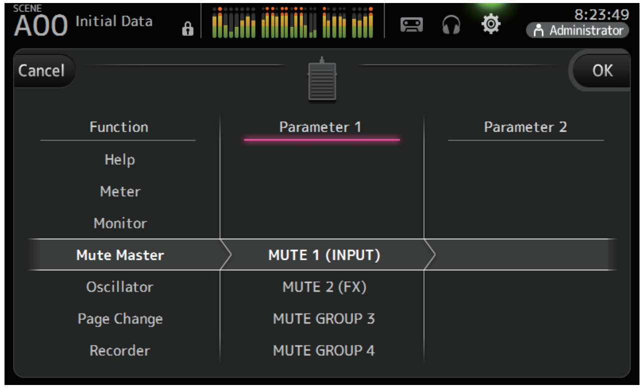
FUNCTION	PARAMETER1	PARAMETER2	機能説明
No Assign			機能の割り当てなし
Automixer	Bypass	Group a, Group b	PARAMETER2 で設定したグループのバイパス
	Specific CH	CH1~CH8	PARAMETER2 で設定したチャンネルの Automixer の ON/OFF
Brightness	Bank Change		Brightness 設定のバンクを切り替えます。V1.1 からの機能です。
CH ON	Specific CH	CH 1~CH40, STIN1, STIN2, FX1, FX2, DCA1~8, AUX 1~8, AUX 9/10~19/20, STEREO, SUB, MATRIX1~4 (V2.5以降)	PARAMETER2 で設定したチャンネルの ON/OFF

FUNCTION	PARAMETER1	PARAMETER2	機能説明
CH Select	Inc		PARAMETER1 で設定した方向にチャンネルを順次選択
	Dec		
	Specific CH	CH 1~CH40, STIN1L~STIN2R, FX1L~FX2R, AUX 1~8, AUX 9~20, STEREO L, R, SUB, MATRIX1~4 (V2.5以降)	PARAMETER2 で設定したチャンネルの選択
Clear CUE	Clear CUE		CUE を解除 パネルの CLEAR CUE キーと同じ機能
CUE	Specific CH	CH 1~CH40, STIN1, STIN2, FX1, FX2, DCA 1~8, AUX 1~8, AUX 9/10~19/20, STEREO, SUB, MATRIX1~4 (V2.5以降)	PARAMETER2 で設定したチャンネルの CUE の ON/OFF
Effect	Bypass	FX1, FX2, INS FX1~6	PARAMETER2 で設定したエフェクトのバイパス
EQ	Band Select	HPF, LPF, Low, Low-Mid, High-Mid, High	PARAMETER2 で設定したバンドを選択（V3.0 以降）
Help			ヘルプを表示
Meter	Peak Hold ON		METER のピークホールド機能の ON/OFF
Monitor	Output		モニターアウトの ON/OFF
	Source Select	STEREO, SUB, STIN1, STIN2, STIN (TF-RACK), USB 33/34, Playback	PARAMETER2 で設定したモニターソースを選択
Mute Master	MUTE 1 (INPUT), MUTE 2 (FX), MUTE GROUP 3, MUTE GROUP 4, MUTE GROUP 5, MUTE GROUP 6		PARANMETER1 で選んだチャンネルやグループの Mute Master を ON/OFF
Oscillator	Oscillator On		オシレーターの ON/OFF
	Specific CH	AUX 1~AUX20, STEREO L, R, SUB	PARAMETER2 で選択したチャンネルへのオシレーターアサインの ON/OFF
Page Change	Bookmark		2 秒以上の長押しで表示中の画面をブックマークに保存する。2 秒未満の場合は保存してあった画面を呼び出す。
	Bookmark with “SEL”		選択チャンネルも込みで、ブックマークに保存する。その他は同上。
	Close Popup		ポップアップ画面を閉じる機能

FUNCTION	PARAMETER1	PARAMETER2	機能説明
Recorder	Transport	Play/Pause	RECORDER 画面の Play/Pause ボタンと同じ機能
		Stop	RECORDER 画面の Stop ボタンと同じ機能
		Next	RECORDER 画面の Next ボタンと同じ機能
		Previous	RECORDER 画面の Previous ボタンと同じ機能
		Rec	RECORDER 画面の Rec ボタンと同じ機能
		Auto Rec	録音を停止し、新しいファイルで次の録音を開始する機能
		Rec & Start	ワンタッチで録音を開始する機能
SCENE	Inc		一つ大きい番号の SCENE を選択
	Dec		一つ小さい番号の SCENE を選択
	Store		選択した番号にカレント設定を上書きストア
	Recall		選択した番号の SCENE をリコール
	Inc Recall		一つ番号の大きい SCENE をリコール
	Dec Recall		一つ番号の小さい SCENE をリコール
	Direct Recall/Store	No.A00~A99, No.B00~B99	PARAMETER2 で設定した番号の SCENE をリコールする。2 秒以上長押しした場合はその番号にカレント設定を上書きストアする。
TAP TEMPO			トップパネル TAP キーと同じ機能

機能選択画面

Function の機能を選択すると、Parameter1 の選択候補を表示し、Parameter1 の機能を選択すると、Parameter2 の選択候補を表示します。選択した機能に続く機能の選択候補がない場合は、Parameter1 または Parameter2 の選択候補を表示しません。



[USER DEFINED KEYS]に機能を割り当てる

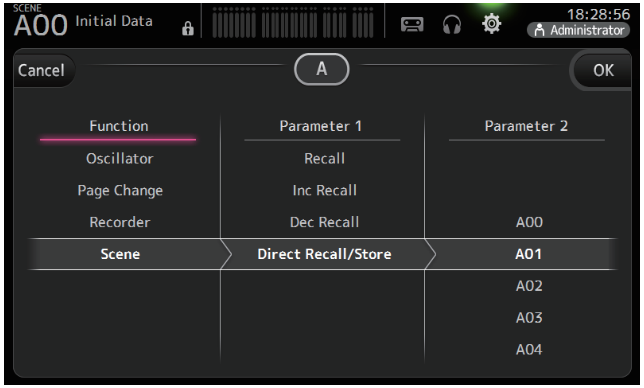
1. Keys ボタンをタッチする

機能を割り当てる[USER DEFINED KEYS]のキーを選択する画面を表示します。

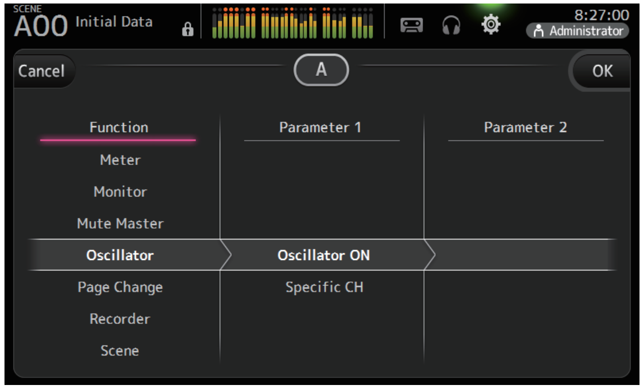
A ～ F のボタンは、[USER DEFINED KEYS]の A ～ F キーに対応しています。

2. 機能を割り当てるキーの KEYS 設定ボタンをタッチする

機能選択画面を表示します。



3. Function リストをドラッグして、機能を選択する



4. Parameter 1 リストをドラッグして、パラメーターを選択する

Parameter 2 リストにパラメーターがある場合は、2 つ目のパラメーターが選択できます。

5. OK ボタンをタッチする

[USER DEFINED KNOBS]に機能を割り当てる

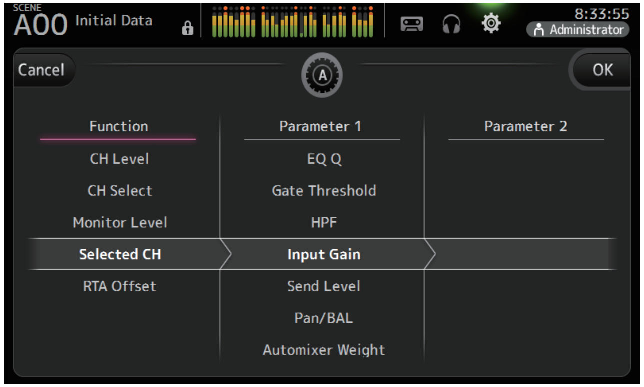
1. **Knobs ボタンをタッチする**

機能を割り当てる[USER DEFINED KNOBS]のノブを選択する画面を表示します。

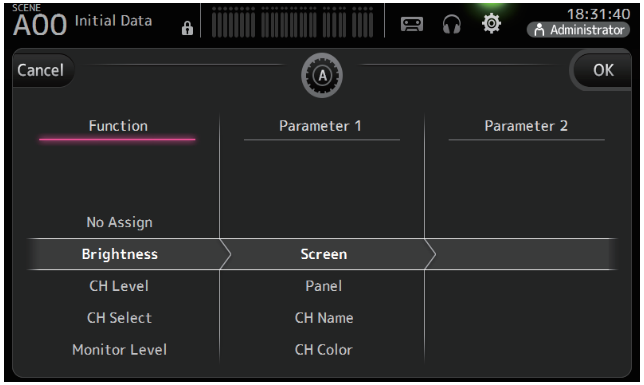
A ～ D のボタンは、[USER DEFINED KNOBS]の A ～ D のノブに対応しています。

2. **機能を割り当てるノブの KNOBS 設定ボタンをタッチする**

機能選択画面を表示します。



3. **Function リストをドラッグして、機能を選択する**



4. **Parameter 1 リストをドラッグして、パラメーターを選択する**

Parameter 2 リストにパラメーターがある場合は、2 つ目のパラメーターが選択できます。

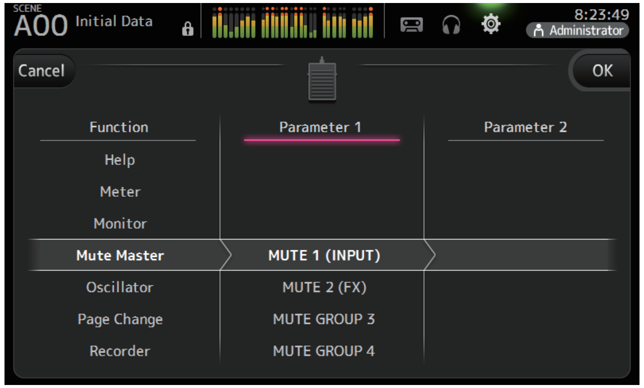
5. **OK ボタンをタッチする**

フットスイッチに機能を割り当てる

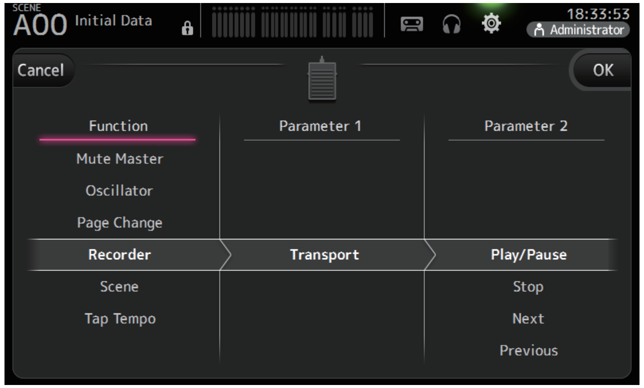
1. **Foot Switch ボタンをタッチする**

2. **Foot Switch 設定ボタンをタッチする**

機能選択画面を表示します。



3. **Function リストをドラッグして、機能を選択する**



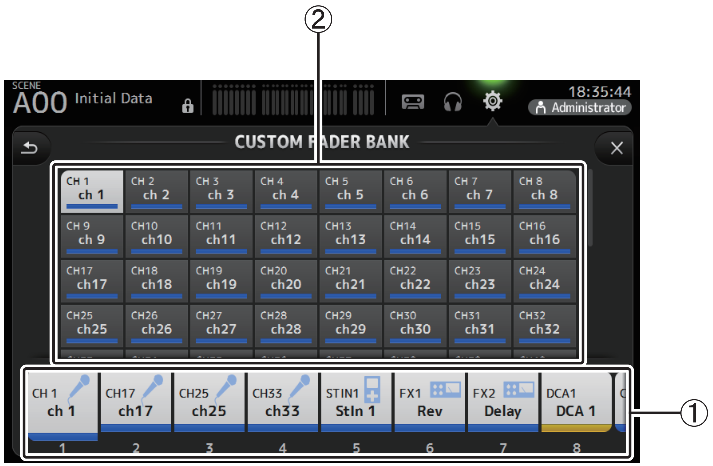
4. **Parameter 1 リストをドラッグして、パラメーターを選択する**

Parameter 2 リストにパラメーターがある場合は、2 つ目のパラメーターが選択できます。

5. **OK ボタンをタッチする**

CUSTOM FADER BANK 画面

カスタムフェーダーバンクはインプット、AUX、MATRIX(V2.5 以降)、DCA グループなど、すべてのチャンネルから必要なチャンネルを選んで、区別なく並べて操作できるフェーダーバンクです。

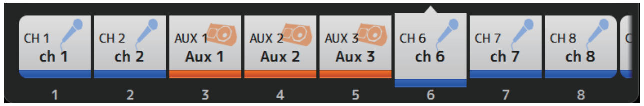


① **フェーダーボタン**
チャンネルを割り当てるフェーダーを選択します。

② **チャンネルボタン**
① で選択したフェーダーに割り当てるチャンネルを選択します。
None を選択すると、割り当てなしになります。

カスタムフェーダーバンクを設定する

1. フェーダーボタンで、設定したいフェーダーのボタンをタッチする

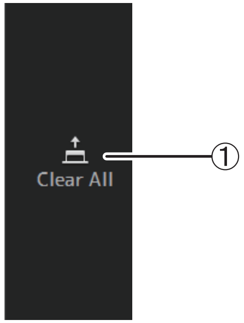


2. チャンネルボタンをタッチして、手順 **1.** で選んだフェーダー番号にチャンネルを設定する

3. 手順 **1.** ～ **2.** を繰り返して、ほかのフェーダーにもチャンネルを設定する

CUSTOM FADER BANK 画面のメニュー

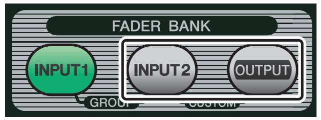
CUSTOM FADER BANK 画面でメニューキー (≡) を押すと、以下のメニューアイコンが表示されます。



① Clear All
フェーダーに対するすべてのアサインを、一括で解除(None に設定)します。

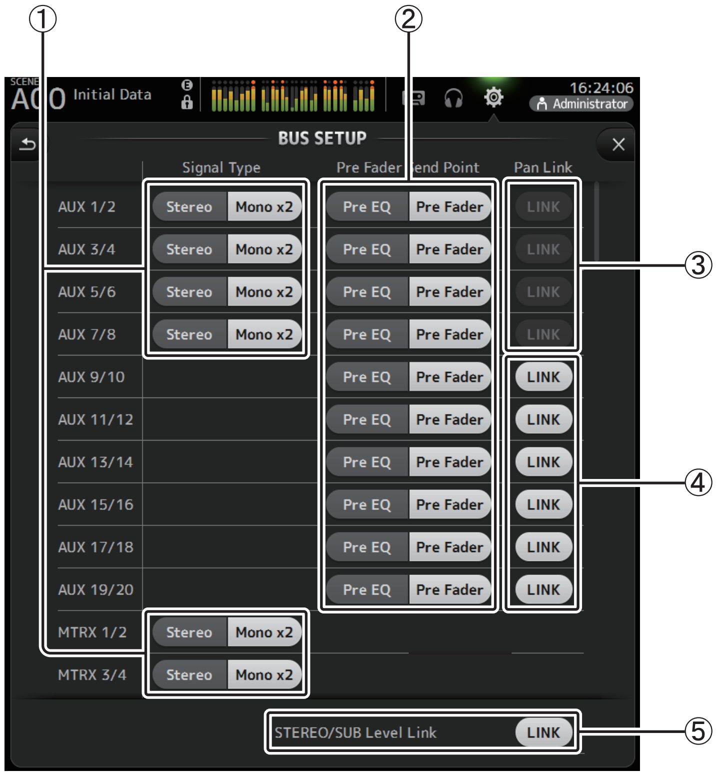
カスタムフェーダーバンクを呼び出す(TF5/TF3/TF1)

1. トップパネルの [INPUT2] キーと [OUTPUT] キーを同時に押す



BUS SETUP 画面

バスに関する設定を行ないます。バスの基本設定(ステレオ / モノラルの切り替え、Pan Link など)を変更します。変更した内容は、シーンに保存されます。



① AUX1/2 〜 AUX7/8 シグナルタイプ切り替えボタン
MATRIX1/2 〜 MATRIX3/4 シグナルタイプ切り替えボタン(V3.5 以降)
2 バスごとに信号の処理方法を選択します。バスごとに Stereo(奇数 / 偶数番号の順に並んだ 2 つのバス単位で主要パラメーターを連動させる)、または MONO x2(モノラル ×2 チャンネルとして使用する)を選択します。

② Pre Fader Send Point 切り替えボタン
インプットチャンネルから AUX バスへのセンドで、Pre をオンにしたときのセンドポイントを切り替えます。
Pre EQ: EQ の直前
Pre Fader: フェーダーの直前

③ AUX1/2 〜 AUX7/8 Pan Link ボタン
AUX1/2 〜 AUX7/8 の Pan Link のオン / オフを切り替えます。
このボタンは、Signal Type が Stereo の設定になっている場合に表示します。ボタンがオンのときは、インプットチャンネルから該当する 2 つのバスの送られる信号のパンが、Stereo バスのパンと連動します。

④ AUX9/10 〜 AUX19/20 Pan Link ボタン
AUX9/10 〜 AUX19/20 の Pan Link のオン / オフを切り替えます。

⑤ STEREO/SUB Level Link
オンのときは、STEREO チャンネルと SUB チャンネルのレベルが連動します。
V3.0 以降では、オンにしたときの差分を保ったままレベルが連動します。
また TF5/TF3/TF1 では、パネルの [SEL] キーを押しながらフェーダーを操作することで差分を調整できます。

OMNI OUT 画面

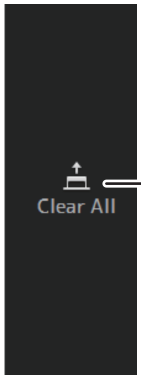
OMNI OUT 端子に出力するアウトプットチャンネルを設定します。

① OMNI OUT1 ～ 16 ボタン
設定対象となる OMNI OUT 端子を選択します。
ボタンには、現在アサインされているチャンネル名が表示されます。

② アウトプットチャンネルボタン
① で選択した OMNI OUT 端子に出力するアウトプットチャンネル、またはモニター出力を選択します。None を選択すると、何も出力されません。

OMNI OUT 画面のメニュー

OMNI OUT 画面でメニューキー を押すと、以下のメニューアイコンが表示されます。



① Clear All
OMNI OUT 端子に対するすべてのアサインを、一括で解除(None に設定)します。

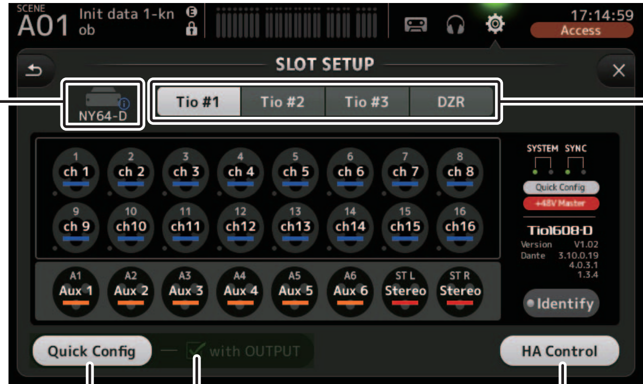
SLOT SETUP 画面(V2.0 以降)

拡張スロットに挿入された NY64-D 経由で接続された I/O ラック Tio1608-D、パワードスピーカーシステム DZR-D シリーズ、パワードサブウーファーシステム DXS-XLF-D シリーズとの接続設定や接続情報を表示します。

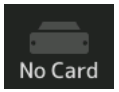
表示は、各デバイスの接続状況とクイックコンフィグ設定によって変わります。

NOTE

Tio1608-D、DZR-D シリーズ、DXS-XLF-D シリーズとの接続には、シンプルな操作で設定が自動的に行なわれるクイックコンフィグを使うと便利です。クイックコンフィグでは、TF シリーズ 1 台と合計 24 台までの Tio1608-D(最大 3 台)、DZR-D シリーズ、DXS-XLF-D シリーズの接続を、Dante ネットワークの設定や音声信号のパッチ処理を含めて自動で行ないます。
Tio1608-D、DZR-D シリーズ、DXS-XLF-D シリーズの設定については、各デバイスの取扱説明書をご参照ください。



① SLOT 表示エリア(V3.1 以降)
拡張スロットの状況を表示します。
NY カードが挿入されていない場合は No Card と表示されます。



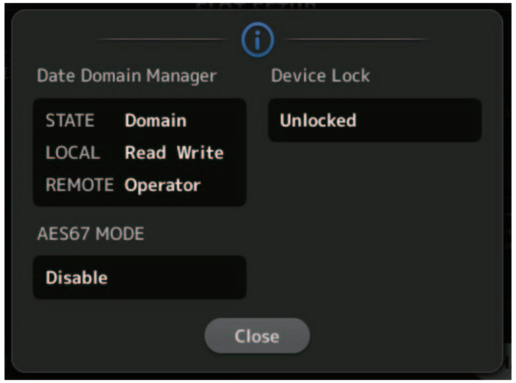
NY64-D が挿入されていて、Dante Device Lock が有効になっている場合は、錠のアイコンが表示されます。

NY64-D が Dante の AES67 モードで動作している場合は、SLOT 表示エリアの右上に AES67 と表示されます。

NOTE

AES67 モードの操作には Dante Controller（v3.10.0.19 以降）が必要です。

NY64-D が挿入されているときに を押すと、NY64-D の Dante Domain Manager、AES67 Mode、Device Lock の設定を表示する以下の画面が表示されます。（V3.6 以降）



Dante Domain Manager

STATE　Dante ドメインへの登録状況を表示

Domain	Dante ドメインに登録されている。
Disconnected	Dante ドメインに登録されているが、DDM サーバーと接続されていない。
Unmanaged	Dante ドメインに登録されていないが、DDM サーバーとは接続されている。
-----	Dante ドメインに登録されていず、DDM サーバーとも接続されていない。

LOCAL　現在操作しているデバイスの（パッチを含む）Dante 設定の変更可否を表示

Read Write	変更可能。
Read Only	変更不可。
-----	Dante ドメインに登録されていず、DDM サーバーとも接続されていない。

REMOTE　リモート操作対象のデバイスの Dante 設定の変更可否を表示

Operator	読み書き可能。
Guest	読み取り専用。変更不可。
None	読み書き不可。
-----	Dante ドメインに登録されていず、DDM サーバーとも接続されていない。

AES67 MODE　AES67 モードの動作状況を表示

Disabled	AES67 モードで動作していない。
Enable	AES67 モードで動作している。

Device Lock　Dante Device Lock が有効になっているかどうかを表示

Unlocked	Dante Device Lock が無効になっている。
Locked	Dante Device Lock が有効になっている。

② デバイス選択ボタン（DZR ボタンは V3.6 以降）

情報を表示するデバイスを切り替えます。
Tio1608-D を表示する場合は、Tio #1、Tio #2、Tio #3 のボタンで Tio1608-D のユニット ID を選択します。
DZR-D シリーズ、DXS-XLF-D シリーズを表示する場合は、DZR ボタンを選択します。

接続した Tio1608-D が Dante の AES67 モードで動作している場合は、デバイス選択ボタンの右上に AES67 と表示されます。

デバイスにエラーが発生すると、デバイス選択ボタンの下にエラーの詳細を表示します。

デバイスに Dante Device Lock が有効になっている場合は、デバイス選択ボタンに錠のアイコンが表示されます。（V3.1 以降）

NOTE

- Dante Device Lock は、Dante 機器の設定を不用意な操作から守る機能です。Dante Device Lock の操作には Dante Controller（v3.10.0.19 以降）が必要です。
- AES67 モードの操作には Dante Controller（v3.10.0.19 以降）が必要です。

③ Quick Config ボタン

TF シリーズ本体のクイックコンフィグ機能のオン / オフを切り替えます。

オフのときは灰色、オンのときは白色で表示します。

Dante Controller などで Dante の設定がクイックコンフィグで設定される内容と異なる状態になったときは、オレンジ色で表示されます。

クイックコンフィグ機能を使用したときの Tio1608-D とのチャンネルの対応は、「クイックコンフィグ時のチャンネル対応表」（→ P.106）をご参照ください。

クイックコンフィグ機能を使用したときにパッチされる DZR-D シリーズ、DXS-XLF-D シリーズのチャンネルは、DZR/DXS 本体の「UTILITY > DANTE SETUP > MODE」で「Quick Config」を選択し、PATCH で指定します。

Dante ドメインに登録されているときは、クイックコンフィグ機能はオフになります。

NOTE
- クイックコンフィグ機能がオンの状態でも、Dante Controller で Dante のパッチを変更できます。ただし、再度 TF シリーズの電源を入れたときに、クイックコンフィグのパッチに再設定されます。Dante Controller による設定で使用する場合は、クイックコンフィグ機能をオフにしてください。
- クイックコンフィグの対象になる機器に Dante Device Lock が有効になっている場合は、メッセージが表示され、クイックコンフィグが実行されないことがあります。(V3.1 以降)
- 同じ Dante ネットワーク内に接続できる I/O ラック(Tio1608-D、R シリーズなど)、パワードスピーカーシステム(DZR-D シリーズ)、パワードサブウーファーシステム(DXS-XLF-D シリーズ)は 24 台までです。25 台以上接続すると、メッセージが表示され、HA コントロールなどが正しく動作できません。

④ with OUTPUT チェックボックス

TF シリーズの電源を入れたときなど、クイックコンフィグ機能が有効になるときにデバイスの OUTPUT ポートと TF シリーズを接続するかどうかを設定します。

チェックを入れた状態でクイックコンフィグ機能が有効になると、デバイスと TF シリーズが自動的にパッチされます。

このチェックボックスは、Quick Config ボタンがオフのときに操作できます。

NOTE
- クイックコンフィグ機能が有効なとき、接続するデバイスの OUTPUT ポートを使用できる TF シリーズは、同一ネットワークで 1 台だけです。DZR-D シリーズ、DXS-XLF-D シリーズの場合は最後に接続した TF シリーズとのパッチに切り替わってしまうので、with OUTPUT チェックボックスをオンにするネットワーク内の TF シリーズは 1 台にしてください。
また、ほかの TF シリーズから OUTPUT ポートを使われている Tio1608-D がネットワーク内に 1 台でもある場合は、with OUTPUT チェックボックスが自動的にオフになり、ポップアップ画面が表示されます。
- with OUTPUT チェックボックスをオフにして、Dante Controller でパッチする場合の、チャンネルから出力ポートへのアサインについては「クイックコンフィグ時のチャンネル対応表」(→ P.106)をご参照ください。

⑤ HA Control ボタン

Tio1608-D、R シリーズなどのヘッドアンプを TF シリーズから操作するかどうかを切り替えます。

DZR-D シリーズ、DXS-XLF-D シリーズには、このボタンのオン / オフは影響しません。

オフのときは灰色、オンのときは白色で表示します。

オフにすると、入力を SLOT にしたインプットチャンネルのアナログゲインと +48V ファンタム電源の操作が無効になり、設定状況が表示されます。

NOTE
- 同一ネットワーク上にヘッドアンプを操作できるホストが複数ある場合は、操作の重複などをさけるために、実際にヘッドアンプを操作するホスト機器を 1 台にすることをおすすめします。
- クイックコンフィグ機能がオフの場合でも、Dante Controller を使って該当する SLOT のインプットチャンネル(「クイックコンフィグ時のチャンネル対応表」参照 → P.106)にパッチすると、最大 8 台までの I/O ラックのヘッドアンプを操作できます。

Tio1608-D の情報

⑥ SYSTEM インジケーター/SYNC インジケーター

Tio1608-D の [SYSTEM]/[SYNC] インジケーターと同じ情報を表示します。

⑦ Quick Config ステータス表示

Tio1608-D の [QUICK CONFIG] スイッチの状態を表示します。

オフのときは灰色、オンのときは白色で表示します。

Dante Controller などで Dante の設定がクイックコンフィグで設定される内容と異なる状態になったときは、オレンジ色で表示されます。

⑧ +48V Master ステータス表示

Tio1608-D の +48V Master スイッチの状態を表示します。

オフのときは灰色、オンのときは赤色で表示します。

⑨ バージョン表示

Tio1608-D のファームウェアのバージョンや、Tio1608-D に内蔵されている Dante ファームウェアのバージョンを表示します。

⑩ Identify ボタン

接続されている Tio1608-D を識別します。このボタンを押し続けている間、対応する Tio1608-D の LED が点滅します。

NOTE

該当する UNIT ID の Tio1608-D と音声信号がパッチされていれば、TF シリーズ本体の Quick Config ボタンの状態に関わらず、Tio1608-D の情報とエラー詳細、ステータス、バージョン、Identify ボタンを表示します。

⑪ **チャンネル表示エリア**

TF シリーズの Quick Config ボタンがオンで [QUICK CONFIG] スイッチがオンの Tio1608-D が接続されているときに、次の情報を表示します。

- CH Name
- CH Color
- チャンネルごとの +48V の設定(オンのときはチャンネルアイコンの左下にあるインジケーターが赤色で点灯します。)

DZR-D シリーズ、DXS-XLF-D シリーズの情報

NOTE

Quick Config や with OUTPUT が無効な場合、以下 ⑫⑬ の情報は表示されません。

⑫ **デバイス情報**

リストの項目名「Device ▼」をタッチすると、デバイス情報でソートします。

Version ボタンをタッチすると、LIMIT/SIGNAL インジケーターとバージョン表示を切り替えます。

錠アイコン

DZR-D シリーズ、DXS-XLF-D シリーズの Dante Device Lock が有効になっている場合に表示されます。

デバイス情報

DZR-D シリーズ、DXS-XLF-D シリーズを表わすアイコン、ユニット ID、製品名、Dante Device Name が表示されます。

アラートアイコン

DZR-D シリーズ、DXS-XLF-D シリーズにエラーが発生すると表示されます。

LIMIT インジケーター

DZR-D シリーズ、DXS-XLF-D シリーズでリミッターが作動すると点灯します。

SIGNAL インジケーター

DZR-D シリーズ、DXS-XLF-D シリーズの出力レベルに反応して点灯します。

バージョン表示(Version ボタンで切り替え)

DZR-D シリーズ、DXS-XLF-D シリーズのファームウェアのバージョンや、DZR-D シリーズ、DXS-XLF-D シリーズに内蔵されている Dante ファームウェアのバージョンを表示します。

Identify ボタン

接続されている DZR-D シリーズ、DXS-XLF-D シリーズを識別します。このボタンを押し続けている間、対応する DZR-D シリーズ、DXS-XLF-D シリーズのディスプレイのバックライトが点滅します。

NOTE

Identify ボタンは、Quick Config が有効なときに表示されます。

⑬ **Ouptput 情報**

DZR-D シリーズ、DXS-XLF-D シリーズに出力される TF の出力チャンネルの情報を表示します。

リストの項目名「Output」をタッチすると、TF の出力チャンネルの順番(AUX->MTRX->ST->SUB->MONITOR の順)にソートします。

⑭ **MUTE ボタン**

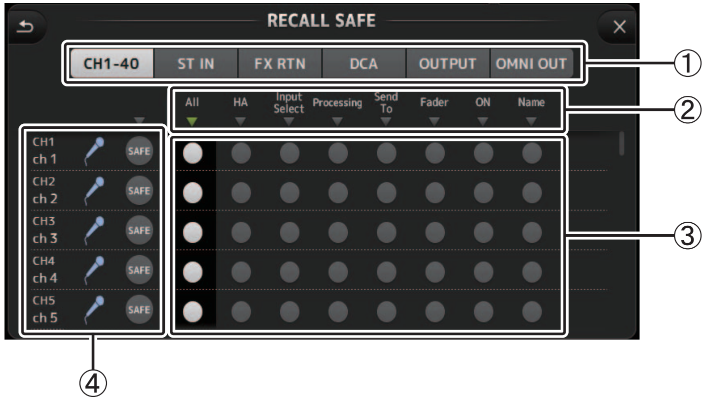
DZR-D シリーズ、DXS-XLF-D シリーズのミュートのオン / オフを切り替えます。

接続されている DZR のバージョンが V1.1.1 以下の場合、MUTE ボタンは表示されません。

RECALL SAFE 画面

シーンやプリセットをリコールしたときのリコールセーフを設定します。

「リコールセーフ」とは、特定のパラメーター/ チャンネル(DCA グループ)をリコール操作から除外する機能です。



① **設定対象チャンネル切り替えボタン**
リコールセーフを設定するチャンネルタイプを選択します。
選択したチャンネルタイプに応じて、SAFE パラメーター表示が変わります。

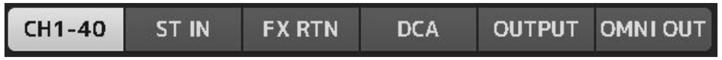
② **SAFE パラメーター名表示**
▼ボタンをタッチすると、選択しているチャンネル種別の全チャンネルの SAFE パラメーターのオン / オフが切り替わります。
▼ボタンは、すべての SAFE パラメーターがオンの場合に緑色になります。また、一部の SAFE パラメーターがオンの場合は青色、すべてのパラメーターがオフの場合は灰色で表示します。

③ **SAFE パラメーター切り替えボタン**
SAFE パラメーターのオン / オフを切り替えます。オンにしたパラメーターがリコールセーフの対象となります。
OMNI OUT の SAFE パラメーターは、OMNI OUT PATCH のみです。

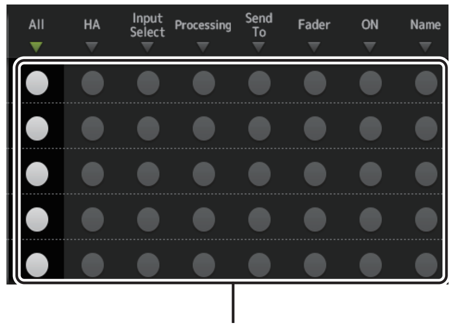
④ **チャンネル情報表示**
チャンネル ID、チャンネル名、アイコンを表示します。
SAFE ボタンをタッチすると、そのチャンネルのリコールセーフのオン / オフを切り替えます。オンのときは、SAFE パラメーター切り替えボタンで選択したパラメーターがシーンリコールされなくなります。

リコールセーフ機能を使う

1. **設定対象チャンネル切り替えボタンをタッチして、リコールセーフの対象にするチャンネル /DCA グループを選択する**



2. **SAFE パラメーター切り替えボタンをタッチして、リコールセーフの対象を選択する**



SAFE パラメーター切り替えボタン

3. **選択したチャンネルのリコールセーフをオンにするには、SAFE ボタンをオンにする**

4. **[×]ボタンをタッチして画面を閉じ、リコール操作を行なう**

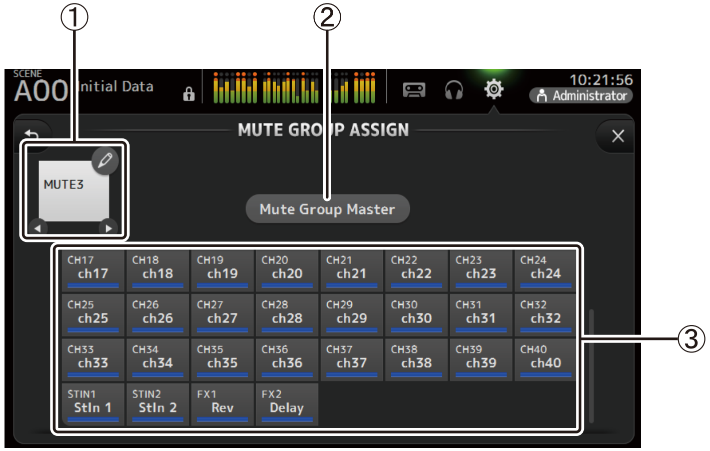
SAFE ボタン

MUTE GROUP ASSIGN 画面(V4.0 以降)

インプットチャンネルのミュートグループとミュートセーフを設定します。

ミュートグループは、INPUT(MUTE GROUP1)、FX(MUTE GROUP2) がすでに割り当てられています。それ以外に MUTE GROUP3 ～ MUTE GROUP6 にインプットチャンネルおよび FX1/FX2 を割り当てできます。

ミュートセーフは、ミュートグループでの操作から除外するチャンネルを設定します。初期設定では ST IN1 と ST IN2 がアサインされています。



① **ミュートグループ名**

右上の鉛筆マークをタッチすると編集画面を表示します。

◀/▶ をタッチすると、情報を表示するミュートグループを切り替えできます。

② **Mute Group Master ボタン**

表示しているミュートグループのオン / オフを切り替えます。このボタンがオフのときは、該当するミュートグループが無効になります。

③ **MUTE GROUP ASSIGN ボタン**

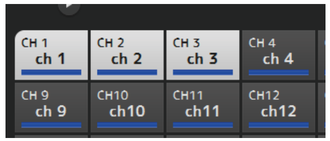
表示しているミュートグループに割り当てるインプットチャンネルを選択します。

ミュートグループに割り当てるチャンネルを選ぶ

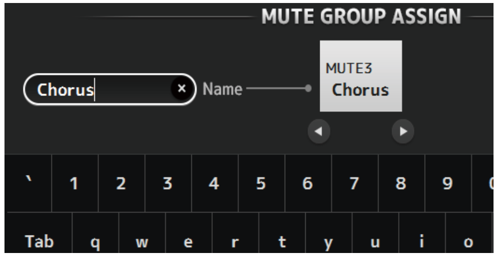
1. ミュートグループ名の ◀/▶ をタッチして、作成するミュートグループを表示する

2. Mute Group Master ボタンをタッチしてオンにする

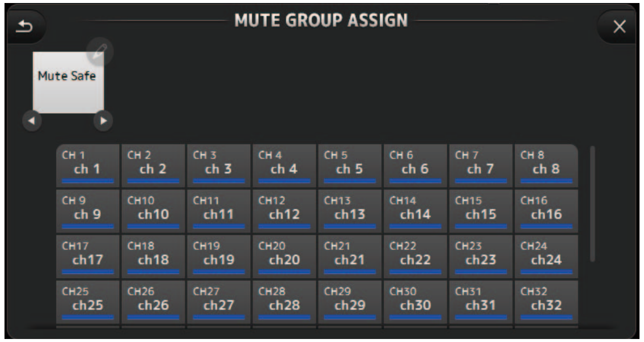
3. ミュートグループに割り当てるチャンネルをタッチして選択する



4. 必要に応じて、ミュートグループ名の鉛筆アイコンをタッチして、ミュートグループに名前をつける



5. ミュートセーフを設定するときは、ミュートグループ名の ◀/▶ をタッチして、Mute Safe を表示する

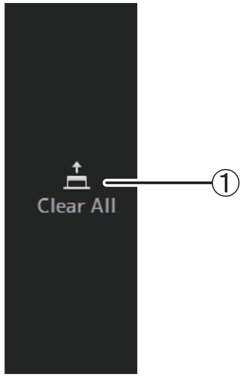


6. ミュートセーフをするチャンネルをタッチして選択する

7. 画面右上の ☒ ボタンをタッチして終了する

MUTE GROUP ASSIGN 画面のメニュー

MUTE GROUP ASSIGN 画面でメニューキー（☰）を押すと、以下のメニューアイコンが表示されます。

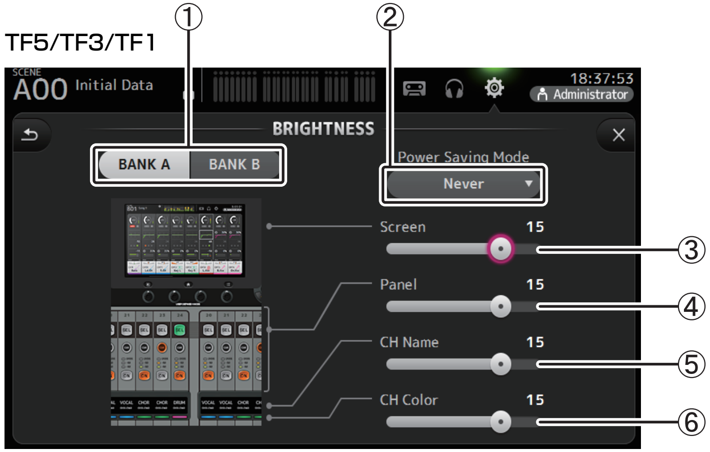


① Clear All
ミュートグループに割り当てたチャンネルをすべて解除します。

BRIGHTNESS 画面

タッチスクリーン、トップパネルの LED とネーム表示、チャンネルカラーの輝度を設定します。輝度の設定は、バンク A/B の 2 種類を保存しておき、必要に応じて切り替えできます。

TF5/TF3/TF1



TF-RACK

① **バンク切り替えボタン**
BANK A/B に記憶している輝度の設定を切り替えます。
BANK A：BANK A の輝度で表示します。
BANK B：BANK B の輝度で表示します。
V1.1 以降では、ユーザーデファインドキーやフットスイッチでバンク切り替えができます。

② Power Saving Mode ボタン
省電力モードに切り替わる時間を設定します。
30 秒、2 分、5 分、10 分、15 分、なし(Never)から選択できます。

③ Screen 輝度調整スライダー
タッチスクリーンの輝度を調整します。

④ Panel 輝度調整スライダー
トップパネルの LED の輝度を調整します。
1 〜 10: 暗い場所でキートップの印刷が読みやすいように低い輝度で補助点灯します。
11 〜 20: 明るい場所でのコントラストを強調するために補助点灯はありません。

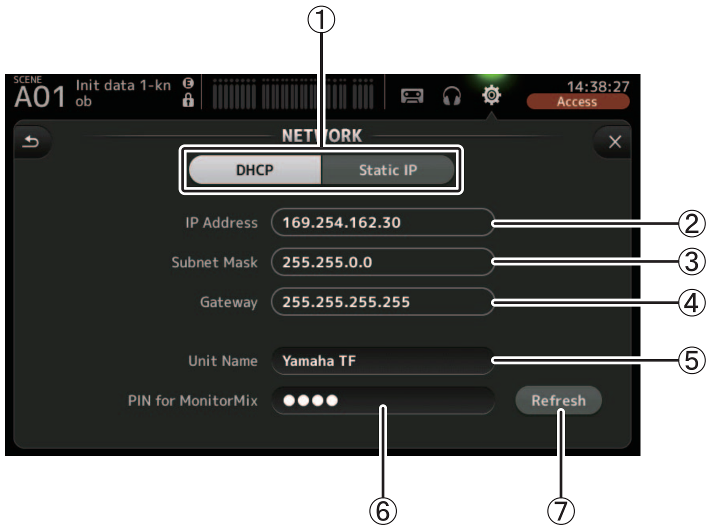
⑤ CH Name 輝度調整スライダー(TF5/TF3/TF1)
トップパネルのチャンネルネームディスプレイの輝度を調整します。

⑥ CH Color 輝度調整スライダー(TF5/TF3/TF1)
トップパネルのチャンネルカラーの輝度を調整を設定します。

NETWORK 画面

TF シリーズの NETWORK 端子を使ってコンピューターと接続するときに必要となるネットワークアドレスを設定します。
接続するコンピューターやネットワークに合わせて設定してください。

NOTE
LAN に接続する場合の設定方法は、TF Editor のインストールガイドをご参照ください。



① IP アドレス取得方法ボタン
IP アドレスの取得方法を選択します。
DHCP: IP アドレスを DHCP(Dynamic Host Configuration Protocol)で自動的に取得します。
Static IP: IP アドレスを自分で設定します。

② IP Address
インターネットや LAN 内で、個々の装置を識別するアドレスを設定します。

③ Subnet Mask
ネットワークで使用する IP アドレスのうち、ネットワークを識別するネットワークアドレスに何ビットを使用するかを定義します。

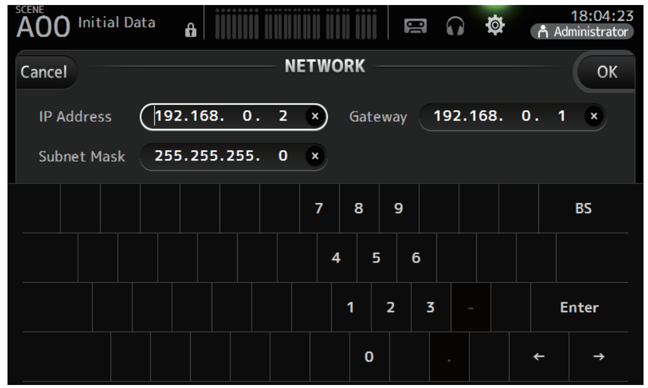
④ Gateway
ネットワーク内部で、媒体やプロトコルが異なるデータを相互変換する機器(ゲートウェイ)を特定するアドレスを設定します。

⑤ Unit Name
ネットワーク内で表示する名前を設定します。

⑥ PIN for MonitorMix(V1.1 以降)
MonitorMix アプリケーションで、TF シリーズ本体に接続するときに入力する PIN(4 桁の数字パスワード)を設定します。
MonitorMix とは、演奏者がステージ上からモニターバランスを調整するためのアプリケーションです。

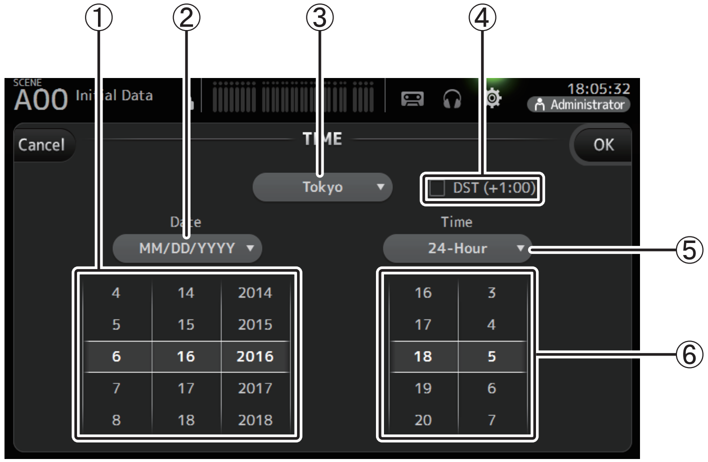
⑦ Refresh ボタン(V3.6 以降)
IP アドレスの取得方法が DHCP の時に表示されます。
ボタンを押すと DHCP からアドレスを再取得します。

NOTE
IP アドレス取得方法ボタンで DHCP を選択した場合、② 〜 ④ の設定は不要です。
Static IP を選択した場合は、② 〜 ④ を設定する画面を表示します。各項目の値を入力してください。



TIME 画面

本体に内蔵された時計の日時設定、および日付 / 時刻の表示方法を選びます。ここで設定した日付と時刻は、シーン保存時などのタイムスタンプに影響します。



① **日付設定**
内蔵時計の日付を設定します。

② **日付表示フォーマット**
内蔵時計の日付の表示方法を選択します。
表示方法は次の中から選択できます。
MM/DD/YYYY(月 / 日 / 西暦年)
DD/MM/YYYY(日 / 月 / 西暦年)
YYYY/MM/DD(西暦年 / 月 / 日)

③ **地域**
時刻を表示する地域を設定します。

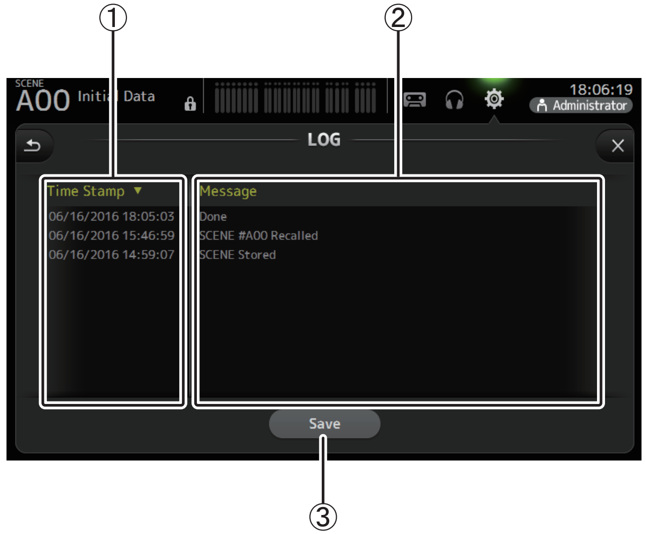
④ **DST(+1:00)**
サマータイムを設定します。
オンにすると、現在時刻を 1 時間進めます。

⑤ **時刻表示フォーマット**
内蔵時計の時刻の表示方法を選択します。
24-Hour(時刻を 0 ～ 23 時で表示)
12-Hour(時刻を AM0 ～ AM11 時、PM0 ～ PM11 時で表示)

⑥ **時刻設定**
内蔵時計の時刻を設定します。

LOG 画面

本機を操作して表示されたメッセージと、その日付、時刻の履歴を表示します。



① **Time Stamp 欄**
メッセージが表示された日付、時刻の一覧を表示します。
リストの項目名をタッチすると、日付、時刻順でソートします。

② **Message 欄**
メッセージの一覧を表示します。
リストの項目名をタッチすると、アルファベット順でソートします。

③ **Save ボタン**
履歴を USB ストレージデバイスに保存します。
USB ストレージデバイスを装着していない場合、このボタンは無効です。

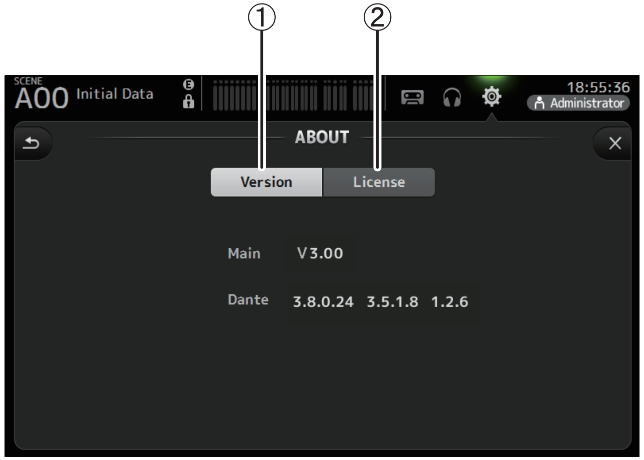
HELP 画面

TF シリーズの使い方(ヘルプ)を表示します。PREFERENCE 画面の Show Help at Startup をオンにしている場合は、TF シリーズが起動するとき、起動アニメーションに続いて HELP 画面を表示します。

左右にスワイプすると、ページが切り替わります。

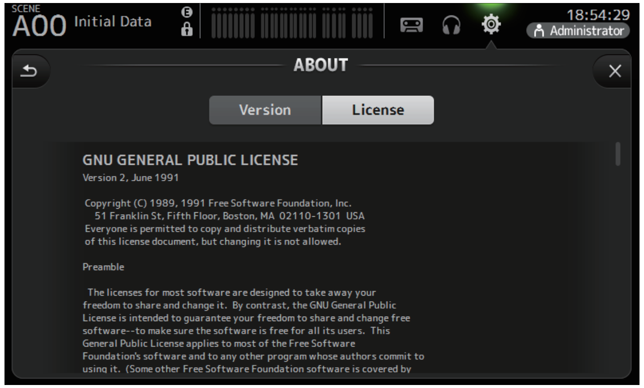
ABOUT 画面

システムソフトウェアのバージョンおよびライセンスを表示します。



① **Version ボタン**
システムソフトウェアのバージョンを表示します。
(V2.0 以降)NY64-D が挿入されている場合は、Dante のバージョンも表示されます。

② **License ボタン**
システムソフトウェアのライセンスを表示します。



LOGIN 画面(V3.0 以降)

TF シリーズ本体のアクセス制限を設定します。

ユーザーごとに操作できるパラメーターを制限することで、不用意な誤操作の防止や、ゲストエンジニアが操作できる範囲の制限などができます。

① **ログインユーザー選択アイコン**

ユーザー名やコメントもアイコン内に表示されます。

タッチすると、ログインするユーザーのパスワードを入力する画面が表示されます。パスワードが設定されていないユーザーには、タッチするだけでログインできます。

Administrator (管理者)

すべての機能を使用できます。管理者設定は、本体内に 1 つだけ保存できます。
他のユーザーのアクセス制限を操作できるのは管理者だけです。
他のユーザーがかけたコンソールロックを、管理者のパスワードで解除できます。
Administrator には、パスワードだけが設定できます。

Guest (ゲスト)

管理者が許可した範囲で使用できます。ゲスト設定は本体内に 1 つだけ保存できます。
Guest には、アクセス制限とコメントを設定できます。

User (ユーザー)

管理者が許可した範囲で使用できます。ユーザー設定は本体内に 3 つ保存できます。
User には、ユーザー名、パスワード、アクセス制限、コメントが設定できます。

NOTE

- 工場出荷時は管理者パスワードが設定されていません。(すべてのユーザーがフルアクセスの状態)他のユーザーの操作を制限したい場合は、必ず管理者パスワードを設定してください。
- パスワードを設定したユーザーがログインした状態で電源を切った場合、次回電源を入れたときに同じパスワードの入力を求められます。他のユーザーでログインしたい場合は、パスワードを入力する画面でキャンセルボタンを押して、表示される LOGIN 画面からユーザーを選択してください。

② **Console Lock アイコン**

タッチすると、ログインしているユーザーのパスワードを入力する画面が表示されます。

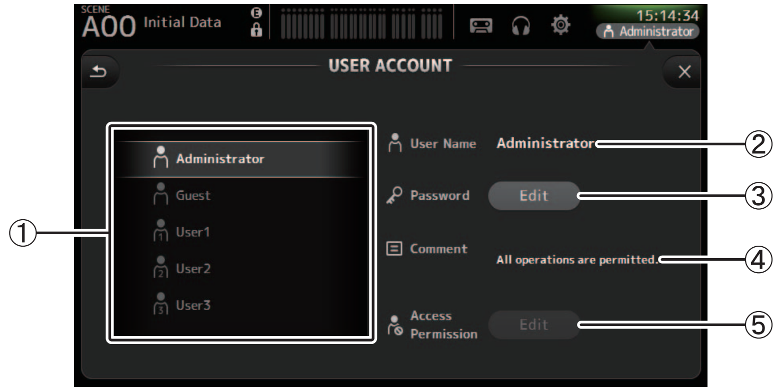
正しいパスワードが入力されると、CONSOLE LOCK 画面が表示されます。(→ P.46)

③ **User Account アイコン**

タッチすると USER ACCOUNT 画面が表示されます。

USER ACCOUNT 画面(V3.0 以降)

管理者権限のユーザーで、各ユーザーのアクセス制限を操作します。



① **ユーザー選択エリア**

アクセス制限の設定を編集するユーザーを選択します。

選択したユーザーの情報が右側に表示されます。

② **User Name (ユーザー名設定)テキストボックス**

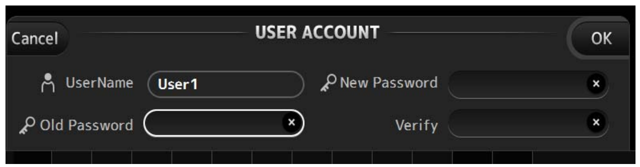
タッチすると、ユーザー名を編集する SOFT KEYBOARD 画面が表示されます。

Administrator と Guest は編集できません。

③ **Password Edit ボタン**

タッチすると、パスワードを設定する SOFT KEYBOARD 画面が表示されます。

はじめてパスワードを設定する場合は、New Password テキストボックスに入力してから、確認のため Verify テキストボックスに再入力します。設定したパスワードを変更する場合は、Old Password テキストボックスに現在のパスワードを入力してから、新しいパスワードを設定します。



④ Comment（コメント）テキストボックス
タッチすると、コメントを入力する SOFT KEYBOARD 画面が表示されます。

⑤ Access Permission（アクセス制限）Edit ボタン
タッチすると ACCESS PERMISSION 画面が表示されます。
管理者権限でログインしているときに、選択したユーザーのアクセス制限をパラメーターごとに設定します。

ACCESS PERMISSION 画面（V3.0 以降）

アクセスを許可するパラメーターを選択して、各ユーザーのアクセス制限を設定します。
管理者権限でログインしたときのみ表示されます。

① **設定対象切り替えボタン**
アクセス許可の設定対象を選択します。
選択したボタンによって、アクセス許可パラメーター表示が変わります。
GENERAL ボタンをタッチすると、SETUP 画面や SCENE 画面などのチャンネルに依存しない操作のアクセス対象が表示されます。

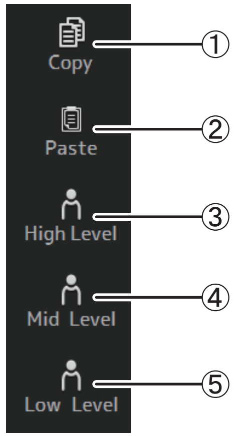
② **アクセス許可パラメーター名表示**
▼ボタンをタッチすると、全チャンネルで、アクセス許可パラメーターのオン / オフが切り替わります。
アクセス許可パラメーターがすべてのチャンネルでオンのときは、▼ボタンが緑色になります。一部のチャンネルでオンのときは青色、すべてオフの場合は灰色になります。

③ **アクセス許可パラメーター設定ボタン**
アクセス許可パラメーターのオン / オフを切り替えます。
対象ユーザーは、ここでオンにしたパラメーターだけが操作できるようになります。
対象となるパラメーターの詳細は、アクセス許可対象パラメーターリストを参照してください。
（→ P.98）

④ **チャンネル情報表示**
チャンネル ID、チャンネル名、アイコンを表示します。
▶ボタンをタッチすると、そのチャンネルにあるアクセス許可パラメーターのオン / オフを切り替えます。
アクセス許可パラメーターがすべてオンのときは、▶ボタンが緑色になります。一部のパラメーターがオンのときは青色、すべてオフの場合は灰色になります。

ACCESS PERMISSION 画面のメニュー

ACCESS PERMISSION 画面でメニューキー を押すと、以下のメニューアイコンが表示されます。



① Copy
表示しているユーザーの ACCESS PERMISSION の設定をコピーバッファーに格納します。

② Paste
コピーバッファーに格納されている ACCESS PERMISSION の設定を、表示しているユーザーにペーストします。

③ High Level

④ Mid Level

⑤ Low Level
ユーザーの習熟度に応じた ACCESS PERMISSION の設定を、表示しているユーザーに適用します。
High Level：ネットワーク設定と時刻設定の変更のみ制限をかけた上級者向けテンプレート
Mid Level：チャンネル操作以外のシステム設定を中心に制限をかけた中級者向けテンプレート
Low Level：チャンネルのオン / オフとフェーダーレベル操作といった基本操作のみ許可する初級者向けテンプレート

アクセス制限をかける

1. LOGIN 画面から Administrator でログインする

2. LOGIN 画面から User Account アイコンをタッチして、USER ACCOUNT 画面を表示する

3. アクセス制限をかけるユーザーを選択し、ユーザー名、パスワード、コメントを設定する

4. Access Permission Edit ボタンをタッチして、ACCESS PERMISSION 画面を表示する

5. アクセス制限をかけたいパラメーターのアクセス許可をオフにする

6. アクセス制限がかかったかどうかを確認するために、もう一度 LOGIN 画面を開き、アクセス制限をかけたユーザーでログインする

7. アクセス制限をかけたパラメーターを操作して、「Permission Denied!」というメッセージが表示されることを確認する

ユーザー設定を初期化する

本体を初期化すると、すべてのユーザーパスワードが解除されて、パラメーターをすべて操作できるようになります。(→ P.93)

ユーザー設定を他の TF シリーズにロードする

1. SAVE/LOAD 画面で、TF シリーズの内部設定を保存する

2. ユーザー設定をロードしたい TF シリーズに、管理者権限でログインする

3. SAVE/LOAD 画面で、手順 **1** で保存した設定ファイルを選択して、Load ボタンをタッチする

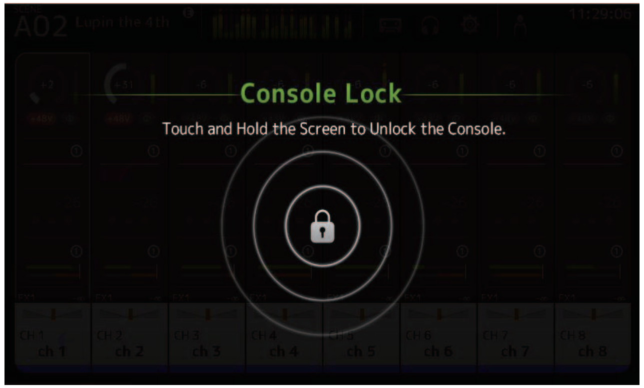
4. LOAD SELECT 画面で、Custom にある User Account だけにチェックを入れて Load ボタンをタッチする

CONSOLE LOCK 画面

誤操作を防ぐために、一時的に本体の操作を禁止できます。

CONSOLE LOCK 画面の表示中は、すべての操作子が操作できなくなります。

CONSOLE LOCK を解除するには、CONSOLE LOCK 画面を長押しします。パスワードを入力する画面が表示されたら、ログインしているユーザー、または管理者のパスワードを入力してください。



OVERVIEW 画面

チャンネルストリップ情報の概要を表示する画面です。

トップパネルのホームキー ( ) を押して表示します。

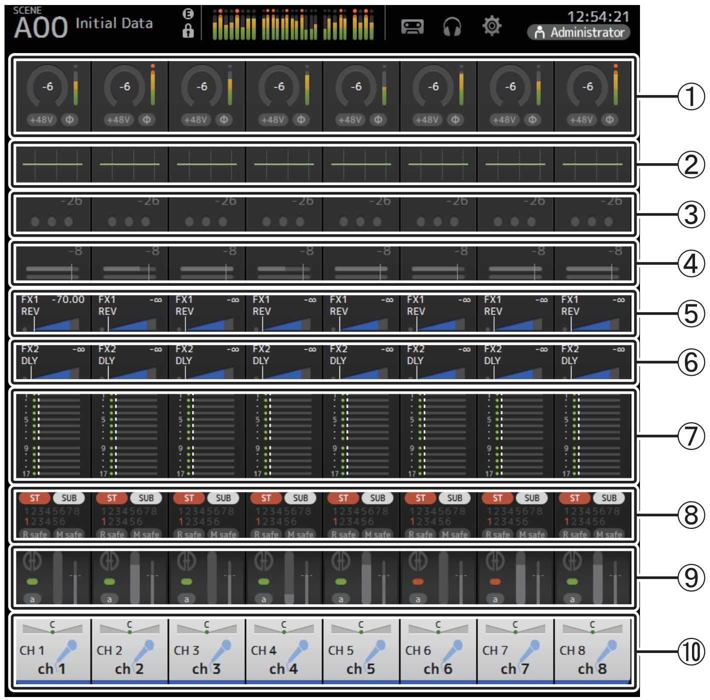
TF5/TF3/TF1 では CH STRIP セクションが、TF-RACK では FADER セクションがホーム画面になっています。また、TF-RACK では、ホームキーを押すたびに、CH STRIP セクションと FADER セクションが交互に表示されます。

NOTE

TF5/TF3/TF1 では、SETUP 画面→ PREFERENCE 画面にある、Key Function → [HOME] key で「Fader」を選択すると、OVERVIEW 画面に FADER セクションが表示されるようになります。ホームキーを押すたびに、[Home] Key 選択されたセクションが順番に表示されます。

CH STRIP セクション

インプットチャンネル



① INPUT 画面を表示します。(→ P.57)

② EQ 画面を表示します。(→ P.59)

③ GATE 画面を表示します。(→ P.63)

④ COMP 画面を表示します。(→ P.65)

⑤ FX1 画面を表示します。(→ P.67)

⑥ FX2 画面を表示します。(→ P.67)

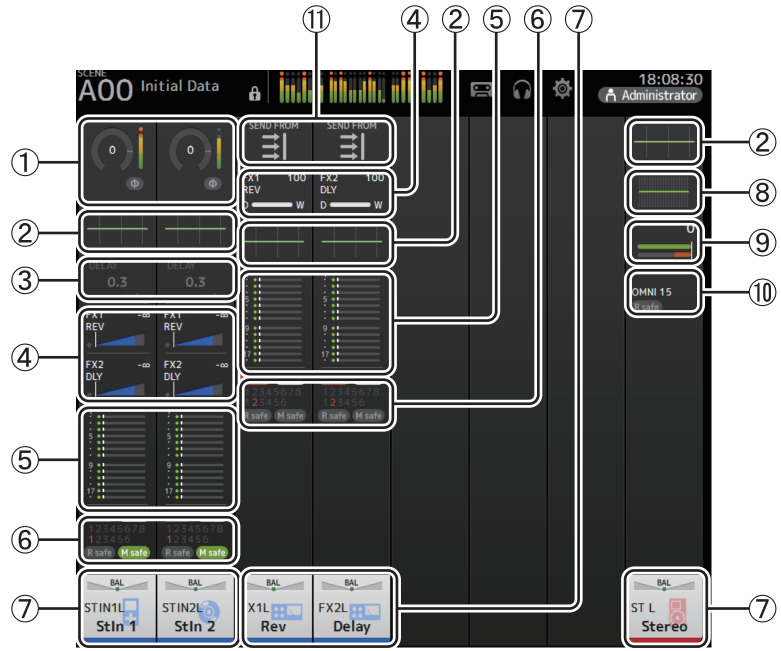
⑦ SEND TO AUX 画面を表示します。(→ P.73)

⑧ ASSIGN 画面を表示します。(→ P.74)

⑨ AUTOMIXER 画面を表示します。(V3.5 以降) (→ P.74)

⑩ CH VIEW 画面を表示します。(→ P.76)

ステレオチャンネル



① INPUT 画面を表示します。(→ P.57)

② EQ 画面を表示します。(→ P.59)

③ DELAY 画面を表示します。(V4.0 以降) (→ P.92)

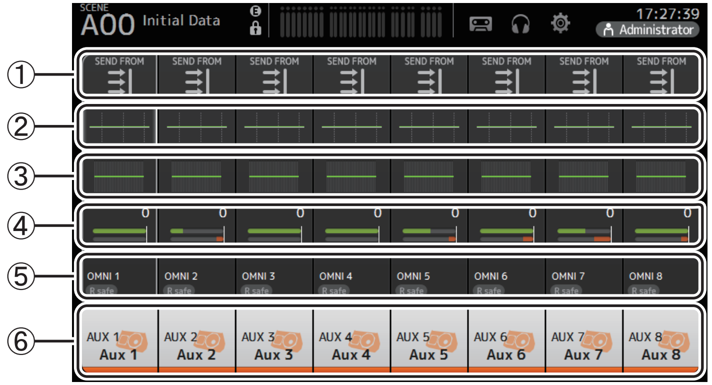
④ FX1/FX2 画面を表示します。(→ P.67)

⑤ SEND TO AUX 画面を表示します。(→ P.73)

⑥ ASSIGN 画面を表示します。(→ P.74)

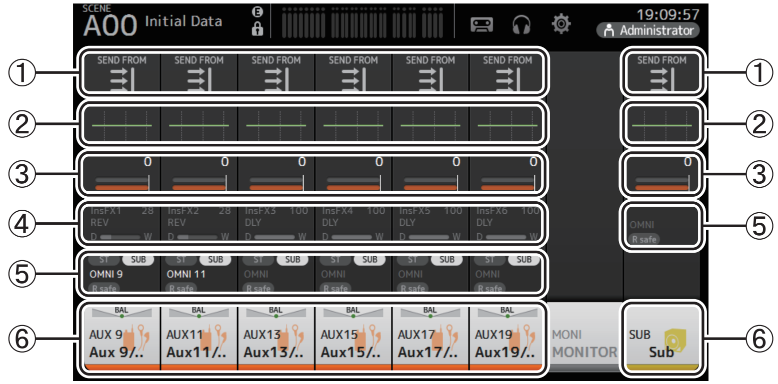
⑦ CH VIEW 画面を表示します。(→ P.76)
⑧ GEQ 画面を表示します。(→ P.85)
⑨ COMP 画面を表示します。(→ P.65)
⑩ OUTPUT 画面を表示します。(→ P.87)
⑪ SEND FROM 画面を表示します。(→ P.88)(V3.0 以降)

AUX1 ～ AUX8 チャンネル



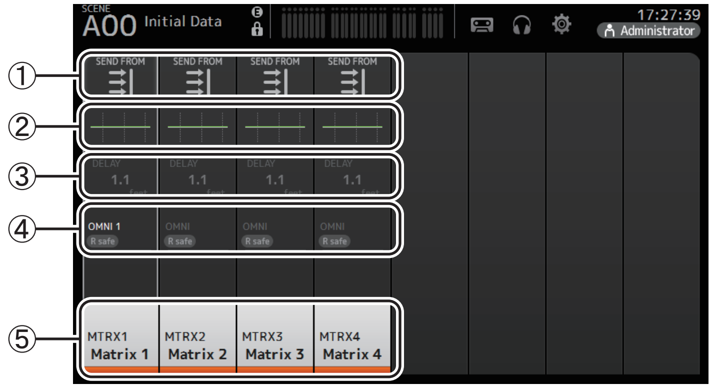
① SEND FROM 画面を表示します。(→ P.88)
② EQ 画面を表示します。(→ P.59)
③ GEQ 画面を表示します。(→ P.85)
④ COMP 画面を表示します。(→ P.65)
⑤ OUTPUT 画面を表示します。(→ P.87)
⑥ CH VIEW 画面を表示します。(→ P.76)

AUX9/10 ～ 19/20 チャンネル、SUB チャンネル



① SEND FROM 画面を表示します。(→ P.88)
② EQ 画面を表示します。(→ P.59)
③ COMP 画面を表示します。(→ P.65)
④ FX 画面を表示します。(→ P.67)
⑤ OUTPUT 画面を表示します。(→ P.87)
⑥ CH VIEW 画面を表示します。(→ P.76)

MATRIX1 ～ 4 チャンネル(V2.5 以降)



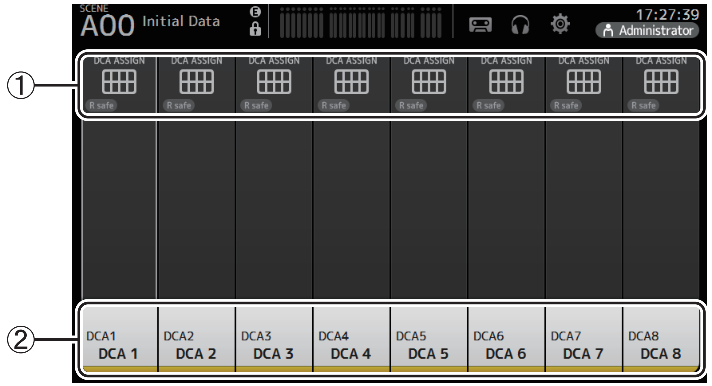
① SEND FROM 画面を表示します。(→ P.88)
② EQ 画面を表示します。(→ P.59)
③ DELAY 画面を表示します。(→ P.92)

④ OUTPUT 画面を表示します。(→ P.87)
⑤ CH VIEW 画面を表示します。(→ P.76)

NOTE

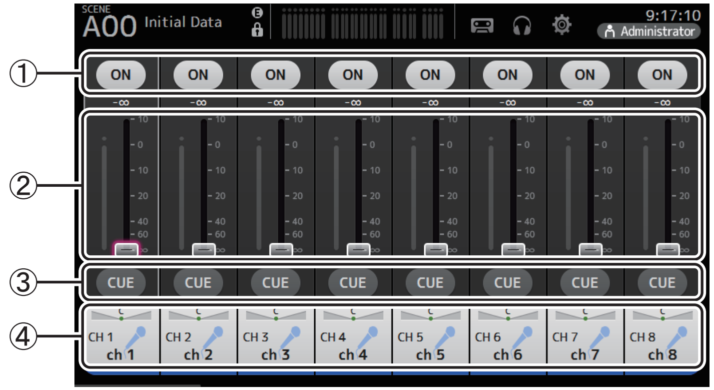
- MATRIX1 ～ 4 チャンネルは、OUTPUT FADER BANK にあります。トップパネルのフェーダーに展開する場合は、FADER BANK セクションの [OUTPUT] キーを押して、チャンネルストリップに OUTPUT BANK を表示してください。
- TF1 の場合、MATRIX1 ～ 4 チャンネルは、本体のフェーダーには展開されず、ディスプレイにのみ表示されます。画面を右にスクロールしてください。フェーダーに展開する場合は、CUSTOM FADER BANK に登録してください。

グループチャンネル



① DCA ASSIGN 画面を表示します。(→ P.90)
② CH VIEW 画面を表示します。(→ P.76)

FADER セクション



① **ON ボタン**
チャンネルのオン / オフを切り替えます。

② **フェーダー**
チャンネルのフェーダーレベルを操作します。

③ **CUE ボタン**
チャンネルのキューのオン / オフを切り替えます。

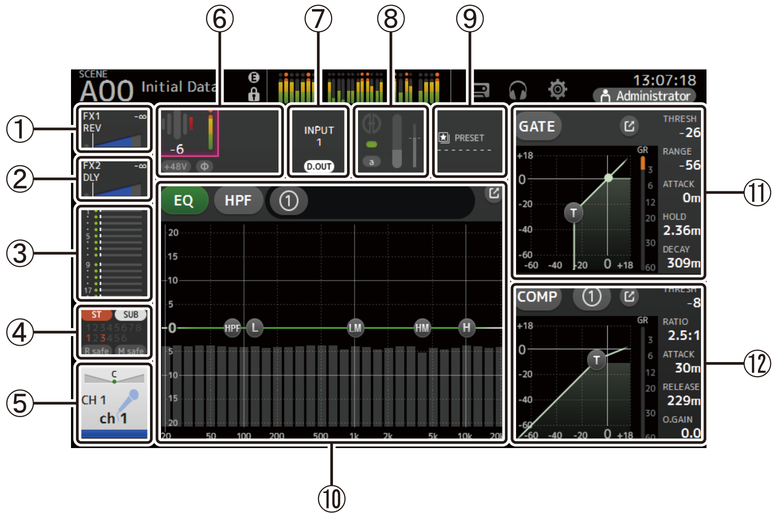
④ CH VIEW 画面を表示します。(→ P.76)

SELECTED CHANNEL セクション(V4.0 以降)

NOTE

SELECTED CHANNEL セクションの EQ、GEQ、GATE、COMP では、ドラッグ操作のほか、各パラメーターをタッチしてフォーカスした状態で、[TOUCH AND TURN] ノブを使った操作ができます。

CH1 ～ CH32



① FX1 画面を表示します。(→ P.67)

② FX2 画面を表示します。(→ P.67)

③ SEND TO AUX 画面を表示します。(→ P.73)

④ ASSIGN 画面を表示します。(→ P.74)

⑤ CH VIEW 画面を表示します。(→ P.76)

⑥ HA の状態を表示します。
タッチしてフォーカスした状態で [TOUCH AND TURN] ノブを回すと、ゲインを調整できます。
フォーカスした状態でタッチすると INPUT 画面を表示します。(→ P.57)
ステレオリンクを設定しているチャンネルでは 2 つの HA が表示されます。

⑦ 入力ポートと DIRECT OUT の ON/OFF の状態を表示します。

⑧ AUTOMIXER 画面を表示します。(→ P.74)

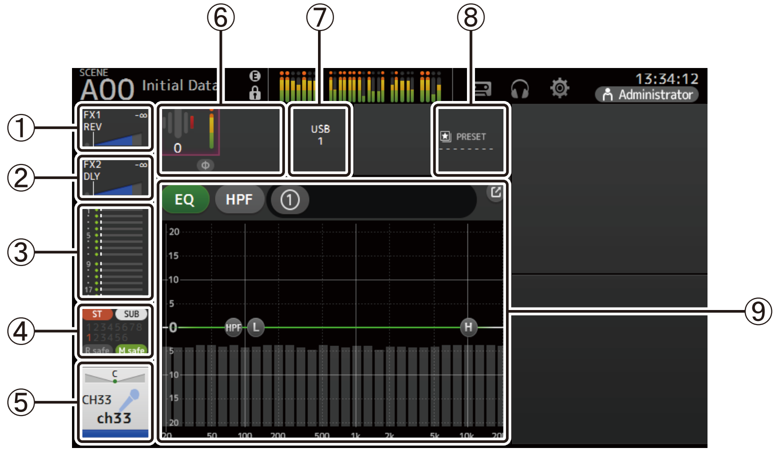
⑨ LIBRARY 画面を表示します。(→ P.8)

⑩ チャンネルの EQ を設定します。
① ボタンで 1-knob モードとマニュアルモードを切り替えます。
1-knob EQ モードのタイプ選択やフィルタータイプの切り替えは EQ 画面で設定します。
マークをタッチすると EQ 画面を表示します。(→ P.59)

⑪ チャンネルの GATE を設定します。
マークをタッチすると GATE 画面を表示します。(→ P.63)

⑫ チャンネルの COMP を設定します。
① ボタンで 1-knob モードとマニュアルモードを切り替えます。
マークをタッチすると COMP 画面を表示します。(→ P.65)

CH33 ～ CH40



① FX1 画面を表示します。(→ P.67)

② FX2 画面を表示します。(→ P.67)

③ SEND TO AUX 画面を表示します。(→ P.73)

④ ASSIGN 画面を表示します。(→ P.74)

⑤ CH VIEW 画面を表示します。(→ P.76)

⑥ HA の状態を表示します。
タッチしてフォーカスした状態で [TOUCH AND TURN] ノブを回すと、ゲインを調整できます。
フォーカスした状態でタッチすると INPUT 画面を表示します。(→ P.57)

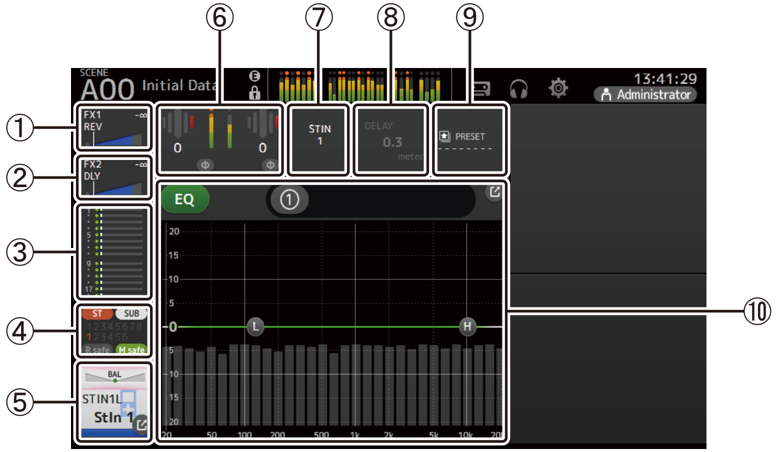
⑦ 入力ポートを表示します。

⑧ LIBRARY 画面を表示します。(→ P.8)

⑨ チャンネルの EQ を設定します。

① ボタンで 1-knob モードとマニュアルモードを切り替えます。
1-knob EQ モードのタイプ選択やフィルタータイプの切り替えは EQ 画面で設定します。
マークをタッチすると EQ 画面を表示します。(→ P.59)

ST IN1L ～ 2R



① FX1 画面を表示します。(→ P.67)

② FX2 画面を表示します。(→ P.67)

③ SEND TO AUX 画面を表示します。(→ P.73)

④ ASSIGN 画面を表示します。(→ P.74)

⑤ CH VIEW 画面を表示します。(→ P.76)

⑥ HA の状態を表示します。
タッチしてフォーカスした状態で [TOUCH AND TURN] ノブを回すと、ゲインを調整できます。
フォーカスした状態でタッチすると INPUT 画面を表示します。(→ P.57)

⑦ 入力ポートを表示します。

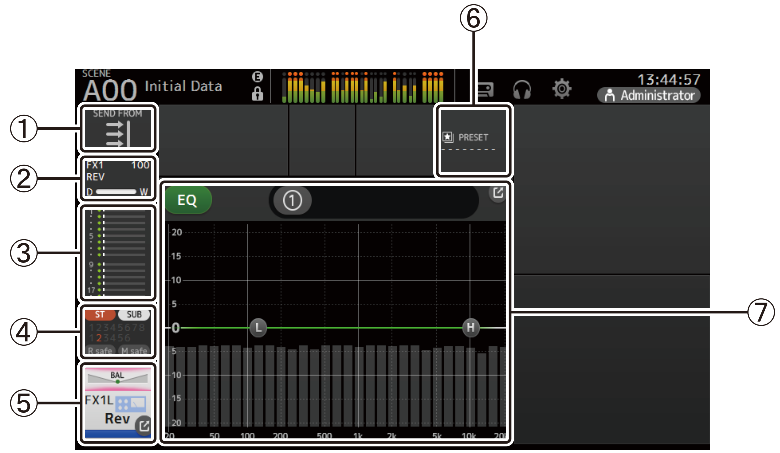
⑧ DELAY 画面を表示します。(→ P.92)

⑨ LIBRARY 画面を表示します。(→ P.8)

⑩ チャンネルの EQ を設定します。

① ボタンで 1-knob モードとマニュアルモードを切り替えます。
1-knob EQ モードのタイプ選択やフィルタータイプの切り替えは EQ 画面で設定します。
マークをタッチすると EQ 画面を表示します。(→ P.59)

FX1L ～ 2R



① SEND FROM 画面を表示します。(→ P.88)

② FX 画面を表示します。(→ P.67)

③ SEND TO AUX 画面を表示します。(→ P.73)

④ ASSIGN 画面を表示します。(→ P.74)

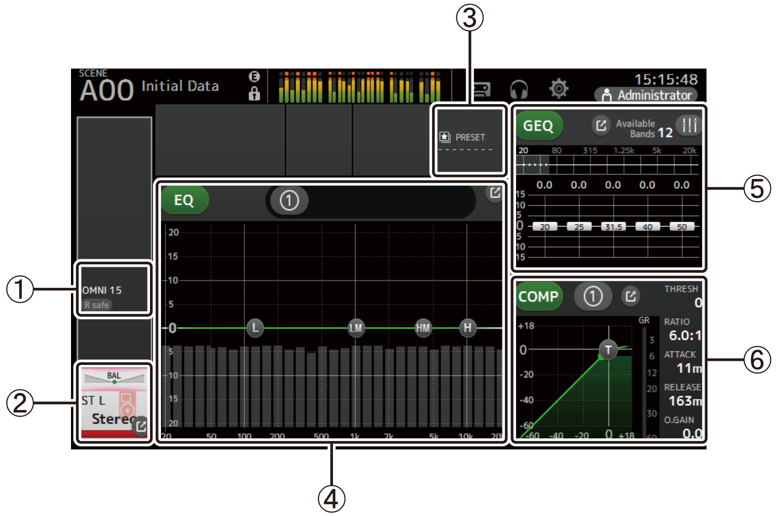
⑤ CH VIEW 画面を表示します。(→ P.76)

⑥ LIBRARY 画面を表示します。(→ P.8)

⑦ チャンネルの EQ を設定します。

① ボタンで 1-knob モードとマニュアルモードを切り替えます。
1-knob EQ モードのタイプ選択やフィルタータイプの切り替えは EQ 画面で設定します。
マークをタッチすると EQ 画面を表示します。(→ P.59)

ST L/R



① OUTPUT 画面を表示します。(→ P.87)

② CH VIEW 画面を表示します。(→ P.76)

③ LIBRARY 画面を表示します。(→ P.8)

④ チャンネルの EQ を設定します。

① ボタンで 1-knob モードとマニュアルモードを切り替えます。
1-knob EQ モードのタイプ選択やフィルタータイプの切り替えは EQ 画面で設定します。

マークをタッチすると EQ 画面を表示します。(→ P.59)

⑤ チャンネルの GEQ を設定します。

TF5/TF3/TF1 では、 マークをタッチしてオンにすると、トップパネルのフェーダーで操作できます。

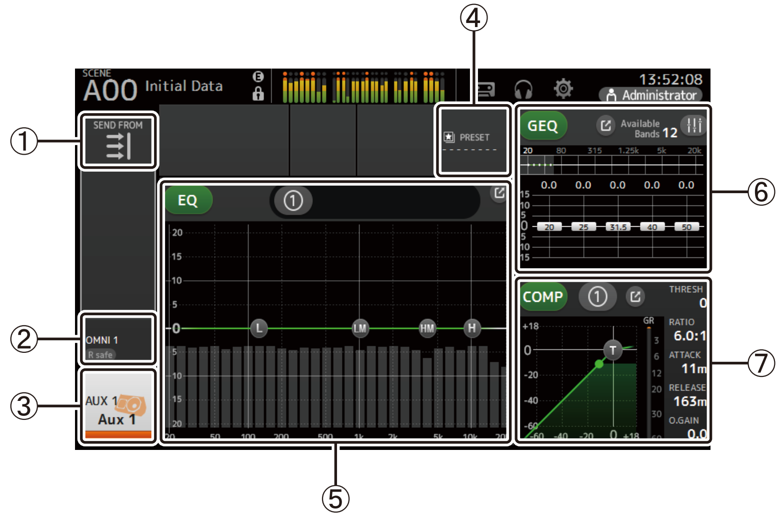
マークをタッチすると GEQ 画面を表示します。(→ P.85)

⑥ チャンネルの COMP を設定します。

① ボタンで 1-knob モードとマニュアルモードを切り替えます。

マークをタッチすると COMP 画面を表示します。(→ P.65)

AUX1 ～ AUX8



① SEND FROM 画面を表示します。(→ P.88)

② OUTPUT 画面を表示します。(→ P.87)

③ CH VIEW 画面を表示します。(→ P.76)

④ LIBRARY 画面を表示します。(→ P.8)

⑤ チャンネルの EQ を設定します。

① ボタンで 1-knob モードとマニュアルモードを切り替えます。
1-knob EQ モードのタイプ選択やフィルタータイプの切り替えは EQ 画面で設定します。

マークをタッチすると EQ 画面を表示します。(→ P.59)

⑥ チャンネルの GEQ を設定します。

TF5/TF3/TF1 では、 マークをタッチしてオンにすると、トップパネルのフェーダーで操作できます。

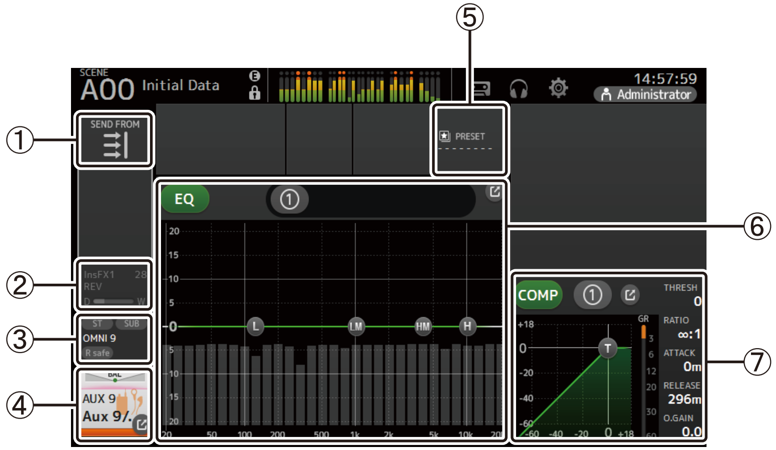
マークをタッチすると GEQ 画面を表示します。(→ P.85)

⑦ チャンネルの COMP を設定します。

① ボタンで 1-knob モードとマニュアルモードを切り替えます。

マークをタッチすると COMP 画面を表示します。(→ P.65)

AUX9 ～ AUX20



① SEND FROM 画面を表示します。(→ P.88)

② FX 画面を表示します。(→ P.67)

③ OUTPUT 画面を表示します。(→ P.87)

④ CH VIEW 画面を表示します。(→ P.76)

⑤ LIBRARY 画面を表示します。(→ P.8)

⑥ チャンネルの EQ を設定します。

① ボタンで 1-knob モードとマニュアルモードを切り替えます。
1-knob EQ モードのタイプ選択やフィルタータイプの切り替えは EQ 画面で設定します。

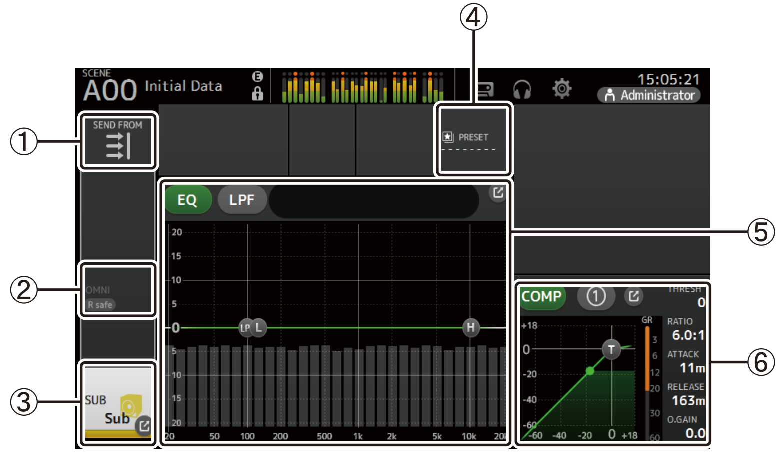
マークをタッチすると EQ 画面を表示します。(→ P.59)

⑦ チャンネルの COMP を設定します。

① ボタンで 1-knob モードとマニュアルモードを切り替えます。

マークをタッチすると COMP 画面を表示します。(→ P.65)

SUB



① SEND FROM 画面を表示します。(→ P.88)

② OUTPUT 画面を表示します。(→ P.87)

③ CH VIEW 画面を表示します。(→ P.76)

④ LIBRARY 画面を表示します。(→ P.8)

⑤ チャンネルの EQ を設定します。

① ボタンで 1-knob モードとマニュアルモードを切り替えます。
1-knob EQ モードのタイプ選択やフィルタータイプの切り替えは EQ 画面で設定します。

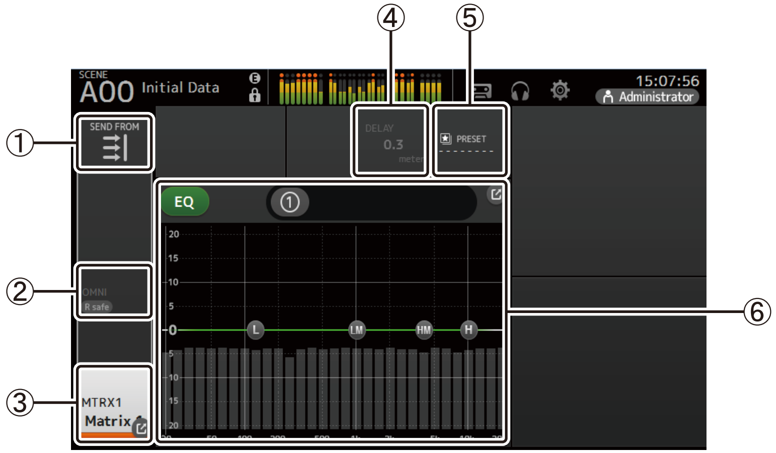
マークをタッチすると EQ 画面を表示します。(→ P.59)

⑥ チャンネルの COMP を設定します。

① ボタンで 1-knob モードとマニュアルモードを切り替えます。

マークをタッチすると COMP 画面を表示します。(→ P.65)

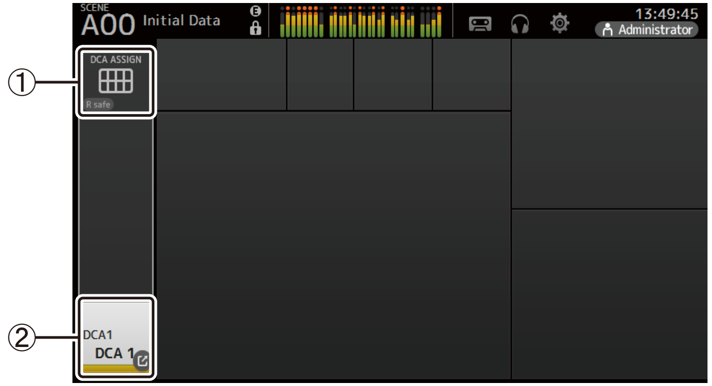
MATRIX1 ～ MATRIX4



①SEND FROM 画面を表示します。(→ P.88)
②OUTPUT 画面を表示します。(→ P.87)
③CH VIEW 画面を表示します。(→ P.76)
④DELAY 画面を表示します。(→ P.92)
⑤LIBRARY 画面を表示します。(→ P.8)
⑥チャンネルの EQ を設定します。

① ボタンで 1-knob モードとマニュアルモードを切り替えます。
1-knob EQ モードのタイプ選択やフィルタータイプの切り替えは EQ 画面で設定します。
マークをタッチすると EQ 画面を表示します。(→ P.59)

DCA1 ～ DCA8



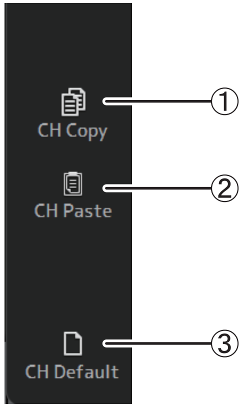
①DCA ASSIGN 画面を表示します。(→ P.90)
②CH VIEW 画面を表示します。(→ P.76)

OVERVIEW 画面の操作

画面上のアイテムをタッチすると、タッチしたアイテムをフォーカス(ピンク色か白色の枠を表示)します。ピンク色の枠が表示されているときは、[TOUCH AND TURN] ノブでパラメーターを操作できます。
フォーカスされている状態でもう一度タッチすると、タッチしたチャンネルの専用画面を表示します。
上下左右にドラッグまたはスワイプすることで、画面をスクロールできます。

OVERVIEW 画面のメニュー

OVERVIEW 画面でメニューキー を押すと次のコンテキストメニューが表示されます。

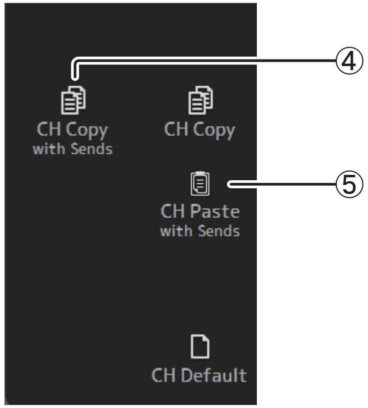


① **CH Copy**
選択しているチャンネルの設定をコピーします。

② **CH Paste**
選択しているチャンネルに、コピーしたチャンネルの設定をペーストします。

③ **CH Default**
選択しているチャンネルの設定を初期化します。

AUX/MATRIX チャンネルの場合（V4.0 以降）

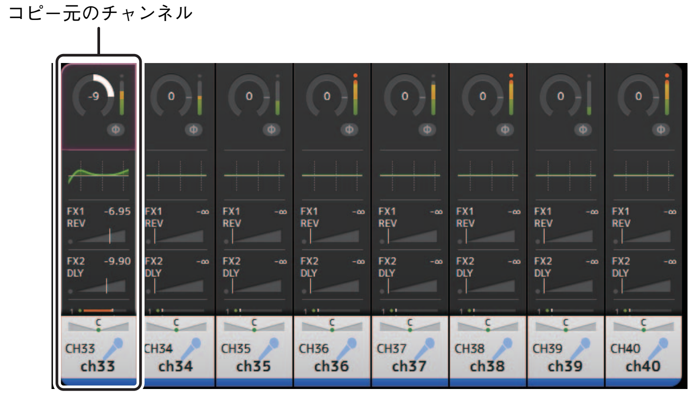


④ **CH Copy with Sends**
選択しているチャンネルの設定を Sends も含めてコピーします。

⑤ **CH Paste with Sends**
選択しているチャンネルに、コピーしたチャンネルの設定を Sends も含めてペーストします。
CH Copy with Sends が実行されたときに、CH Paste のアイコンが CH Paste with Sends に変化します。

チャンネルの設定をコピーして他のチャンネルにペーストする

1. **コピー元のチャンネルをタッチして選択する**



2. **メニューキー を押す**
メニューを表示します。

3. **CH Copy アイコンをタッチする**
設定をコピーし、メニューを閉じます。

4. コピー先のチャンネルをタッチして選択する

コピー先のチャンネル

5. メニューキー ( ) を押す

メニューを表示します。

6. CH Paste アイコンをタッチする

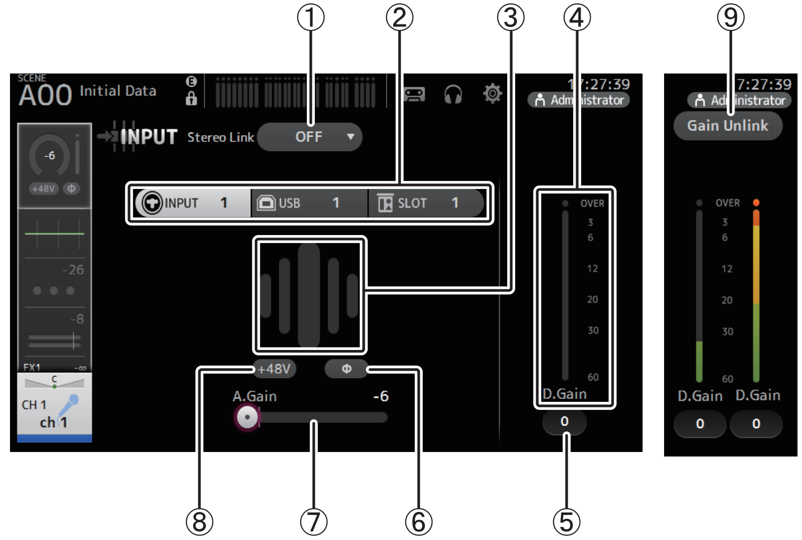
CH Paste アイコン

コピー元のチャンネルの設定をコピー先のチャンネルにペーストし、メニューを閉じます。

ペースト完了

INPUT 画面

ステレオリンクの設定、入力ソースの選択、ファンタム電源のオン / オフ、フェイズの切り替え、入力ゲインを設定します。



① **ステレオリンク選択ボタン**
隣り合った 2 つのモノラルインプットチャンネルを選択し、ステレオリンクの機能を設定します。タッチすると、ポップアップメニューを表示します。
OFF: ステレオリンクの設定を無効にします。
CH1&2: ステレオリンクを設定します。設定すると、奇数チャンネルは L、偶数チャンネルは R にパンが振り切られます。CH の数字は選択しているチャンネルによって変わります。
CH2&3: ステレオリンクを設定します。設定すると、偶数チャンネルは L、奇数チャンネルは R にパンが振り切られます。CH の数字は選択しているチャンネルによって変わります。

② **インプット選択ボタン**
インプットチャンネルの入力ソース(入力ポート)を切り替えます。選択できるインプットは、選択中のチャンネルによって異なります。
INPUT: INPUT 端子に接続した機器からの入力を選択します。
USB: USB TO HOST 端子に接続したコンピューターからの入力を選択します。
SLOT(V2.0 以降): 拡張スロットに挿入された NY64-D からの入力を選択します。NY64-D と Dante ネットワークで接続された Tio1608-D などのステージボックスからの入力の選択に使用してください。SLOT のポート番号とチャンネルの対応は「クイックコンフィグ時のチャンネル対応表」(→ P.106)をご参照ください。
Playback: ST IN1 で表示されます。トップパネルの USB 端子に挿入したポータブルデバイスなどからの入力を選択します。

NOTE
USB を選択したときは、⑦ ゲインスライダーがデジタルゲインとなり、⑧+48V ボタンが非表示になります。
SLOT を選択した場合、SLOT SETUP 画面の「HA Control」ボタンが ON になっていないときはアナログゲインおよび +48V ボタンの操作はできません。また、ヘッドアンプの操作ができない機器からの入力のときは、⑦ ゲインスライダーがデジタルゲインとなり、⑧+48V ボタンが非表示になります。

入力ソースを SLOT に設定しても、実際の入力ソースがない場合(例 :NY64-D カードが挿入されていない、Tio1608-D などのステージボックスが接続されていない、Dante のパッチがされていない)は、「仮想の HA」であることを本画面および OVERVIEW 画面、CH VIEW 画面の HA ボックス部分にも表示します。

③ **GainFinder(ゲインファインダー)**
入力ゲインレベルを表示します。音声を入力したときに、レベル表示が中央に合うように調整すると、入力ゲインを適切な範囲に設定できます。インプット選択で USB を選択しているときは、デジタル段の入力ゲインレベルが表示されます。

④ **レベルメーター**
ゲイン調整後のレベルを表示します。

⑤ **デジタルゲインテキストボックス**
デジタルゲインを設定します。初期設定では 0dB に設定されています。テキストボックスをタッチし、フォーカスした状態で[TOUCH AND TURN]ノブを回すと値が変化します。また、フォーカスした状態で再度テキストボックスをタッチすると、キーボード画面から値を直接入力できます。

⑥ **Φ(フェイズ)ボタン**
信号の位相を切り替えます。
オンにすると、入力される信号の位相を反転します。

⑦ **ゲインスライダー**
インプット選択が INPUT のときは、ヘッドアンプのアナログゲインを設定します。
アナログゲインを +17dB と +18dB の間で変化させると、PAD(-24dB)のオン / オフが切り替わります。
インプット選択が USB のときは、デジタルゲインを設定します。

⑧ **+48V ボタン**
ヘッドアンプのファンタム電源(+48V)のオン / オフを切り替えます。
オン: ファンタム電源をオンにします。
オフ: ファンタム電源をオフにします。
インプット選択が USB のときは非表示になります。

注記

ファンタム電源について
ファンタム電源が不要な場合、+48V ボタンをオフにしてください。
ファンタム電源を使用する場合は、本体 / 外部機器の故障やノイズを防ぐために、次の内容にご注意ください。
・ INPUT 端子にファンタム電源非対応の機器を接続するときは、+48V ボタンをオフにする。
・ +48V ボタンをオンにしたまま、ケーブルの抜き差しをしない。
・ +48V ボタンのオン / オフは、そのチャンネルのボリュームをすべて最小にした状態で行なう。

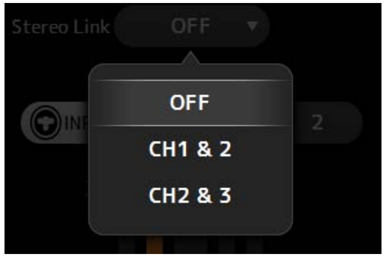
NOTE
ファンタム電源を使用中で、INPUT 端子に接続されている機器の Hot と Cold 間の出力インピーダンスに差がある場合にはノイズが発生することがあります。

⑨ **Gain Unlink ボタン(V1.1 以降)**
ステレオチャンネル、またはステレオリンクの設定をオンにしたときに表示されます。
ボタンを押している間、ゲイン操作のリンクが一時的にオフになり、左右のゲインを個別に操作できます。ボタンを離すと、ボタンを離したときの差分を保ったまま左右のゲインがリンク動作します。

ステレオリンク、入力ソースを設定する

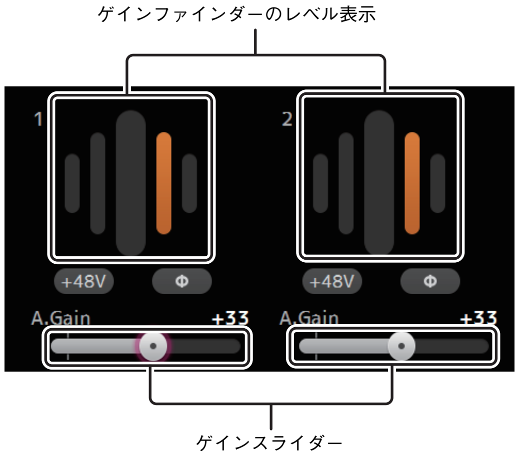
1. INPUT 画面を表示する(→ P.5)

2. ステレオリンク選択ボタンにタッチして、ステレオリンクの機能を設定する

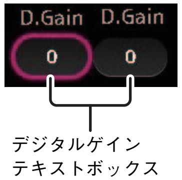


3. インプット選択ボタンにタッチして、インプットチャンネルの入力ソースを切り替える

4. ゲインスライダーをドラッグして、ヘッドアンプのゲインを設定する
ゲインファインダーのレベル表示が中央に合うよう、調整してください。

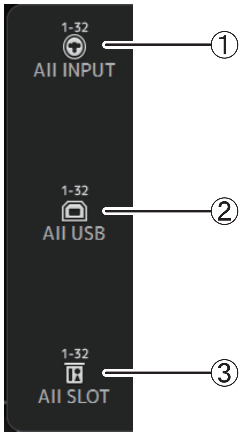


5. デジタルゲインテキストボックスをタッチし、フォーカスした状態で[TOUCH AND TURN]ノブを回し、デジタルゲインを調整する



INPUT 画面のメニュー(V1.1 以降)

INPUT 画面でメニューキー を押すと、以下のメニューアイコンが表示されます。



① All INPUT
入力ソースを INPUT 端子に一括で切り替えます。

② All USB
入力ソースを USB TO HOST 端子に接続したコンピュータからの接続に一括で切り替えます。

③ All SLOT(V2.0 以降)
入力ソースを拡張スロットの NY64-D に接続された Dante ネットワーク機器からの入力に一括で切り替えます。

切り替える単位は下記のとおりとなります。

TF5 :
CH1-32 が選択されているときは、CH1-32 を一括で切り替え。
CH33-40 が選択されているときは、CH33-40 を一括で切り替え。

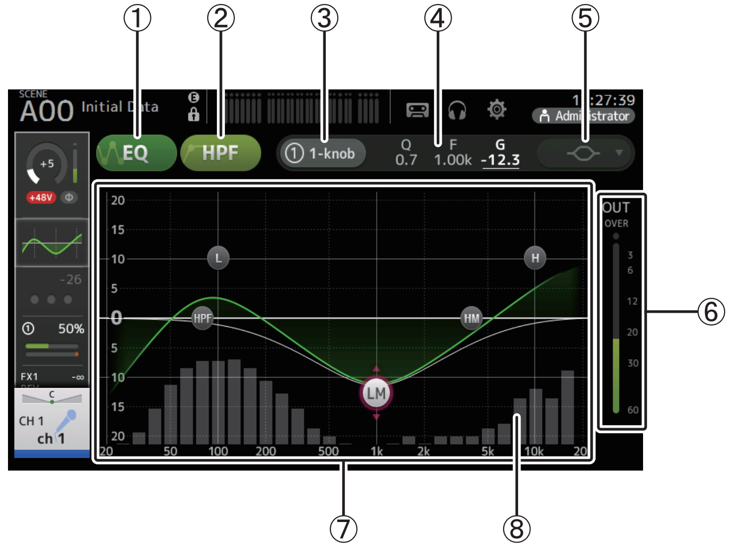
TF3 :
CH1-24 が選択されているときは、CH1-24 を一括で切り替え。
CH25-32 が選択されているときは、CH25-32 を一括で切り替え。
CH33-40 が選択されているときは、CH33-40 を一括で切り替え。

TF1/TF-RACK :
CH1-16 が選択されているときは、CH1-16 を一括で切り替え。
CH17-32 が選択されているときは、CH17-32 を一括で切り替え。

EQ 画面

各チャンネルの EQ を設定します。CH 1-32, AUX 1-20, STEREO, MATRIX1-4 には 4 バンド、CH33-40, ST IN 1, ST IN 2, FX1, FX2, SUB には 2 バンドのパラメトリック EQ が用意されています。[TOUCH AND TURN] ノブひとつの操作で簡単に操作できる 1-knob モードと、個別にパラメーターを操作するマニュアルモードの切り替えもこの画面で操作します。

4 バンドパラメトリック EQ



① EQ ボタン
EQ のオン / オフを切り替えます。

② HPF ボタン
HPF(ハイパスフィルター)のオン / オフを切り替えます。
CH1 ~ CH40 で表示します。

③ 1-knob ボタン
1-knob EQ モードとマニュアルモードを切り替えます。
1-knob EQ モードのときは、ボタンの横に 1-knob レベルスライダーが表示されます。

④ 1-knob レベルスライダー
1-knob EQ のかかり具合を調節します。
マニュアルモードの場合は、選択中のバンドの Q/F/G の情報が表示されます。

⑤ **EQ モードタイプ選択ボタン**

1-knob EQ モードの場合は、1-knob EQ のタイプを選択します。ボーカルには「Vocal」を、それ以外の楽器には、「Intensity」を選びます。

「Intensity」の場合は、マニュアルモードで設定した値を中間値として、フラットから設定値をさらに強調した設定の間を操作できます。

出力チャンネルの EQ には「Loudness」が用意されています。低域と高域を強調する設定を操作できます。

選択できるタイプは、次のようにチャンネルによって異なります。

タイプ	チャンネル								
	CH1-32 HPF+ 4 バンド	CH33-40 HPF+ 2 バンド	ST IN 2 バンド	FX 2 バンド	STEREO 4 バンド	AUX1-8 4 バンド	AUX9/10-AUX19/20 4 バンド	MATRIX1-4 4 バンド	SUB 2 バンド +LPF
Intensity	○	○	○	○	○	○	○	○	×
Vocal	○	×	×	×	×	×	×	×	×
Loudness	×	×	×	×	○	○	○	○	×

マニュアルモードのときは、フィルタータイプを選択します。LOW バンドと HIGH バンドはフィルタータイプを切り替えできます。

CH1-CH40 の LOW バンドは、ローシェルビングとベルタイプを選べます。

それ以外のチャンネル EQ(専用の HPF が装備されていないチャンネル EQ)では、HPF、ローシェルビング、ベルタイプから選べます。

HIGH バンドは、LPF、ハイシェルビング、ベルタイプから選べます。

⑥ **EQ アウトプットレベルメーター**

EQ の出力レベルを表示します。

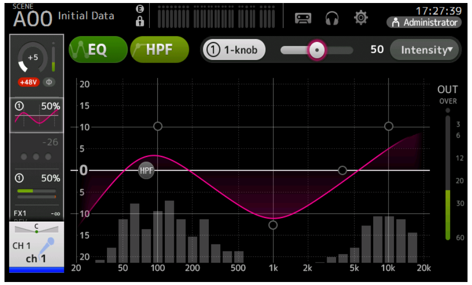
⑦ **周波数特性表示 / 設定**

EQ やフィルターのパラメーターの設定値が表示されます。各バンドの周波数やゲインなどの変更に従って、特性カーブが変化します。

1-knob EQ モードの場合は、1-knob レベルスライダーをタッチして、[TOUCH AND TURN] ノブまたは 1-knob レベルスライダーを操作します。

マニュアルモードでは、カーブ上のハンドルをドラッグして、設定を変更します。
HPF がオンのときは、HPF のハンドルをドラッグして、カットオフ周波数を操作します。HPF は、1-knob のタイプが Intensity のときも独立して操作できます。

<1-knob EQ モードの場合>



< マニュアルモードの場合 >

1-knob EQ モードの仕組み

1-knob EQ モードにすると、複数のパラメーターを同時にひとつのノブで操作できます。これにより、複雑な EQ の調節を簡単に操作できます。

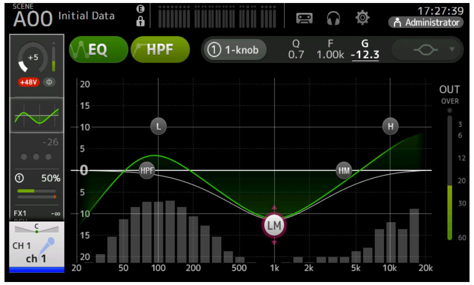
本体にあらかじめ保存されている Preset には、それぞれの楽器に合った EQ が設定されています。この EQ 設定を 1-knob EQ モードでひとつのノブで操作することで、全体のバランスを損なうことなく EQ のかかり具合を調節できます。

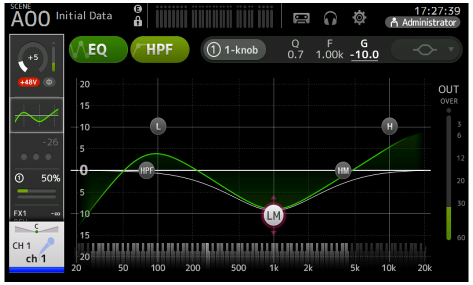
マニュアルモードで EQ の設定を作って 1-knob EQ モード(Intensity)に移行すると、マニュアルモードで作った設定を 50%(中間の値)として、0%(EQ がかかっていない状態)～ 100%(マニュアルモードで作った設定をさらに強調した状態)の間で EQ の設定を [TOUCH AND TURN] ノブで操作できます。あらかじめ作った EQ の設定の微調整を、ひとつのノブで操作できるので便利です。

1-knob EQ のモードタイプを Vocal や Loudness に変更すると、あらかじめ用意された EQ カーブで 0%(EQ がかかっていない状態)～ 100%(EQ のかかり具合が最大の状態)の間で操作できます。

⑧ RTA/ 鍵盤表示

グラフの下部でパラメーターのない場所をタッチすると、RTA と鍵盤が表示されます。RTA は、入力音が EQ で調整されたあとの周波数特性をグラフで表示します。鍵盤表示は、調整する周波数と楽器の音階との関係を視覚的に把握できます。





NOTE

PREFERENCE 画面の RTA Offset で RTA の感度を調整できます(→ P.26)。また、RTA Offset を USER DEFINED KNOBS に割り当てると EQ 画面を表示したまま調整できます。(V3.6 以降)

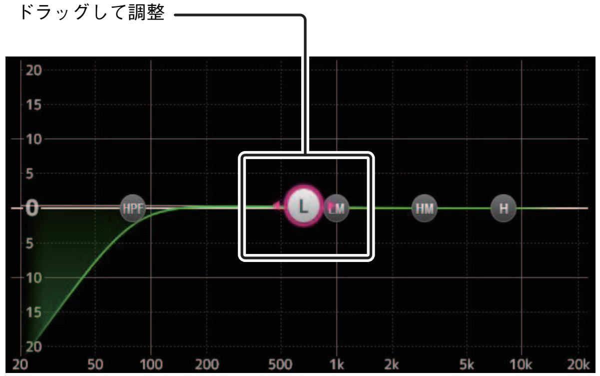
マニュアルモードで EQ を操作する

1. EQ 画面を表示する(→ P.5)

2. EQ ボタンをタッチして、EQ をオンにする

3. 1-knob モードボタンをタッチして、1-knob モードをオフにする

4. タッチスクリーンの EQ パラメーターをドラッグして EQ を調整する



EQ パラメーターをタッチして選択した状態では、[TOUCH AND TURN] ノブで操作できます。このとき操作するパラメーターを切り替えるには [SHIFT] キーを押します。[SHIFT] キーを押すたびに、操作対象がゲイン(G)と周波数(F)が交互に切り替わります。1-knob ボタンの右側に表示されている G と F の値をタッチしても切り替えできます。

Q を操作する場合は、タッチスクリーン上でピンチ / ズーム操作をするか、1-knob ボタンの右側に表示されている Q の値をタッチして [TOUCH AND TURN] ノブで操作します。

[SHIFT] キーを押し続けるとゲインが 0.0 にリセットされます。(V4.0 以降)

5. 必要に応じて HPF をオンにする

ボーカルマイクなどの場合は HPF をオンにして低音ノイズを低減させます。

1-knob モードで EQ を操作する

1. EQ 画面を表示する(→ P.5)

2. EQ と 1-knob モードをオンにする

3. 1-knob モードのタイプを選ぶ

4. [TOUCH AND TURN] ノブで EQ を調整する

HPF を設定する

1. EQ 画面を表示する(→ P.5)

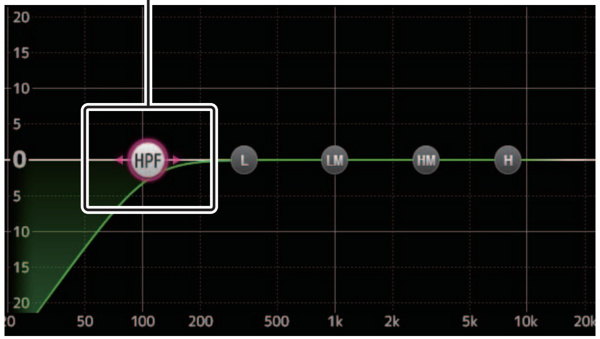
2. HPF ボタンをタッチして、HPF をオンにする

3. HPF のハンドルをタッチする

4. [TOUCH AND TURN]ノブを回して、HPF を調整する

タッチスクリーン内の HPF パラメーターフィールドをドラッグしても調整できます。

ドラッグして調整



設定した値は、画面右上の表示で確認できます。

設定した値

LPF を設定する

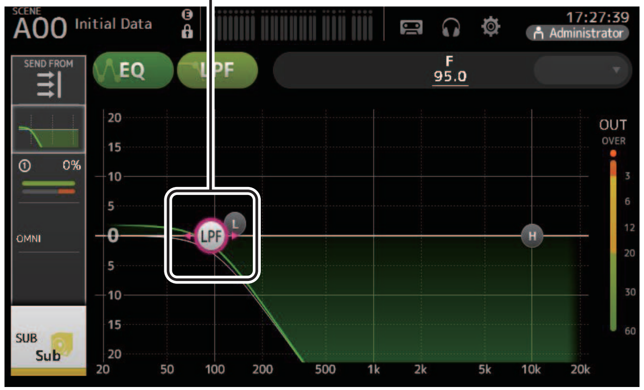
SUB チャンネルでは、EQ とは独立してサブウーファー用の調整(高域成分のカット)を行なう LPF を設定できます。

1. SUB チャンネルの EQ 画面を表示する(→ P.5)

2. EQ ボタンをタッチして、EQ をオンにする

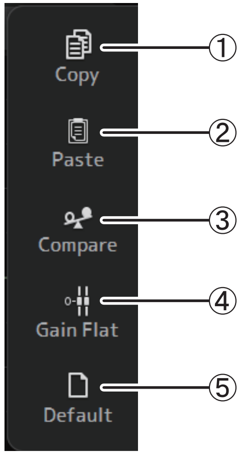
3. タッチスクリーンの LPF パラメーターをドラッグして LPF を調整する

ドラッグして調整



EQ 画面のメニュー

EQ 画面でメニューキー（≡）を押すと、以下のメニューアイコンが表示されます。



① **Copy**
選択しているチャンネルの EQ のパラメーターをコピーバッファーに格納します。

② **Paste**
コピーバッファーに格納されている EQ のパラメーターを、選択しているチャンネルにペーストします。

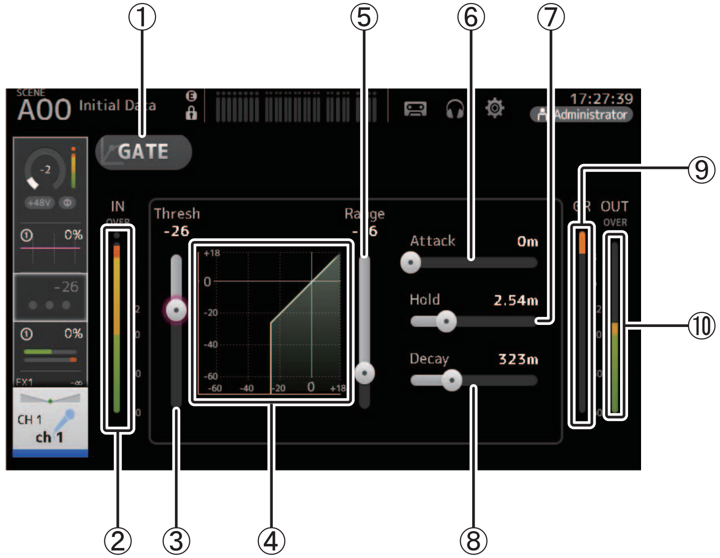
③ **Compare**
選択しているチャンネルの EQ のパラメーターと、コピーバッファーに格納されている EQ のパラメーターを切り替えて比較します。

④ **Gain Flat**
選択しているチャンネルの EQ ゲインをフラットに設定します。

⑤ **Default**
EQ の設定を初期状態に設定します。

GATE 画面

チャンネルのゲートを設定します。スレッショルドレベル（しきい値）より小さい信号が入力された場合、出力を一定の値（RANGE）で小さくします。GATE は CH1 ～ CH32 に搭載されています。



① **GATE ボタン**
ゲート機能のオン / オフを切り替えます。

② **ゲートインプットレベルメーター**
ゲートの入力レベルを表示します。

③ **Threshold スライダー**
ゲートの効果がかかるしきい値のレベルを設定します。

④ **ゲートグラフ**
ゲートレベルの設定を視覚的に表示します。

⑤ **Range スライダー**
ゲートの効果がかかっているときの減衰量を設定します。

⑥ **Attack スライダー**
入力信号がスレッショルドレベルを超えてから、ゲートが開くまでの時間を設定します。

⑦ **Hold スライダー**
入力信号がスレッショルドレベルを下回ったあとにゲートが閉じ始めるまでの待ち時間を設定します。

⑧ Decay スライダー
入力信号が HOLD の待ち時間を経たあと、ゲートが閉じるまでの時間を設定します。設定値は、レベルが 6dB 変化するのに要する時間で表現します。

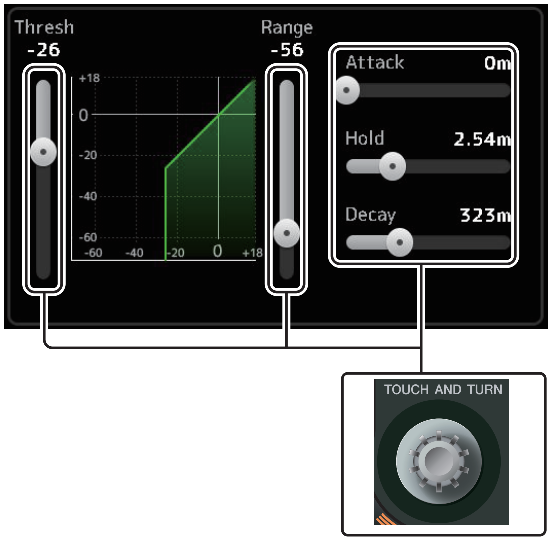
⑨ GR(ゲインリダクション)メーター
ゲインリダクション量を表示します。

⑩ OUT(ゲートアウトプット)メーター
ゲートの出力レベルを表示します。

GATE を設定する

1. GATE 画面を表示する(→ P.5)

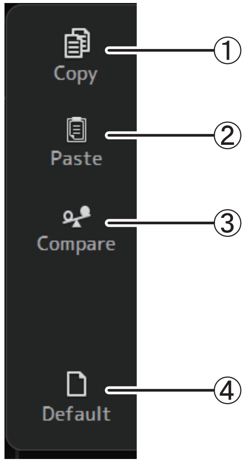
2. GATE をオンにして、操作したいスライダーにタッチする



3. [TOUCH AND TURN]ノブを回して、値を調整する
ゲートグラフと各メーターで調整の状態を確認してください。
タッチスクリーン内のスライダーをドラッグしても、調整できます。

GATE 画面のメニュー

GATE 画面でメニューキー を押すと、以下のメニューアイコンが表示されます。



① Copy
選択しているチャンネルの GATE のパラメーターをコピーバッファーに格納します。

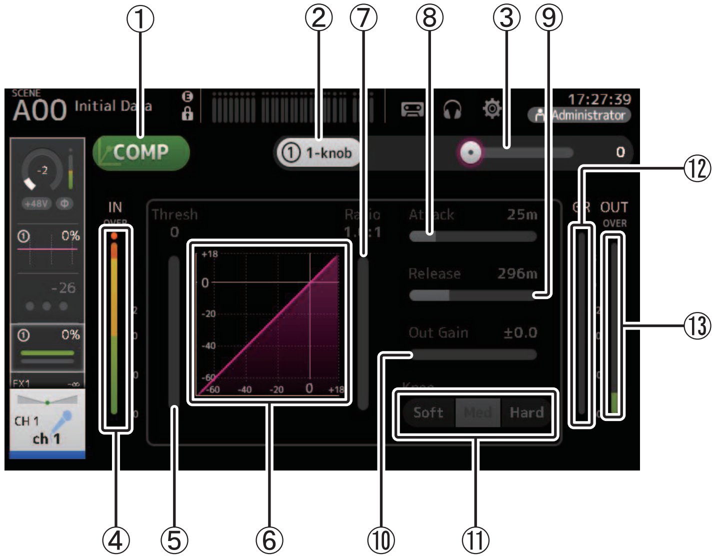
② Paste
コピーバッファーに格納されている GATE のパラメーターを、選択しているチャンネルにペーストします。

③ Compare
選択しているチャンネルの GATE のパラメーターと、コピーバッファーに格納されている GATE のパラメーターを切り替えて比較します。

④ Default
GATE の設定を初期状態に設定します。

COMP 画面

各チャンネルのコンプレッサーを設定します。[TOUCH AND TURN] ノブ 1 つの操作で簡単に操作できる 1-knob モードと、個別にパラメーターを操作するマニュアルモードの切り替えも、この画面で操作します。



① **COMP ボタン**
コンプレッサー機能のオン / オフを切り替えます。

② **1-knob ボタン**
1-knob モードとマニュアルモードを切り替えます。

③ **1-knob レベルスライダー(1-knob モード時のみ)**
1-knob COMP のかかり具合を調整します。
マニュアルモードのときは、表示されません。

④ **コンプレッサーインプットレベルメーター**
コンプレッサーへの入力レベルを表示します。

⑤ **Threshold スライダー**
コンプレッサーの効果がかかるしきい値のレベルを設定します。

⑥ **コンプレッサーグラフ**
設定状態を視覚的に表示します。

⑦ **Ratio スライダー**
コンプレッサーの圧縮量を設定します。

⑧ **Attack スライダー**
入力信号が Threshold スライダーで設定した値を超えてから、コンプレッサーの効果が最大に達するまでの時間を設定します。

⑨ **Release スライダー**
入力信号が Threshold スライダーで設定した値以下になったあと、コンプレッサーの効果がなくなるまでの時間を設定します。設定値は、レベルが 6dB 変化するのに要する時間で表現します。

⑩ **Out Gain スライダー**
コンプレッサーの出力レベルを調整します。

⑪ **Knee ボタン**
スレッショルドレベルでの折れ曲がりの鋭さを選択します。Soft ではなめらかに、Hard では急激にコンプレッサーがかかります。

⑫ **GR(ゲインリダクション)メーター**
ゲインリダクション量を表示します。

⑬ **OUT(コンプレッサーアウトプット)メーター**
コンプレッサーの出力レベルを表示します。

1-knob COMP モードの仕組み

1-knob COMP モードでは、コンプレッサーのかかり具合をひとつのノブで簡単に操作できます。

1-knob レベルスライダーを右に動かす、または [TOUCH AND TURN] ノブを右に回すほど、コンプレッションが強くなり、それに応じてレベルが上がります。単にフェーダーやゲインで音量を上げるだけではレベルオーバーが起きてしまうような音量差のある音の粒を揃えて、音が前面に出てくるような効果が得られます。

Threshold、Ratio、Out Gain のバランスを自動的にコントロールすることで、難しいコンプレッサーの設定を気にすることなく操作できます。

コンプレッサーを設定する

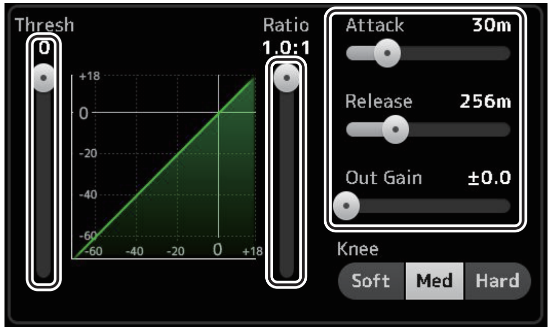
1. COMP 画面を表示する(→ P.5)

2. COMP がオフの場合は COMP ボタンをタッチしてオンにする

3. 1-knobボタンをタッチして1-knob COMPモードをオフにする

4. 操作するパラメーターのスライダーを操作する

スライダーをドラッグして各パラメーターのバランスを調整します。
タッチして選択した状態で [TOUCH AND TURN] ノブでも操作できます。

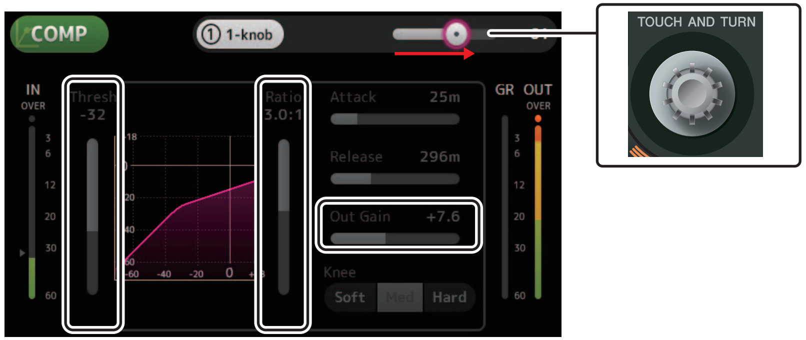


1-knob COMP モードの場合

1. 1-knob COMP モードをオンにする

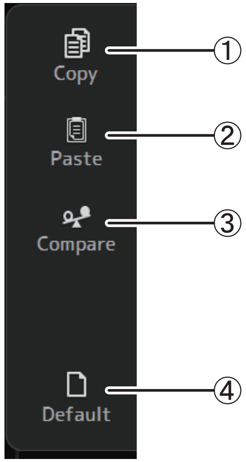
2. [TOUCH AND TURN] ノブで操作する

設定した Attack、Release、Knee が固定され、Threshold、Ratio、Out Gain が自動的に設定されます。



COMP 画面のメニュー

COMP 画面でメニューキー を押すと、以下のメニューアイコンが表示されます。



① **Copy**
選択している COMP のパラメーターをコピーバッファーに格納します。

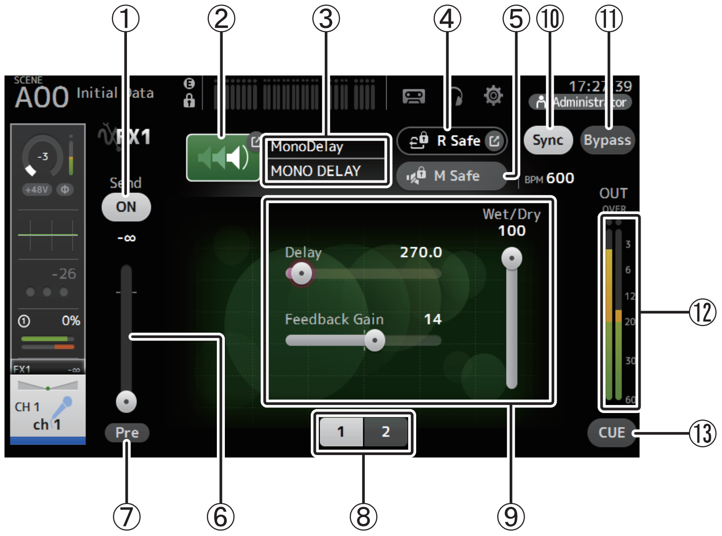
② **Paste**
コピーバッファーに格納されている COMP のパラメーターを選択しているチャンネルにペーストします。

③ **Compare**
選択しているチャンネルの COMP のパラメーターと、コピーバッファーに格納されている COMP のパラメーターを切り替えて比較します。

④ **Default**
COMP の設定を初期状態に設定します。

FX 画面(FX1/FX2/INS FX1 ～ 6)

エフェクトの種類やパラメーターを設定します。



① **Send ボタン**
CH1 ～ CH40、ST IN1/2 のインプットチャンネルの場合に表示します。
FX リターンチャンネルへの送りのオン／オフを切り替えます。

② **エフェクトタイプボタン**
タッチすると、エフェクトを選択する EFFECT TYPE 画面(→ P.68)を表示します。

③ **タイプ / ライブラリー名表示**
選択しているライブラリーのタイプ、名称を表示します。

④ **R Safe(リコールセーフ)インジケーター**
FX モジュールのリコールセーフの状態を表示します。
タッチすると、RECALL SAFE 画面を表示します(→ P.38)。

⑤ **M Safe(ミュートセーフ)切り替えボタン**
FX モジュールのミュートセーフのオン / オフを切り替えます。

⑥ **FX センドレベルスライダー**
CH1 ～ CH40、ST IN1/2 のインプットチャンネルの場合に表示されます。
FX のセンドレベルを調整します。

⑦ **Pre ボタン**
CH1 ～ CH40、ST IN1/2 のインプットチャンネルの場合に表示されます。
FX RETURN チャンネルに送る信号をフェーダーの直前または直後のどちらに送るかを選択します。
オン: フェーダーの直前
オフ: フェーダーの直後

⑧ **パラメータースライダー切り替えボタン**
タッチすると、表示されていないパラメータースライダーを表示します。

⑨ **パラメータースライダー**
それぞれのエフェクトで設定できるパラメーターがスライダーで表示されます。

⑩ **Sync ボタン**
ディレイなど、テンポの設定ができるエフェクトのときに表示されます。オンのときは、トップパネルの SENDS ON FADER セクションにある [TAP] ボタンで同期するテンポを操作できます。

⑪ **Bypass ボタン**
FX モジュールのバイパスをオン / オフします。

⑫ **FX アウトプットレベルメーター**
FX モジュールの出力レベルを表示します。

⑬ **CUE ボタン**
FX モジュールのキューのオン / オフを切り替えます。

エフェクトを設定する

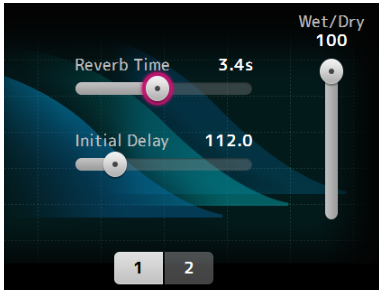
1. エフェクトタイプボタンをタッチする

エフェクトを選択する画面を表示しますので、目的のタイプのボタンをタッチしてください。

2. SEND ボタンをタッチする

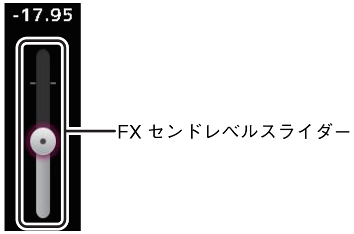
3. パラメータースライダーをドラッグする

エフェクトのかかり具合やドライ / ウェットのバランスなどを調整してください。



4. FX センドレベルスライダーをドラッグする

エフェクトの送り量を調整してください。



5. FX RTN1/2 のレベルを調整する

FX RTN1/2 チャンネルは、インプットフェーダーバンクにあります。(ステレオチャンネル → P.47)

インサートエフェクトを設定する

AUX9/10 ～ AUX19/20 では、インサートエフェクトを設定できます。

1. エフェクトタイプボタンをタッチする

エフェクトを選択する画面を表示しますので、目的のタイプのボタンをタッチしてください。

2. Bypass ボタンをタッチする

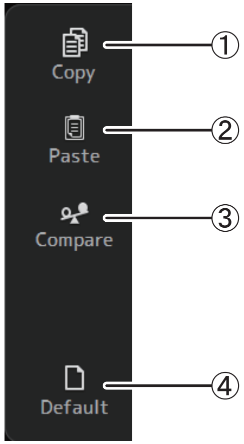
初期設定は Bypass になっていますので、Bypass を解除します。

3. パラメータースライダーをドラッグする

エフェクトのかかり具合を調整します。

FX 画面のメニュー

FX 画面でメニューキー を押すと、以下のメニューアイコンが表示されます。



① **Copy**
選択しているエフェクトのパラメーターをコピーバッファーに格納します。

② **Paste**
コピーバッファーに格納されているエフェクトのパラメーターを、選択しているエフェクトにペーストします。

③ **Compare**
選択しているエフェクトのパラメーターと、コピーバッファーに格納されているエフェクトのパラメーターを切り替えて比較します。

④ **Default**
選択しているエフェクトのパラメーターを初期状態に設定します。

EFFECT TYPE 画面

エフェクトタイプを選択します。目的のボタンをタッチして、選択します。

エフェクトパラメーター

REVERB HALL, REVERB ROOM, REVERB STAGE, REVERB PLATE

1 IN/2 OUT のホール、ルーム、ステージ、プレートリバーブのシミュレーションです。

Parameter	Range	Description
Reverb Time	0.3s~20.0s	リバーブの残響の長さ
Initial Delay	1.0~500.0ms	リバーブの初期反射音が出るまでの遅延時間
High Ratio	0.1~1.0	リバーブの高域成分の残響時間の Reverb Time に対する比率
Diffusion	0~10	リバーブ音の左右の広がり
Density	0%~100%	リバーブの密度
HPF	Thru, 21.2Hz~8.00kHz	ハイパスフィルターのカットオフ周波数
LPF	50.0Hz~16.0kHz, Thru	ローパスフィルターのカットオフ周波数

MONO DELAY

1 IN/2 OUT のベーシックなリピートディレイです。

Parameter	Range	Description
Delay	1.0~2700.0ms	ディレイタイム
Feedback Gain	-99 ~ +99	フィードバックの量
High Ratio	0.1~1.0	フィードバックの高域成分の量
HPF	Thru, 21.2Hz~8.00kHz	ハイパスフィルターのカットオフ周波数
LPF	50.0Hz~16.0kHz, Thru	ローパスフィルターのカットオフ周波数
Sync	OFF, ON	テンポパラメーター同期のオンオフ
Note	----, ♬3 ~ 𝅝𝅝	テンポから DELAY を換算するための値

STEREO DELAY

2 IN/2 OUT のベーシックなステレオディレイです。

Parameter	Range	Description
Delay L	1.0~1350.0ms	L チャンネルのディレイタイム
Delay R	1.0~1350.0ms	R チャンネルのディレイタイム
Feedback Gain L	-99 ~ +99	L チャンネルのフィードバックの量
Feedback Gain R	-99 ~ +99	R チャンネルのフィードバックの量
High Ratio	0.1~1.0	フィードバックの高域成分の量
HPF	Thru, 21.2Hz~8.00kHz	ハイパスフィルターのカットオフ周波数
LPF	50.0Hz~16.0kHz, Thru	ローパスフィルターのカットオフ周波数
Sync	OFF, ON	テンポパラメーター同期のオンオフ
Note L	----, ♬3 ~ 𝅝𝅝	テンポから Delay L を換算するための値
Note R	----, ♬3 ~ 𝅝𝅝	テンポから Delay R を換算するための値

DELAY LCR

1 IN/2 OUT の 3 タップディレイです。

Parameter	Range	Description
Delay L	1.0~2700.0ms	L チャンネルのディレイタイム
Delay C	1.0~2700.0ms	センターチャンネルのディレイタイム
Delay R	1.0~2700.0ms	R チャンネルのディレイタイム
Delay FB	1.0~2700.0ms	フィードバックのディレイタイム
Feedback Gain	-99 ~ +99	フィードバックの量
High Ratio	0.1~1.0	フィードバックの高域成分の量
HPF	Thru, 21.2Hz~8.00kHz	ハイパスフィルターのカットオフ周波数
LPF	50.0Hz~16.0kHz, Thru	ローパスフィルターのカットオフ周波数
Level L	-100 ~ +100	L チャンネルのレベル
Level C	-100 ~ +100	センターチャンネルのレベル
Level R	-100 ~ +100	R チャンネルのレベル
Sync	OFF, ON	テンポパラメーター同期のオンオフ
Note L	----, ♬3 ~ 𝅝𝅝	テンポから Delay L を換算するための値
Note C	----, ♬3 ~ 𝅝𝅝	テンポから Delay C を換算するための値
Note R	----, ♬3 ~ 𝅝𝅝	テンポから Delay R を換算するための値
Note FB	----, ♬3 ~ 𝅝𝅝	テンポから Delay FB を換算するための値

ECHO

2 IN/2 OUT のクロスフィードバックループ付きステレオディレイです。

Parameter	Range	Description
Delay L	1.0~1350.0ms	L チャンネルのディレイタイム
Delay R	1.0~1350.0ms	R チャンネルのディレイタイム
Delay FB L	1.0~1350.0ms	L チャンネルのフィードバックディレイタイム
Delay FB R	1.0~1350.0ms	R チャンネルのフィードバックディレイタイム
Feedback Gain L	-99 ~ +99	L チャンネルのフィードバックの量
Feedback Gain R	-99 ~ +99	R チャンネルのフィードバックの量
XFeedback Gain	-99 ~ +99	L->R, R->L のフィードバック量
High Ratio	0.1~1.0	フィードバックの高域成分の量
HPF	Thru, 21.2Hz~8.00kHz	ハイパスフィルターのカットオフ周波数
LPF	50.0Hz~16.0kHz, Thru	ローパスフィルターのカットオフ周波数
Sync	OFF, ON	テンポパラメーター同期のオンオフ
Note L	----, ♬3 ~ 𝅝𝅝	テンポから Delay L を換算するための値
Note R	----, ♬3 ~ 𝅝𝅝	テンポから Delay R を換算するための値
Note FBL	----, ♬3 ~ 𝅝𝅝	テンポから Delay FB L を換算するための値
Note FBR	----, ♬3 ~ 𝅝𝅝	テンポから Delay FB R を換算するための値

DELAY->REV (V1.1 以降)

1 IN/2 OUT のシリーズ接続されたディレイ / リバーブエフェクトです。

Parameter	Range	Description
Delay	1.0ms - 2700.0ms	ディレイタイム
Feedback Gain	-99% - 99%	フィードバックの量
DLY BAL	0% - 100%	ディレイのミックスバランス
Reverb Time	0.3s - 20.0s	リバーブの残響の長さ
High Ratio	0.1 - 1.0	リバーブの高域成分の残響時間の、Reverb Time に対する比率
Diffusion	0 - 10	リバーブ音の左右の広がり
Density	0% - 100%	リバーブの密度
HPF	Thru, 21.2Hz - 8.00kHz	ハイパスフィルターのカットオフ周波数
LPF	50.0Hz - 16.0kHz, Thru	ローパスフィルターのカットオフ周波数
REV BAL	0% - 100%	リバーブのミックスバランス
Sync	Off, On	テンポパラメーター同期のオン / オフ
Note	----, ♬3 ~ 𝅝𝅝	テンポから Delay を換算するための値

EARLY REF (V1.1 以降)

1 IN/2 OUT のアーリーリフレクションです。

Parameter	Range	Description
Type	S-Hall, L-Hall, Random, Reverse, Plate, Spring	初期反射音のパターンのタイプ
Room Size	0.1 - 20.0	部屋の大きさ（反射音の間隔）
Liveness	0 - 10	反射音の減衰のしかた（0: dead, 10: Live）
Initial Delay	1.0ms - 500.0ms	初期反射音が出るまでの遅延時間
Diffusion	0 - 10	反射音の左右の広がり
Density	0% - 100%	反射音の密度
ER Number	1 - 19	反射音の本数
Feedback Gain	-99% - 99%	フィードバックの量
High Ratio	0.1 - 1.0	フィードバックの高域成分
HPF	Thru, 21.2Hz - 8.00kHz	ハイパスフィルターのカットオフ周波数
LPF	50.0Hz - 16.0kHz, Thru	ローパスフィルターのカットオフ周波数

GATE REVERB, REVERSE GATE (V1.1 以降)

1 IN/2 OUT のゲート付アーリーリフレクションとリバースゲート付アーリーリフレクションです。

Parameter	Range	Description
Type	Type-A, Type-B	初期反射音のパターンのタイプ
Room Size	0.1 - 20.0	部屋の大きさ（反射音の間隔）
Liveness	0 - 10	反射音の減衰のしかた
Initial Delay	1.0ms - 500.0ms	初期反射音が出るまでの遅延時間
Diffusion	0 - 10	反射音の左右の広がり
Density	0% - 100%	反射音の密度
ER Number	1 - 19	反射音の本数
Feedback Gain	-99% - 99%	フィードバックの量
High Ratio	0.1 - 1.0	フィードバックの高域成分
HPF	Thru, 21.2Hz - 8.00kHz	ハイパスフィルターのカットオフ周波数
LPF	50.0Hz - 16.0kHz, Thru	ローパスフィルターのカットオフ周波数

CHORUS (V1.1 以降)

2 IN/2 OUT のコーラスエフェクトです。

Parameter	Range	Description
Frequency	0.05Hz - 10.00Hz	モジュレーションのスピード
AM Depth	0% - 100%	振幅変調の深さ
PM Depth	0% - 100%	ピッチ変調の深さ
MOD. Delay	1.0ms - 500.0ms	モジュレーションのディレイタイム
Sync	Off, On	テンポパラメーター同期のオン / オフ
Note	♬3 - 𝅝𝅝	テンポから Frequency を換算するための値

FLANGE (V1.1 以降)

2 IN/2 OUT のフランジエフェクトです。

Parameter	Range	Description
Frequency	0.05Hz - 10.00Hz	モジュレーションのスピード
Depth	0% - 100%	モジュレーションの深さ
MOD. Delay	1.0ms - 500.0ms	モジュレーションのディレイタイム
Feedback Gain	-99% - 99%	フィードバックの量
Sync	Off, On	テンポパラメーター同期のオン / オフ
Note	♬3 - 𝅝𝅝	テンポから Frequency を換算するための値

SYMPHONIC（V1.1 以降）

2 IN/2 OUT のシンフォニックエフェクトです。

Parameter	Range	Description
Frequency	0.05Hz - 10.00Hz	モジュレーションのスピード
Depth	0% - 100%	モジュレーションの深さ
MOD. Delay	1.0ms - 500.0ms	モジュレーションのディレイタイム
Sync	Off, On	テンポパラメーター同期のオン / オフ
Note	♬3 - 𝅝𝅝	テンポから Frequency を換算するための値

PHASER（V1.1 以降）

2 IN/2 OUT の 16 ステージエフェクトです。

Parameter	Range	Description
Frequency	0.05Hz - 10.00Hz	モジュレーションのスピード
Depth	0% - 100%	モジュレーションの深さ
Feedback Gain	-99% - 99%	フィードバックの量
Offset	0 - 100	フェイズシフトのかかる周波数のオフセット
Phase	0° - 355°	モジュレーションの左右の位相差
Stage	2 - 16	フェイズシフトの段数
HPF	Thru, 21.2Hz - 8.00kHz	ハイパスフィルターのカットオフ周波数
LPF	50.0Hz - 16.0kHz, Thru	ローパスフィルターのカットオフ周波数
Sync	Off, On	テンポパラメーター同期のオン / オフ
Note	♬3 - 𝅝𝅝	テンポから Frequency を換算するための値

M BAND COMP（V1.1 以降）

2 IN/2 OUT の 3 バンドコンプレッサーです。各帯域にソロとゲインリダクションメーターが付いています。

Parameter	Range	Description
Low Gain	-12.0dB - +12.0dB	低域のゲイン
Mid Gain	-12.0dB - +12.0dB	中域のゲイン
High Gain	-12.0dB - +12.0dB	高域のゲイン
Total Gain	-72dB - +12dB	トータルゲイン
L-M XOver	21.2Hz - 8.00kHz	低域 / 中域のクロスオーバー周波数
M-H XOver	21.2Hz - 8.00kHz	中域 / 高域のクロスオーバー周波数
Knee	0 - 5	コンプレッサーのニー（全帯域共通）
Low/Mid/High Link	Off, On	オンにすると、低域、中域、高域のスレッショルドが差分を保ったまま連動する機能（V3.0 以降）
Low Thr	-54dB - 0dB	低域のスレッショルド
Low Ratio	1:1 - ∞:1	低域のレシオ
Low Attack	0ms - 120ms	低域のアタックタイム
Low Release	3.34ms - 42.7s	低域のリリースタイム
Low Bypass	Off, On	低域のコンプレッサーのバイパス機能
Low Solo	Off, On	低域のソロ機能
Mid Thr	-54dB - 0dB	中域のスレッショルド
Mid Ratio	1:1 - ∞:1	中域のレシオ
Mid Attack	0ms - 120ms	中域のアタックタイム
Mid Release	3.34ms - 42.7s	中域のリリースタイム
Mid Bypass	Off, On	中域のコンプレッサーのバイパス機能
Mid Solo	Off, On	中域のソロ機能
High Thr	-54dB - 0dB	高域のスレッショルド
High Ratio	1:1 - ∞:1	高域のレシオ
High Attack	0ms - 120ms	高域のアタックタイム
High Release	3.34ms - 42.7s	高域のリリースタイム
High Bypass	Off, On	高域のコンプレッサーのバイパス機能
High Solo	Off, On	高域のソロ機能

NOTE

Make Up パラメーターは、V3.0 以降では廃止となりました。

PING PONG DELAY（V2.0 以降）

1IN/2OUT のピンポンディレイです。ディレイ音が左右交互に等間隔で繰り返されるディレイエフェクトです。

Parameter	Range	Description
Delay	1.0ms - 1350.0ms	ディレイタイム
Feedback Gain	-99% - 99%	フィードバックの量
High Ratio	0.1 - 1.0	フィードバックの高域成分の量
HPF	Thru, 21.2Hz - 8.00kHz	ハイパスフィルターのカットオフ周波数
LPF	50.0Hz - 16.0kHz, Thru	ローパスフィルターのカットオフ周波数
Sync	Off, On	テンポパラメーター同期のオン / オフ
Note	----, 𝅝𝅝 - ♩	テンポから Delay を換算するための値

DUAL PITCH（V2.0 以降）

2IN/2OUT のピッチシフトエフェクトです。

Parameter	Range	Description
Pitch 1	-24 - 24	Ch1 のピッチ（半音単位）
Fine 1	-50 - 50	Ch1 のピッチ（1 セント単位）
Level 1	-100 - 100	Ch1 の音量
Pan 1	L63 - R63	Ch1 のパン
Delay 1	1.0ms - 1000.0ms	Ch1 のディレイタイム
Feedback Gain 1	-99 - 99	Ch1 のフィードバックレベル
Pitch 2	-24 - 24	Ch2 のピッチ（半音単位）
Fine 2	-50 - 50	Ch2 のピッチ（1 セント単位）
Level 2	-100 - 100	Ch2 の音量
Pan 2	L63 - R63	Ch2 のパン
Delay 2	1.0ms - 1000.0ms	Ch2 のディレイタイム
Feedback Gain 2	-99 - 99	Ch2 のフィードバックレベル
Mode	1 - 10	ピッチシフトの変調幅
Sync	Off, On	テンポパラメーター同期のオン / オフ
Note 1	----, 𝅝𝅝 - ♩	テンポから Delay 1 を換算するための値
Note 2	----, 𝅝𝅝 - ♩	テンポから Delay 2 を換算するための値

OUTPUT DELAY（V2.5 以降）

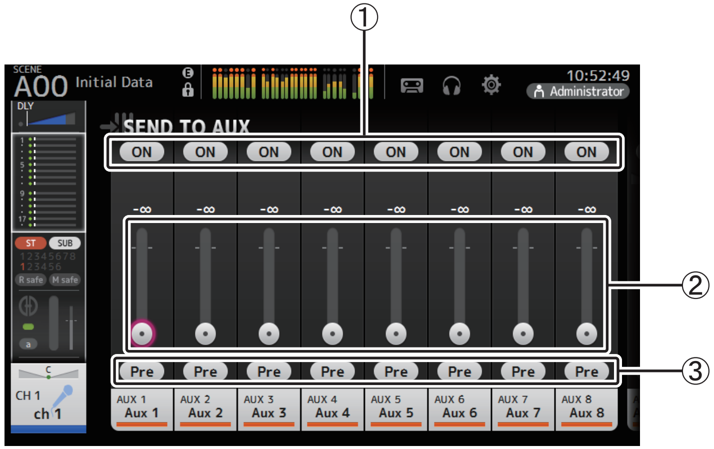
2 イン 2 アウトのシンプルなシングルディレイです。INS FX1 〜 6 で使用すると、出力の遅延補正などに便利です。

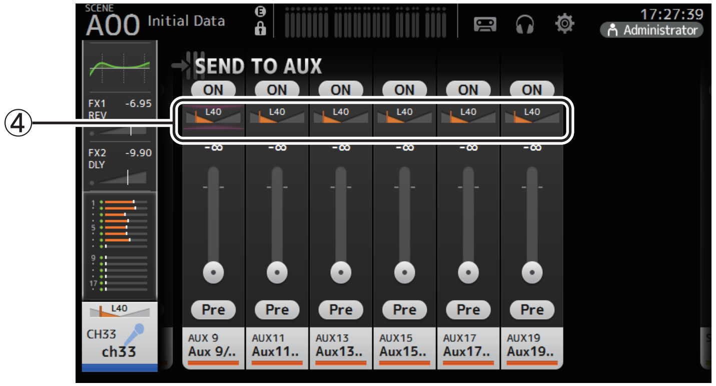
Parameter Name	Range	Description
LR LINK	On, Off	左のディレイと右のディレイのリンク
Delay	0.3 - 343.6 meter 1.1 - 1127.3 feet 1.00 - 1000.00ms 0.03 - 30.00 frame*1	ディレイタイムをフレーム（frame、V3.5 以降）、メートル（meter）、フィート（feet）、ミリ秒（ms）のいずれかの単位で設定

*1　frame rate=24：0.03 - 24.00、
frame rate=25：0.03 - 25.00、
frame rate=29.97D/29.97：0.03 - 29.97
frame rate=30D/30：0.03 - 30.00
フレームレートは PREFERENCE 画面の Others セクション（→ P.26）にある Frame Rate で設定します。

SEND TO AUX 画面

各チャンネルから AUX バスへの送り量を設定します。
左右にスワイプすると、表示されていないバスを表示します。





① **オン / オフボタン**
AUX チャンネルへの送りのオン / オフを切り替えます。

② **レベルスライダー**
各 AUX チャンネルへの送り量を調整します。

③ **Pre ボタン**
AUX チャンネルに送る信号をフェーダーの前後のどちらから送るかを選択します。
オン: フェーダーの前
オフ: フェーダーの後
オンにした場合、BUS SETUP 画面(→ P.33)の Pre Fader Send Point で、EQ の直前かフェーダーの直前かを選択できます。

④ **SEND PAN スライダー**
送り先の AUX バスがステレオのときに表示されます。センド PAN を調節します。

AUX バスへの送り量を設定する

1. 目的のチャンネルのレベルスライダーをドラッグする
AUX チャンネルへの送り量を調整してください。

2. Pre ボタンでフェーダーの直前から送るか、直後から送るかを切り替える

ステージ用のフロアモニターで使うときはフェーダーの直前にして、メインのミックスバランスとは別のバランスで送ります。
外部エフェクトで使うときや、メインのミックスバランスをそのまま生かしたミックスを送るときはフェーダーの直後にします。

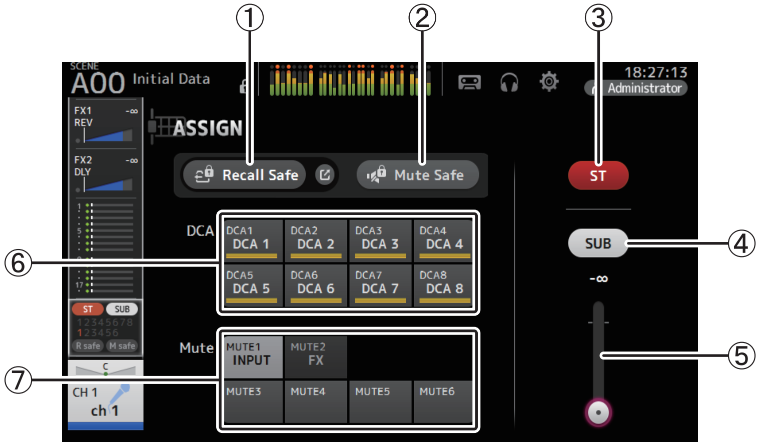
3. オン / オフボタンをタッチする

オンにすると、AUX チャンネルに信号を送ります。

4. SEND PAN スライダーをタッチし、[TOUCH AND TURN] ノブを操作する
送り先の AUX がステレオの場合、センド PAN を設定してください。

ASSIGN 画面

リコールセーフやミュートセーフのオン / オフ、DCA へのアサイン、SUB バスへの送り量を設定します。



① **Recall Safe ボタン**
そのチャンネルの Recall Safe のオン / オフを切り替えます。
Recall Safe ボタンの右側にあるジャンプボタンをタッチすると、RECALL SAFE 画面を表示します(→ P.38)。

② **Mute Safe ボタン**
ミュートグループに属するチャンネルの中から、特定のチャンネルのみを一時的に除外します。
ミュートセーフに設定したチャンネルは、そのチャンネルの属するミュートグループをミュートしても影響を受けません。

③ **ST ボタン**
ステレオチャンネルへのアサインのオン / オフを切り替えます。

④ **SUB ボタン**
SUB チャンネルへの送りのオン／オフを切り替えます。

⑤ **SUB スライダー**
SUB チャンネルへの送り量を調整します。

⑥ **DCA ボタン**
DCA グループ 1 ～ 8 へのアサインのオン／オフを切り替えます。
ひとつのチャンネルを複数の DCA グループにアサインできます。

⑦ **Mute ボタン(V4.0 以降)**
MUTE グループ3～6へのアサインのオン / オフを切り替えます。
一つのチャンネルを複数の MUTE グループにアサインできます。
MUTE1(INPUT)、MUTE2(FX) へのアサインは変更できません。

AUTOMIXER 画面(V3.5 以降)

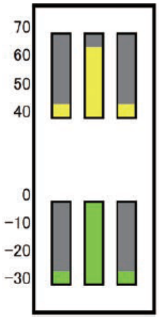
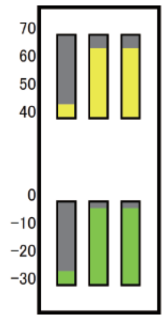
CH1 ～ CH8 で使用できる AUTOMIXER を設定します。

AUTOMIXER について

AUTOMIXER は、会議やトークショーなどの会話のミキシングを自動化する機能です。有効なマイクを検出してゲイン配分を自動的に最適化することで、エンジニアがフェーダー操作に掛り切りになることなく複数のマイク間で一貫したシステムゲインを維持します。

AUTOMIXER の原理

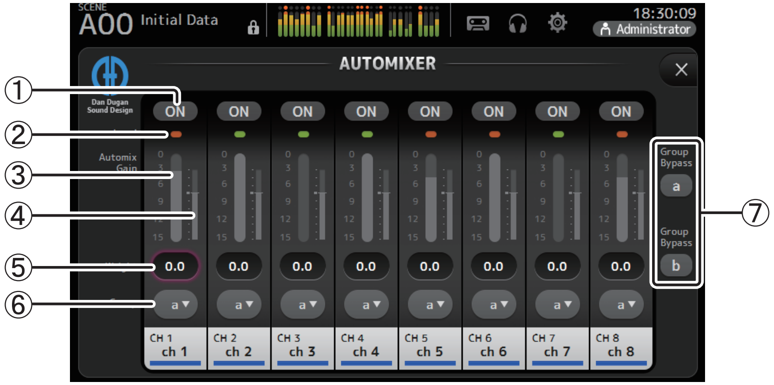
TF シリーズの AUTOMIXER は Dugan スピーチシステムをしています。このシステムは、最大 8 本のマイクに対してゲインを自動調整します。

複数のマイクで 1 人が話す場合	複数のマイクで 2 人が話す場合
マイクの入力音声(dB) オートミックスでのゲイン(dB) 	マイクの入力音声(dB) オートミックスでのゲイン(dB) 
1 人が話した場合には、そのマイクのゲインが瞬時に上がり、他のマイクのゲインは下がります。別の 1 人が話した場合も同様の動作です。	2 人が同時に話した場合には、トータルゲインが一定となるよう 2 本のマイク間でゲインが自動配分され、残り 1 本のマイクのゲインは下がります。

Dugan スピーチシステムは、リミッターやオートレベルコントローラーの機能とは異なり、複数の人が同時に話しているときでも、エンジニアが個々のレベルを通常どおり操作できます。また、誰も話していないときも、マイク音声を検出して自動的にゲインを配分するので、フェーダーを上げたままにできます。

NOTE

- AUTOMIXER は、CH1 ～ CH8 のチャンネル ON の直後に配置されています。
- CH1 ～ CH8 の SEND TO AUX で Pre ボタンをオフにした場合は、AUTOMIXER の直後から AUX バスに信号が送られます。
- CH1 ～ CH8 がステレオリンクに設定されていても、AUTOMIXER のパラメーターはリンクしません。



① AUTOMIXER ON ボタン
該当チャンネルの AUTOMIXER をオン / オフします。

NOTE
コンサートなど、スピーチ以外の用途ではオフにしておくことをおすすめします。

② Level インジケーター
AUTOMIXER への入力ゲインが適切かどうかを確認します。
消灯: 入力信号なし、または入力レベルが足りない
緑点灯: 入力ゲインが適切
赤点灯: 過大入力

NOTE
入力ゲインの調整は、各インプットチャンネルのアナログゲイン、デジタルゲイン、フェーダーで行ないます。

③ Automix Gain メーター
AUTOMIXER で調整されたゲインを表示します。

④ Weight インジケーター
⑤Weight テキストボックスで設定された設定値をグラフで表示します。

⑤ Weight テキストボックス
AUTOMIXER のサイドチェーンに入力される信号のレベルを調整します。他のチャンネルと同じ値にすると、同時に音声が入力されたときに、均等にゲインが配分されます。値を大きくすると、同時に音声が入力されたときに他のチャンネルに比べて大きな音になるようゲインが配分されます。
設定範囲: -100.0 dB, -29.5 dB ～ 0.0 dB(初期設定)～ 15.0 dB

⑥ Group 選択ボタン
AUTOMIXER のグループアサインを a と b から選択します。グループを活用することで 2 種類のミックスを独立して作ることができます。選択したグループに応じて背景色が変わります。

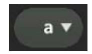
⑦ Group Bypass a/b ボタン(V4.0 以降)
グループごとに一括して Automixer 機能のバイパスをオン / オフします。

AUTOMIXER を設定する

1. CH1 ～ CH8 で AUTOMIXER 画面を表示する

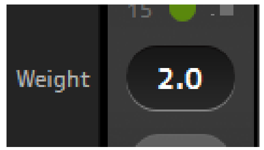
2. AUTOMIXER に入力するチャンネルを ON にする

3. Group 選択ボタンをタッチして、各チャンネルをアサインするグループを選ぶ



4. Level インジケーターが緑で点灯するように、各チャンネルのアナログゲインやフェーダーで入力レベルを調整する

5. 各チャンネルの Weight 設定ボックスをタッチし、フォーカスした状態で[TOUCH AND TURN]ノブを回し、チャンネル間の相関的な感度を調整する

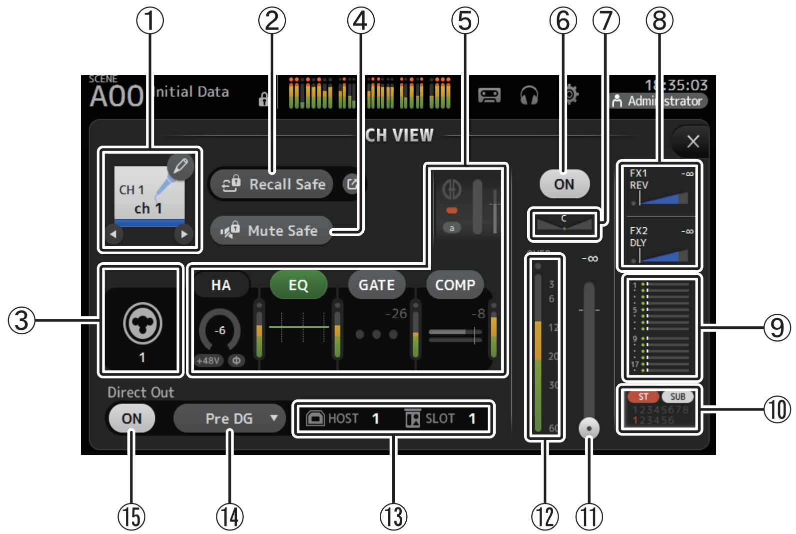


6. 必要に応じて、各チャンネル間のバランスを整えるために、音声を入力しながらさらにWeightを調整する

CH VIEW 画面

チャンネルの設定全体を俯瞰します。
この画面でも設定できるほか、各専用画面へ移動できます。
※ チャンネルの種類により、表示する内容は異なります。

CH1 ～ CH32



① チャンネル名
タッチすると、CH NAME 画面を表示します。
◀ / ▶ をタッチすると、情報を表示するチャンネルを切り替えできます。

② Recall Safe ボタン
タッチするとそのチャンネルの Recall Safe のオン / オフを切り替えます。
Recall Safe ボタン右側のジャンプボタンをタッチすると、RECALL SAFE 画面(→ P.38)を表示します。

③ 入力ソース表示
インプットチャンネルの入力ソースを表示します。入力ソースは、INPUT 画面で選択できます。

④ Mute Safe ボタン
タッチすると、現在のチャンネルがインプットミュートグループから一時的に除外されます。
ミュートセーフに設定したチャンネルは、インプットミュートグループをミュートしても影響を受けません。

⑤ ボックス
タッチすると、それぞれ専用画面を表示します。
EQ、GATE、COMP ボックスのボタンは、タッチするとそれぞれオン / オフを切り替えます。
HA ボックス：INPUT 画面を表示します(→ P.57)。
EQ ボックス：EQ 画面を表示します(→ P.59)。
GATE ボックス：GATE 画面を表示します(→ P.63)。
COMP ボックス：COMP 画面を表示します(→ P.65)。
AUTOMIXER ボックス(V3.5 以降)：AUTOMIXER 画面を表示します(→ P.74)。

⑥ チャンネルオン / オフボタン
表示中のチャンネルのオン / オフを切り替えます。

⑦ PAN スライダー
チャンネルの PAN を調整します。

⑧ FX1/2 ボックス
FX1/2 のタイプを表示します。
選択した状態で[TOUCH AND TURN]ノブを回して、FX センドレベルを設定できます。また、選択した状態でタッチすると、FX 画面を表示します。
選択しているチャンネルから FX1/2 リターンチャンネルへの送り量を白い線で表示します。
センドレベル、選択中のチャンネルのフェーダーレベル、DCA を加味した実際のセンドレベルは、三角形のバーで表示します。
FX1/2 リターンチャンネルに送る信号が、フェーダーの直前か直後かの情報を表示します。インジケーターが緑色の場合は直前、点灯していない場合は直後です。

⑨ SEND TO AUX ボックス
選択した状態でタッチすると、SEND TO AUX 画面を表示します。
選択しているチャンネルから AUX チャンネルへの送り量を白い線で表示します。
センドレベル、選択中のチャンネルのフェーダーレベル、DCA を加味した実際のセンドレベルは、横に伸びるバーで表示します。
AUX チャンネルに送る信号が、フェーダーの直前か直後かの情報を表示します。インジケーターが緑色の場合は直前、点灯していない場合は直後です。

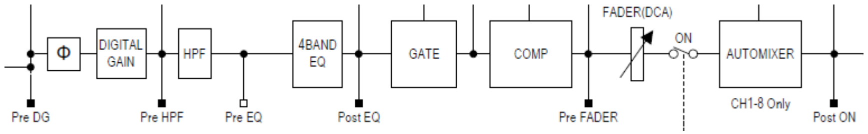
⑩ ASSIGN ボックス
タッチすると、ASSIGN 画面を表示します(→ P.74)。

⑪ チャンネルフェーダーレベルスライダー
チャンネルのフェーダーレベルを調整します。

⑫ チャンネル出力レベルメーター
チャンネルの出力レベルを表示します。

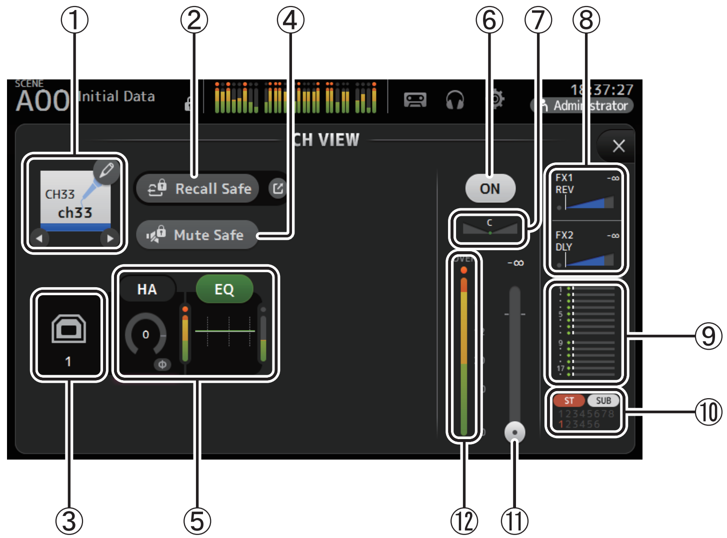
⑬ **ダイレクトアウトポートインジケーター**
チャンネルに対応した出力ポート(出力端子)を表示します。
チャンネルと出力ポートの対応については、「クイックコンフィグ時のチャンネル対応表」(→ P.106)をご参照ください。

⑭ **ダイレクトアウトポイントボタン**
ダイレクトアウトポイントを設定します。
Pre DG: デジタルゲインの直前
Pre HPF: ハイパスフィルターの直前
Pre Fader: フェーダーの直前
Post ON: [ON] キーの直後、CH1 ～ CH8 は AUTOMIXER の直後



⑮ **ダイレクトアウトオン / オフボタン**
ダイレクトアウトのオン / オフを切り替えます。

CH33 ～ CH40



① **チャンネル名**
タッチすると、CH NAME 画面を表示します。
◀ / ▶ をタッチすると、情報を表示するチャンネルを切り替えます。

② **Recall Safe ボタン**
タッチするとそのチャンネルの Recall Safe のオン / オフを切り替えます。
Recall Safe ボタン右側のジャンプボタンをタッチすると、RECALL SAFE 画面(→ P.38)を表示します。

③ **入力ソース表示**
インプットチャンネルの入力ソースを表示します。入力ソースは、INPUT 画面で選択できます。

④ **Mute Safe ボタン**
タッチすると、現在のチャンネルがインプットミュートグループから一時的に除外されます。
ミュートセーフに設定したチャンネルはインプットミュートグループをミュートしても影響を受けません。

⑤ **ボックス**
タッチすると、それぞれ専用画面を表示します。
EQ ボックスのボタンは、タッチするとそれぞれオン / オフを切り替えます。
HA ボックス: INPUT 画面を表示します(→ P.57)。
EQ ボックス: EQ 画面を表示します(→ P.59)。

⑥ **チャンネルオン / オフボタン**
表示中のチャンネルのオン / オフを切り替えます。

⑦ **PAN スライダー**
チャンネルの PAN を調整します。

⑧ **FX1/2 ボックス**
FX1/2 のタイプを表示します。
選択した状態で [TOUCH AND TURN] ノブを回して、FX センドレベルを設定できます。また、選択した状態でタッチすると、FX 画面を表示します。
選択しているチャンネルから FX1/2 リターンチャンネルへの送り量を白い線で表示します。
センドレベル、選択中のチャンネルのフェーダーレベル、DCA を加味した実際のセンドレベルは、三角形のバーで表示します。
FX1/2 リターンチャンネルに送る信号が、フェーダーの直前か直後かの情報を表示します。インジケーターが緑色の場合は、直前、点灯していない場合は直後です。

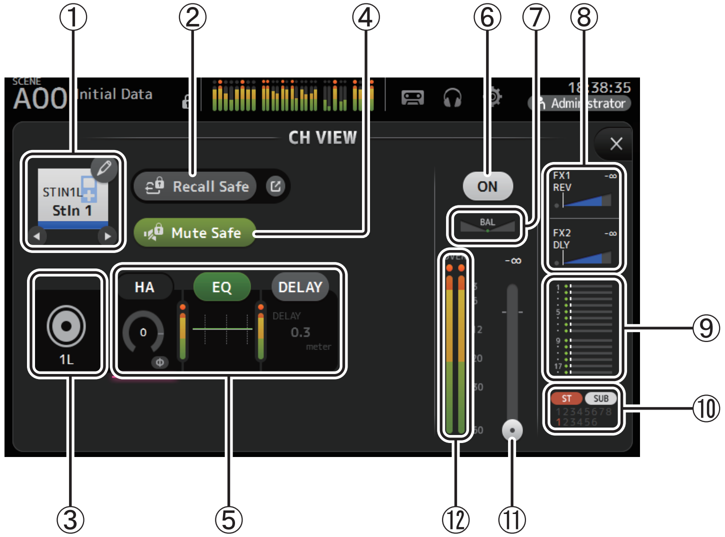
⑨ **SEND TO AUX ボックス**
選択した状態でタッチすると、SEND TO AUX 画面を表示します。
選択しているチャンネルから AUX チャンネルへの送り量を白い線で表示します。
センドレベル、選択中のチャンネルのフェーダーレベル、DCA を加味した実際のセンドレベルは、横に伸びるバーで表示します。
AUX チャンネルに送る信号が、フェーダーの直前か直後かの情報を表示します。インジケーターが緑色の場合は、直前、点灯していない場合は直後です。

⑩ **ASSIGN ボックス**
タッチすると、ASSIGN 画面を表示します(→ P.74)。

⑪ **チャンネルフェーダーレベルスライダー**
チャンネルのフェーダーレベルを調整します。

⑫ **チャンネル出力レベルメーター**
チャンネルの出力レベルを表示します。

ST IN 1L ～ 2R



① **チャンネル名**
タッチすると、CH NAME 画面を表示します。
◀ / ▶ をタッチすると、情報を表示するチャンネルを切り替えます。

② **Recall Safe ボタン**
タッチするとそのチャンネルの Recall Safe のオン / オフを切り替えます。
Recall Safe ボタン右側のジャンプボタンをタッチすると、RECALL SAFE 画面(→ P.38)を表示します。

③ **入力ソース表示**
インプットチャンネルの入力ソースを表示します。入力ソースは、INPUT 画面で選択できます。

④ **Mute Safe ボタン**
タッチすると、現在のチャンネルがインプットミュートグループから一時的に除外されます。
ミュートセーフに設定したチャンネルは、インプットミュートグループをミュートしても影響を受けません。

⑤ **ボックス**
タッチすると、それぞれ専用画面を表示します。
EQ ボックスのボタンは、タッチするとそれぞれオン / オフを切り替えます。
HA ボックス: INPUT 画面を表示します(→ P.57)。
EQ ボックス: EQ 画面を表示します(→ P.59)。
DELAY ボックス(V4.0 以降): DELAY 画面を表示します(→ P.92)。

⑥ **チャンネルオン / オフボタン**
表示中のチャンネルのオン / オフを切り替えます。

⑦ **BAL(バランス)スライダー**
チャンネルの左右の音量バランスを調整します。

⑧ **FX1/2 ボックス**
FX1/2 のタイプを表示します。
選択した状態で[TOUCH AND TURN]ノブを回して、FX センドレベルを設定できます。また、選択した状態でタッチすると、FX 画面を表示します。
選択しているチャンネルから FX1/2 リターンチャンネルへの送り量を白い線で表示します。
センドレベル、選択中のチャンネルのフェーダーレベル、DCA を加味した実際のセンドレベルは、三角形のバーで表示します。
FX1/2 リターンチャンネルに送る信号が、フェーダーの直前か直後かの情報を表示します。インジケーターが緑色の場合は直前、点灯していない場合は直後です。

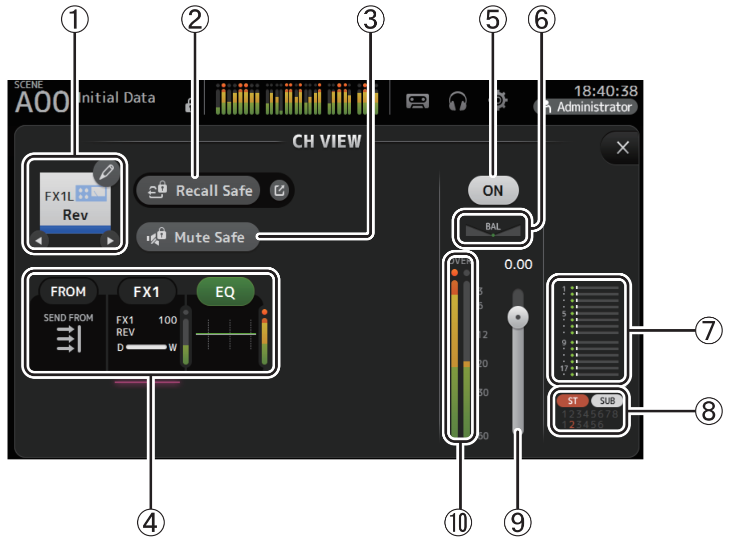
⑨ **SEND TO AUX ボックス**
選択した状態でタッチすると、SEND TO AUX 画面を表示します。
選択しているチャンネルから AUX チャンネルへの送り量を白い線で表示します。
センドレベル、選択中のチャンネルのフェーダーレベル、DCA を加味した実際のセンドレベルは、横に伸びるバーで表示します。
AUX チャンネルに送る信号が、フェーダーの直前か直後かの情報を表示します。インジケーターが緑色の場合は直前、点灯していない場合は直後です。

⑩ **ASSIGN ボックス**
タッチすると、ASSIGN 画面を表示します(→ P.74)。

⑪ **チャンネルフェーダーレベルスライダー**
チャンネルのフェーダーレベルを調整します。

⑫ **チャンネル出力レベルメーター**
チャンネルの出力レベルを表示します。

FX 1L ～ 2R



① **チャンネル名**
タッチすると、CH NAME 画面を表示します。
◀ / ▶ をタッチすると、情報を表示するチャンネルを切り替えます。

② **Recall Safe ボタン**
タッチするとそのチャンネルの Recall Safe のオン / オフを切り替えます。
Recall Safe ボタン右側のジャンプボタンをタッチすると、RECALL SAFE 画面(→ P.38)を表示します。

③ **Mute Safe ボタン**
タッチすると、現在のチャンネルが FX ミュートグループから一時的に除外されます。
ミュートセーフに設定したチャンネルは、FX ミュートグループをミュートしても影響を受けません。

④ **ボックス**
タッチすると、それぞれ専用画面を表示します。
EQ ボックスのボタンは、タッチするとそれぞれオン / オフを切り替えます。
FROM ボックス: SEND FROM 画面を表示します(→ P.88)。(V3.0 以降)
FX1 (FX2) ボックス: FX 画面を表示します(→ P.67)。
EQ ボックス: EQ 画面を表示します(→ P.59)。

⑤ **チャンネルオン / オフボタン**
表示中のチャンネルのオン / オフを切り替えます。

⑥ **BAL(バランス)スライダー**
チャンネルの左右の音量バランスを調整します。

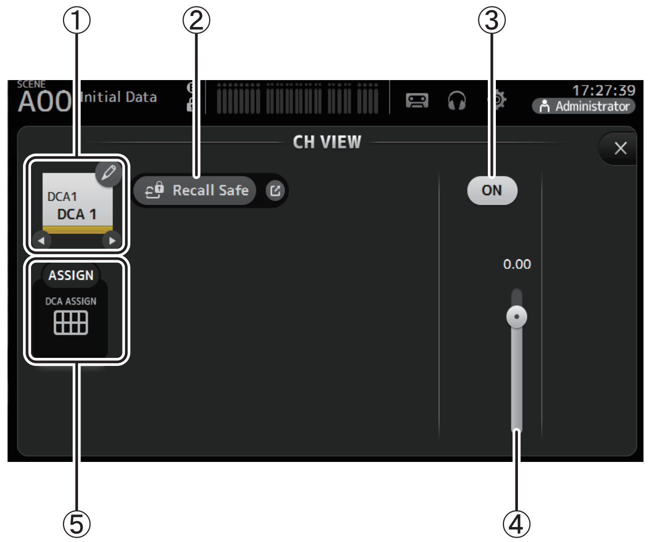
⑦ **SEND TO AUX ボックス**
選択した状態でタッチすると、SEND TO AUX 画面を表示します。
選択しているチャンネルから AUX チャンネルへの送り量を白い線で表示します。
センドレベル、選択中のチャンネルのフェーダーレベル、DCA を加味した実際のセンドレベルは、横に伸びるバーで表示します。
AUX チャンネルに送る信号が、フェーダーの直前か直後かの情報を表示します。インジケーターが緑色の場合は直前、点灯していない場合は直後です。

⑧ **ASSIGN ボックス**
タッチすると、ASSIGN 画面を表示します(→ P.74)。

⑨ **チャンネルフェーダーレベルスライダー**
チャンネルのフェーダーレベルを調整します。

⑩ **チャンネル出力レベルメーター**
チャンネルの出力レベルを表示します。

DCA 1 ～ DCA 8



① **チャンネル名**
タッチすると、CH NAME 画面を表示します。
◀ / ▶ をタッチすると、情報を表示するチャンネルを切り替えます。

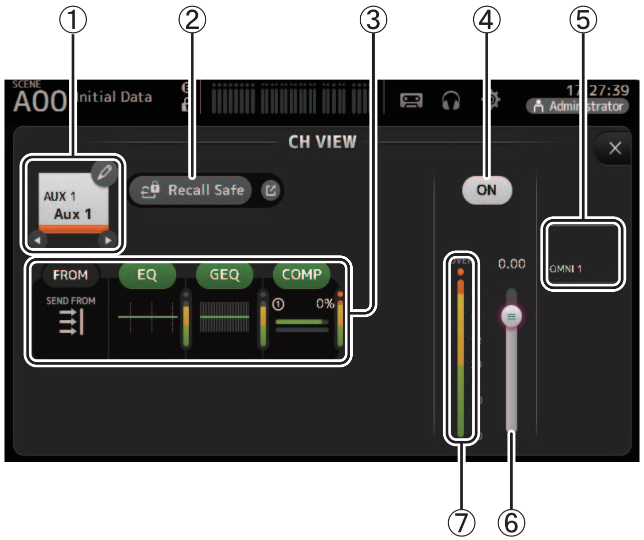
② **Recall Safe ボタン**
タッチするとそのチャンネルの Recall Safe のオン / オフを切り替えます。
Recall Safe ボタン右側のジャンプボタンをタッチすると、RECALL SAFE 画面(→ P.38)を表示します。

③ **チャンネルオン / オフボタン**
表示中のチャンネルのオン / オフを切り替えます。

④ **チャンネルフェーダーレベルスライダー**
チャンネルのフェーダーレベルを調整します。

⑤ **ASSIGN ボックス(V1.1 以降)**
選択した状態でタッチすると DCA ASSIGN 画面を表示します。(→ P.90)

AUX1 ～ AUX8



① **チャンネル名**
タッチすると、CH NAME 画面を表示します。
◀ / ▶ をタッチすると、情報を表示するチャンネルを切り替えます。

② **Recall Safe ボタン**
タッチするとそのチャンネルの Recall Safe のオン / オフを切り替えます。
Recall Safe ボタン右側のジャンプボタンをタッチすると、RECALL SAFE 画面(→ P.38)を表示します。

③ **ボックス**
タッチすると、それぞれ専用画面を表示します。
EQ、GEQ、COMP ボックスのボタンは、タッチするとそれぞれオン / オフを切り替えます。
FROM ボックス：SEND FROM 画面を表示します(→ P.88)。
EQ ボックス：EQ 画面を表示します(→ P.59)。
GEQ ボックス：GEQ 画面を表示します(→ P.85)。
COMP ボックス：COMP 画面を表示します(→ P.65)。

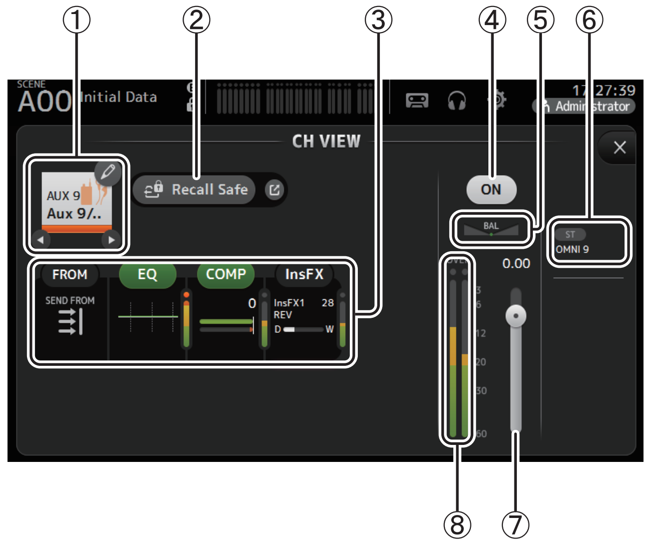
④ **チャンネルオン / オフボタン**
表示中のチャンネルのオン / オフを切り替えます。

⑤ **OUTPUT ボックス**
OUTPUT 画面を表示します(→ P.87)。

⑥ **チャンネルフェーダーレベルスライダー**
チャンネルのフェーダーレベルを調整します。

⑦ **チャンネル出力レベルメーター**
チャンネルの出力レベルを表示します。

AUX 9 ～ AUX 20



① **チャンネル名**
タッチすると、CH NAME 画面を表示します。
◀ / ▶ をタッチすると、情報を表示するチャンネルを切り替えます。

② **Recall Safe ボタン**
タッチするとそのチャンネルの Recall Safe のオン / オフを切り替えます。
Recall Safe ボタン右側のジャンプボタンをタッチすると、RECALL SAFE 画面(→ P.38)を表示します。

③ **ボックス**
タッチすると、それぞれ専用画面を表示します。
EQ、COMP ボックスのボタンは、タッチするとそれぞれオン / オフを切り替えます。
FROM ボックス：SEND FROM 画面を表示します(→ P.88)。
EQ ボックス：EQ 画面を表示します(→ P.59)。
COMP ボックス：COMP 画面を表示します(→ P.65)。
InsFX ボックス：FX 画面を表示します(→ P.67)。

④ **チャンネルオン / オフボタン**
表示中のチャンネルのオン / オフを切り替えます。

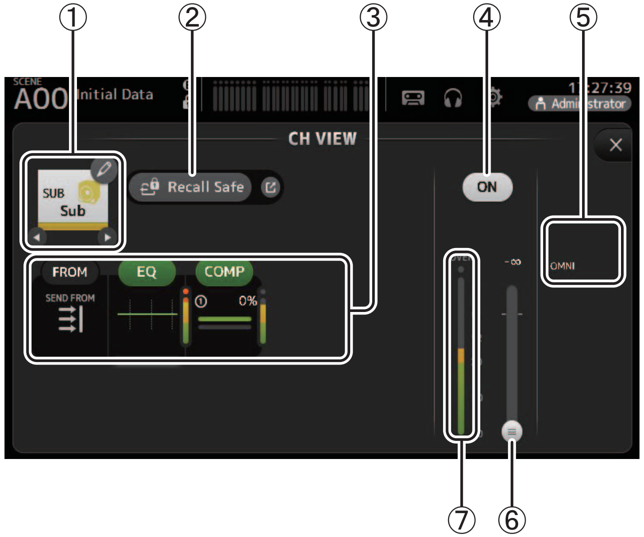
⑤ **BAL(バランス)スライダー**
チャンネルの左右の音量バランスを調整します。

⑥ **OUTPUT ボックス**
OUTPUT 画面を表示します(→ P.87)。

⑦ **チャンネルフェーダーレベルスライダー**
チャンネルのフェーダーレベルを調整します。

⑧ **チャンネル出力レベルメーター**
チャンネルの出力レベルを表示します。

SUB



① **チャンネル名**
タッチすると、CH NAME 画面を表示します。
◀ / ▶ をタッチすると、情報を表示するチャンネルを切り替えます。

② **Recall Safe ボタン**
タッチするとそのチャンネルの Recall Safe のオン / オフを切り替えます。
Recall Safe ボタン右側のジャンプボタンをタッチすると、RECALL SAFE 画面(→ P.38)を表示します。

③ **ボックス**
タッチすると、それぞれ専用画面を表示します。
EQ、COMP ボックスのボタンは、タッチするとそれぞれオン / オフを切り替えます。
FROM ボックス：SEND FROM 画面を表示します(→ P.88)。
EQ ボックス：EQ 画面を表示します(→ P.59)。
COMP ボックス：COMP 画面を表示します(→ P.65)。

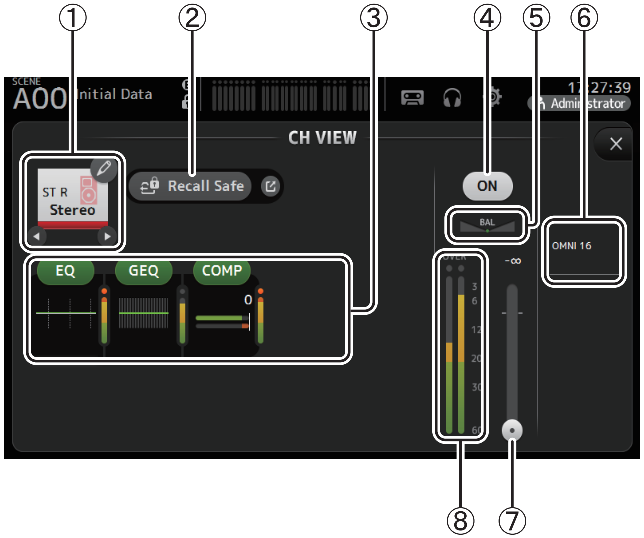
④ **チャンネルオン / オフボタン**
表示中のチャンネルのオン / オフを切り替えます。

⑤ **OUTPUT ボックス**
OUTPUT 画面を表示します(→ P.87)。

⑥ **チャンネルフェーダーレベルスライダー**
チャンネルのフェーダーレベルを調整します。

⑦ **チャンネル出力レベルメーター**
チャンネルの出力レベルを表示します。

ST L/R



① **チャンネル名**
タッチすると、CH NAME 画面を表示します。
◀ / ▶ をタッチすると、情報を表示するチャンネルを切り替えます。

② **Recall Safe ボタン**
タッチするとそのチャンネルの Recall Safe のオン / オフを切り替えます。
Recall Safe ボタン右側のジャンプボタンをタッチすると、RECALL SAFE 画面(→ P.38)を表示します。

③ **ボックス**
タッチすると、それぞれ専用画面を表示します。
EQ、GEQ、COMP ボックスのボタンは、タッチするとそれぞれオン / オフを切り替えます。
EQ ボックス: EQ 画面を表示します(→ P.59)。
GEQ ボックス: GEQ 画面を表示します(→ P.85)。
COMP ボックス: COMP 画面を表示します(→ P.65)。

④ **チャンネルオン / オフボタン**
表示中のチャンネルのオン / オフを切り替えます。

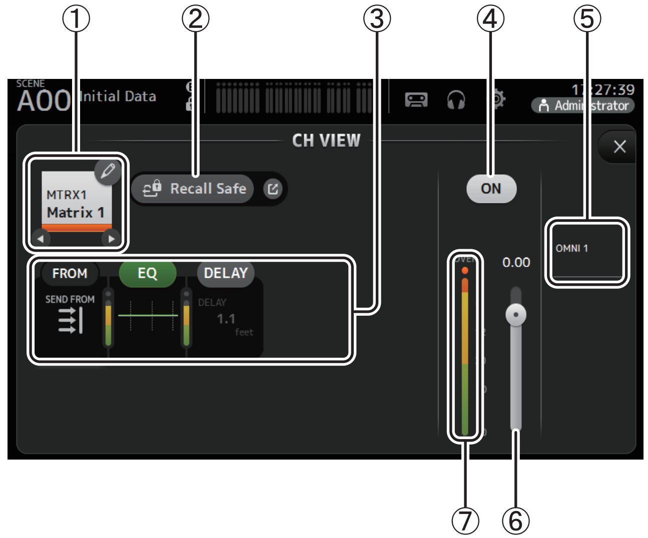
⑤ **BAL(バランス)スライダー**
チャンネルの左右の音量バランスを調整します。

⑥ **OUTPUT ボックス**
OUTPUT 画面を表示します(→ P.87)。

⑦ **チャンネルフェーダーレベルスライダー**
チャンネルのフェーダーレベルを調整します。

⑧ **チャンネル出力レベルメーター**
チャンネルの出力レベルを表示します。

MATRIX1 ～ MATRIX4(V2.5 以降)



① **チャンネル名**
タッチすると、CH NAME 画面を表示します。
◀ / ▶ をタッチすると、情報を表示するチャンネルを切り替えます。

② **Recall Safe ボタン**
タッチするとそのチャンネルの Recall Safe のオン / オフを切り替えます。
Recall Safe ボタン右側のジャンプボタンをタッチすると、RECALL SAFE 画面(→ P.38)を表示します。

③ **ボックス**
タッチすると、それぞれ専用画面を表示します。
EQ、COMP ボックスのボタンは、タッチするとそれぞれオン / オフを切り替えます。
FROM ボックス：SEND FROM 画面を表示します（→ P.88）。
EQ ボックス：EQ 画面を表示します（→ P.59）。
DELAY ボックス：DELAY 画面を表示します（→ P.92）。

④ **チャンネルオン / オフボタン**
表示中のチャンネルのオン / オフを切り替えます。

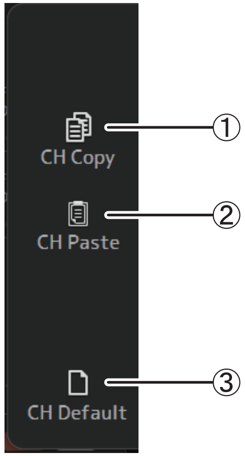
⑤ **OUTPUT ボックス**
OUTPUT 画面を表示します（→ P.87）。

⑥ **チャンネルフェーダーレベルスライダー**
チャンネルのフェーダーレベルを調整します。

⑦ **チャンネル出力レベルメーター**
チャンネルの出力レベルを表示します。

CH VIEW 画面のメニュー

CH VIEW 画面でメニューキー を押すと、以下のメニューアイコンが表示されます。

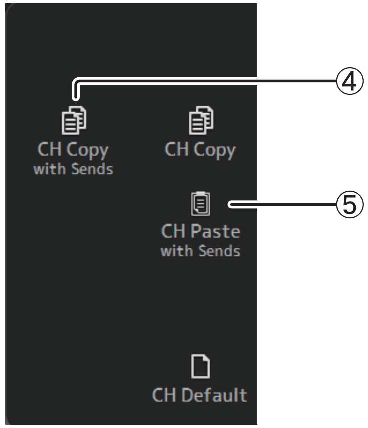


① CH Copy
選択しているチャンネルの設定をコピーします。

② CH Paste
選択しているチャンネルに、コピーしたチャンネルの設定をペーストします。

③ CH Default
選択しているチャンネルの設定を初期化します。

AUX/MATRIX チャンネルの場合（V4.0 以降）



④ CH Copy with Sends
選択しているチャンネルの設定を Sends も含めてコピーします。

⑤ CH Paste with Sends
選択しているチャンネルに、コピーしたチャンネルの設定を Sends も含めてペーストします。
CH Copy with Sends が実行されたときに、CH Paste のアイコンが CH Paste with Sends に変化します。

CH NAME 画面

チャンネル名に表示する名前、アイコン、チャンネルカラーを設定します。

① Name テキストボックス
チャンネル名を入力します。
テキストボックスをタッチすると SOFT KEYBOARD 画面(→ P.10)で直接入力できます。

② Icon ボタン
タッチすると、チャンネルアイコンの一覧が画面下側に表示されます。

③ Category ボタン
表示するチャンネルアイコンのカテゴリーを切り替えます。
チャンネルの種類によって表示されるカテゴリーが変わります。

④ チャンネルアイコン選択
アイコンをタッチすると、チャンネルアイコンとして反映されます。
上下にドラッグすると、表示されていないアイコンが表示されます。

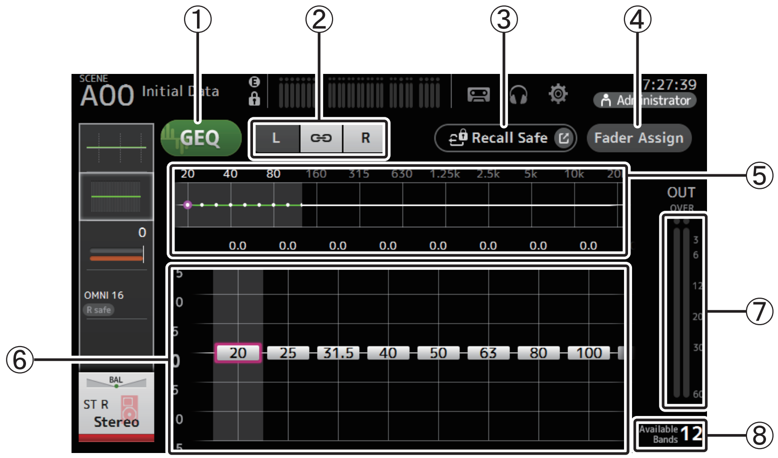
⑤ Sample Name ボタン
選択したチャンネルアイコンと一緒によく使われるチャンネルネームの例を表示します。
チャンネルネームの例が書かれたボタンをタッチすると、チャンネル名として反映されます。

⑥ Color ボタン
タッチすると、チャンネルカラーの一覧が画面下側に表示されます。

チャンネルカラーに設定したい色のボタンをタッチすると、チャンネルカラーとして反映されます。

GEQ 画面

AUX1 ～ 8 と STEREO チャンネルには、グラフィック EQ(以下「GEQ」)が内蔵されています。
モノラル仕様の 12 バンド GEQ です。バンド幅は 1/3 オクターブ刻み、ゲインの可変幅は ±15dB です。
31BandGEQ と同じ 31 バンドのうち、任意の 12 バンドまでゲインを操作できます。



① **GEQ ボタン**
GEQ のオン / オフを切り替えます。

② **GEQ 設定チャンネル /LR リンク選択ボタン**
シグナルタイプがステレオの AUX、または STEREO を選択した場合に表示されます。
モノラルの AUX の場合は表示されません。
: LR リンクのオン / オフを切り替えます。
L/R: 選択チャンネルの L と R を切り替えます。

③ **Recall Safe ボタン**
タッチすると、RECALL SAFE 画面を表示します(→ P.38)。

④ **Fader Assign ボタン(V2.0 以降)**
TF5/TF3/TF1 で使用できる機能です。
オンにすると、GEQ の各バンドをフェーダーで操作できます。

⑤ **周波数特性、RTA 表示、ゲイン操作可能バンド選択**
パラメーターの特性 /RTA を表示します。
スワイプまたはタッチして、操作するバンドの表示を切り替えます。
Fader Assign がオンのときに、フェーダーで操作するバンドの切り替えもここで行ないます。(TF3/TF1 のみ)

NOTE
PREFERENCE 画面の RTA Offset で RTA の感度を調整できます(→ P.26)。また、RTA Offset を USER DEFINED KNOBS に割り当てると GEQ 画面を表示したまま調整できます。(V3.6 以降)

⑥ **ゲインスライダー**
ゲインを上下にドラッグして調整します。
横にスワイプすると、ゲイン操作できるバンドの表示が切り替わります。
Fader Assign がオンのときに、フェーダーで操作するバンドの切り替えもここで行ないます。(TF3/TF1 のみ)

⑦ **出力レベルメーター**
GEQ の出力レベルを表示します。

⑧ **操作可能バンド表示**
ゲインを操作できる未使用バンド数を表示します。

GEQ を使う

1. GEQ ボタンをタッチして、オンにする

2. ゲインスライダーを左右にスワイプして、調整したい周波数を表示する

3. ゲインスライダーを上下にドラッグして、ゲインを調整する

ゲインのレベルは、ゲイン出力レベルメーターで確認できます。

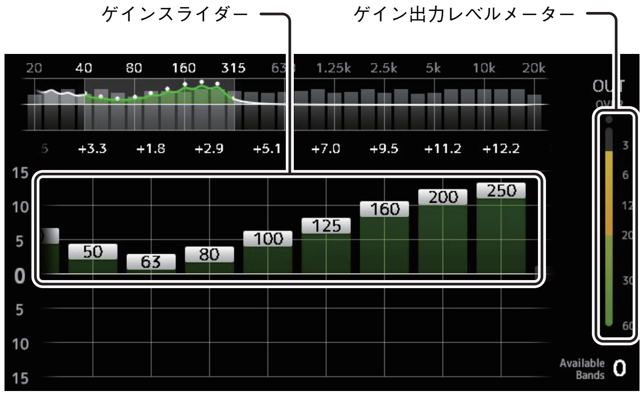
12 バンドすべてのゲインを設定すると、設定されていないスライダーはグレーで表示されます。ほかのバンドを調整したい場合は、どこかのバンドのゲインを 0 に設定してからほかのバンドを操作します。

操作したゲインスライダーを素早く 2 回タッチすると、0dB（初期状態）に戻ります。

選択されたゲインの設定はを [TOUCH AND TURN] ノブでも操作できます。

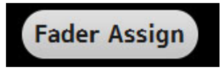
[SHIFT] キーを押すことで、[TOUCH AND TURN] ノブの機能を切り替えることができます。[SHIFT] キーを押すたびに、ゲインの設定とバンドの選択が交互に切り替わります。[TOUCH AND TURN] ノブを押すことでも同じ動作になります。

[SHIFT] キーを押し続けると選択されたバンドのゲインが 0dB（初期状態）に戻ります。（V4.0 以降）



フェーダーで GEQ を操作する（TF5/TF3/TF1）

1. Fader Assign ボタンをタッチしてオンにする



各バンドの現在のゲイン設定値が、パネル上のチャンネルストリップセクションのフェーダーに展開されます。

パネル上のチャンネル表示に、各フェーダーに展開されている周波数とゲイン設定値が表示されます。

2. TF3とTF1 の場合は、GEQ画面上のゲインスライダー部分を左右にスワイプして、調整したい周波数を切り替える

周波数特性、RTA 表示、ゲイン操作可能バンド選択部分を左右にスワイプしても周波数の切り替えができます。

TF5 の場合は、すべての周波数がフェーダーに展開されます。

3. パネル上のフェーダーを操作して、ゲインを調整する

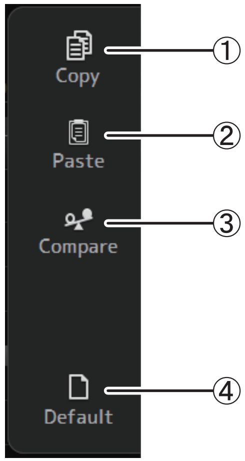
各チャンネルの [ON] キーを押すと、そのチャンネルに展開されている周波数のゲインを 0dB にリセットできます。

4. 調整が終わったら、Fader Assign ボタンをタッチしてオフにする

ほかの画面に切り替えたり、SENDS ON FADER モードにしたりすることでもオフになります。

GEQ 画面のメニュー

GEQ 画面でメニューキー を押すと、以下のメニューアイコンが表示されます。



① **Copy**
選択しているチャンネルの GEQ のパラメーターをコピーバッファーに格納します。

② **Paste**
コピーバッファーに格納されている GEQ のパラメーターを選択しているチャンネルにペーストします。

③ **Compare**
選択しているチャンネルの GEQ のパラメーターと、コピーバッファーに格納されている GEQ のパラメーターを切り替えて比較します。

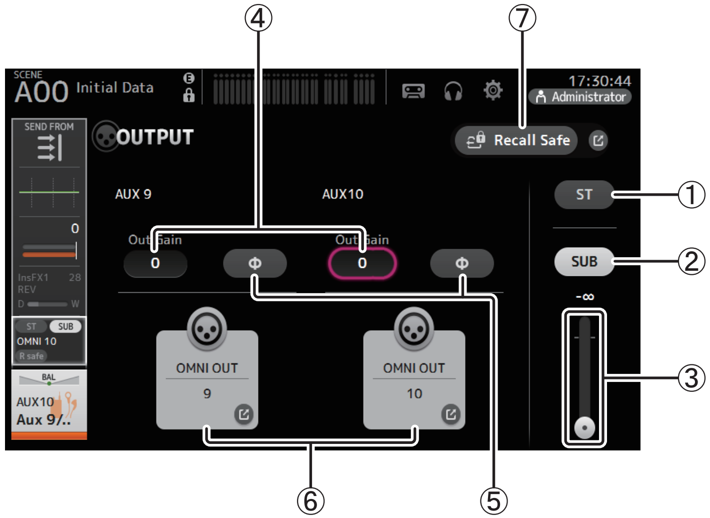
④ **Default**
GEQ 全体の設定を初期状態に設定します。

OUTPUT 画面

アウトプットチャンネルの出力に関する設定をします。選択しているアウトプットチャンネルによって、表示するボタンは異なります。

アウトプットチャンネル	ボタン					
	ST ボタン	SUB ボタン SUB スライダー	Out Gain ボタン	Φ ボタン	OMNI OUT インジケーター	OMNI OUT ボタン
AUX1 ～ 8	ー	ー	○	○	○	○
AUX9/10 ～ 19/20	○	○	○	○	○	○
SUB	ー	ー	○	○	○	○
STEREO	ー	ー	○	○	○	○
MATRIX1 ～ 4	ー	ー	○	○	○	○

○：表示します。
ー：表示しません。



① ST ボタン
ステレオチャンネルを出力するかどうかを切り替えます。

② SUB ボタン(V3.0 以降)
SUB チャンネルへの送りのオン／オフを切り替えます。

③ SUB スライダー(V3.0 以降)
SUB チャンネルへの送り量を調整します。

④ Out Gain テキストボックス
出力ゲインを設定します。
テキストボックスを選択した状態で[TOUCH AND TURN]ノブを回して設定します。再度タッチすると、それぞれの数値を入力する画面を表示します。

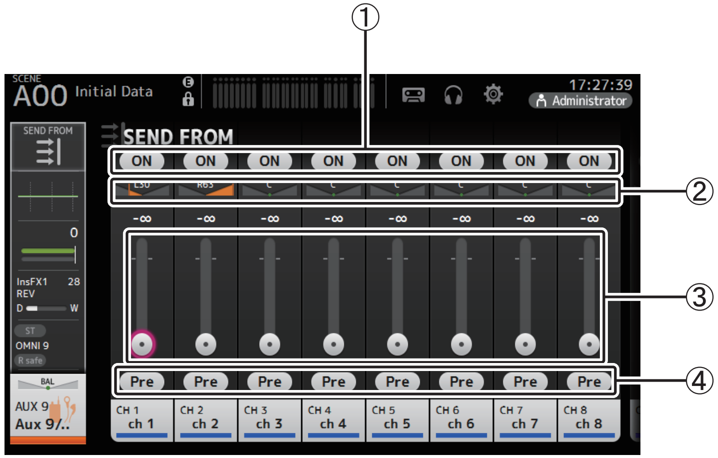
⑤ Φ(フェイズ)ボタン
信号の位相を切り替えます。
オンにすると、出力される信号の位相を反転します。

⑥ OMNI OUT ボタン
出力先の OMNI OUT 番号を表示します。
番号は、2 つまで表示し、3 つめ以降は「+」で表示します。
タッチすると、OMNI OUT 画面を表示します(→ P.34)。
チャンネルと出力ポートの対応については、「クイックコンフィグ時のチャンネル対応表」(→ P.106)をご参照ください。

⑦ Recall Safe ボタン(V1.1 以降)
タッチするとそのチャンネルの Recall Safe のオン / オフを切り替えます。
Recall Safe ボタン右側のジャンプボタンをタッチすると、RECALL SAFE 画面を表示します。

SEND FROM 画面

各チャンネルからの送りを設定します。



① ON ボタン
各チャンネルからの送りのオン / オフを切り替えます。

② SEND PAN スライダー
インプットチャンネルからの SEND PAN を操作します。
AUX1 ～ AUX8、MATRIX1 ～ MATRIX4 では、Signal Type が STEREO のときだけ表示されます。
FX1L ～ FX2R では表示されません。

③ SEND レベルスライダー
各チャンネルからの SEND レベルを操作します。

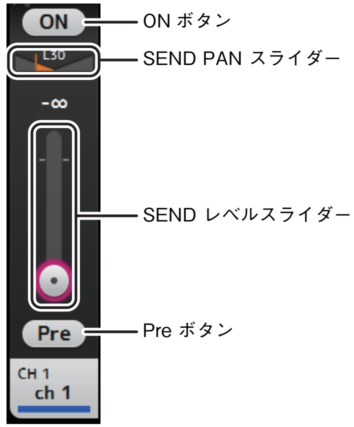
④ Pre ボタン
インプットチャンネルから送る信号をフェーダーの前後のどちらから送るかを選択します。
オン: フェーダーの前
オフ: フェーダーの後
MATRIX1 ～ MATRIX4 では表示されません。

インプットチャンネルからの送りを設定する

1. 設定するチャンネルの ON ボタンをタッチして、オンにする

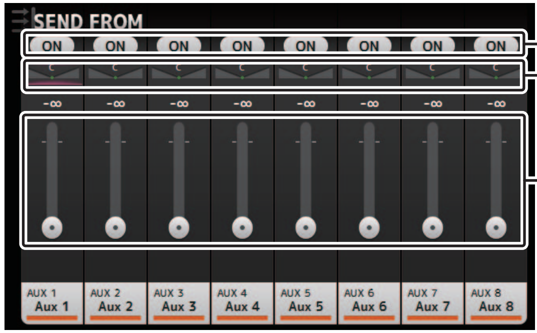
2. SEND PANスライダーをタッチし、[TOUCH AND TURN]ノブを回して、インプットチャンネルからの SEND PAN を調整する

3. SEND レベルスライダーをドラッグして、インプットチャンネルからの SEND レベルを操作する



アウトプットチャンネル(AUX、STEREO、SUB)から MATRIX への SEND レベルを設定する(V2.5 以降)

1. 設定するAUXチャンネル、STEREOチャンネル、SUBチャンネルのONボタンをタッチして、オンにする(初期設定はオン)
2. SENDレベルスライダーをドラッグして、AUXチャンネル、STEREOチャンネル、SUBチャンネルからの SEND レベルを操作する
3. MATRIXチャンネルをStereoに設定している場合は、PANスライダーでPANを操作する(V3.5以降)

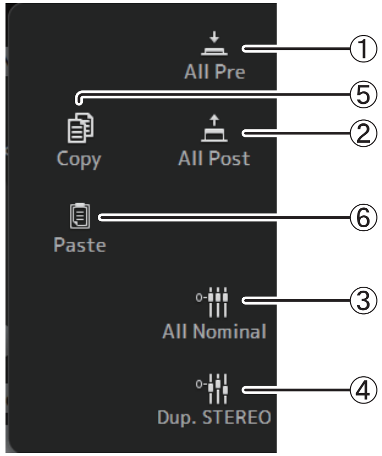


NOTE

- MATRIX チャンネルへは、AUX チャンネル、STEREO チャンネル、SUB チャンネルのポスト ON(ON ボタンの直後)の信号が送られます。
- AUX9/10 や STEREO などのステレオチャンネルからの SEND レベルは L チャンネル、R チャンネルが個別の設定になります。
- MATRIX チャンネルを Stereo に設定している場合、ステレオチャンネルは PAN スライダーが BAL(バランス)スライダーになります。(V3.5 以降)
- MATRIX チャンネルの Stereo/MONOx2 の切り替えは、SETUP 画面にある BUS SETUP 画面で設定します。(→ P.33)

SEND FROM 画面のメニュー

SEND FROM 画面でメニューキー ( ) を押すと、以下のメニューアイコンが表示されます。



① **All Pre**
すべての Pre ボタンをオンにします。

② **All Post**
すべての Pre ボタンをオフにします。

③ **All Nominal (V2.0 以降)**
すべての SEND レベルをノミナル(0.00dB)に設定します。

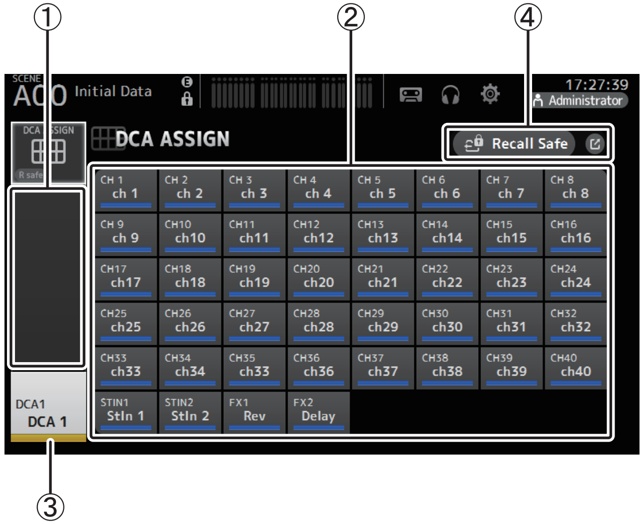
④ **Dup. STEREO (Duplicate STEREO)(V2.0 以降)**
各チャンネルのフェーダーレベルを SEND レベルにコピーします。

⑤ **Copy (V4.0 以降)**
選択している AUX/MATRIX チャンネルの SEND レベルをコピーします。

⑥ **Paste (V4.0 以降)**
コピーした SEND レベルを選択している AUX/MATRIX チャンネルにペーストします。

DCA ASSIGN 画面

DCA グループごとに割り当てるチャンネルを設定します。



① **チャンネル表示エリア**
選択している DCA グループに割り当てているチャンネルを表示します。

② **DCA ASSIGN ボタン**
DCA グループに割り当てるチャンネルを選択します。
選択されているチャンネルはハイライトされます。

③ **チャンネルビューボタン**
タッチすると、CH VIEW 画面が表示されます。(→ P.76)

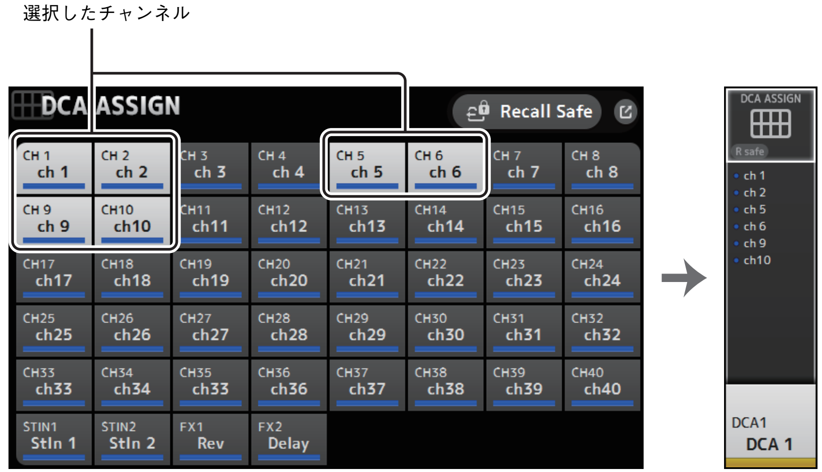
④ **Recall Safe ボタン(V1.1 以降)**
タッチするとそのチャンネルの Recall Safe のオン / オフを切り替えます。
Recall Safe ボタン右側のジャンプボタンをタッチすると、RECALL SAFE 画面を表示します。

DCA グループに割り当てるチャンネルを選ぶ

1. トップパネルの [INPUT1] ボタンと [INPUT2] ボタンを同時に押して、GROUPチャンネルを表示する

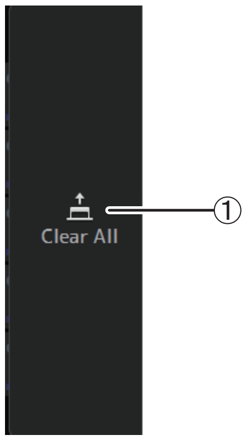
2. トップパネルの [SEL] キーを押して、操作する DCA グループを選ぶ

3. DCA ASSIGN ボタンをタッチして、DCA に割り当てるチャンネルを選択する(複数選択可)
選択したチャンネルは、チャンネル表示エリアに表示します。



DCA ASSIGN 画面のメニュー

DCA ASSIGN 画面でメニューキー ( ) を押すと、以下のメニューアイコンが表示されます。



① **Clear All**
DCA グループに割り当てたチャンネルをすべて解除します。

DCA ROLL-OUT 機能

TF シリーズでは、フェーダーバンクで GROUP バンクを選択すると、チャンネルストリップの右側 8 チャンネルに、DCA1 ～ DCA8 が表示されます。
（TF5 では 25 ～ 32, TF3 では 17 ～ 24, TF1 では 9 ～ 16）

パネルの [SEL] キーを使って各 DCA グループを選択すると、左側のチャンネルストリップに選択した DCA グループに割り当てられているチャンネル群が展開されます。
（TF5 では 1 ～ 24, TF3 では 1 ～ 16, TF1 では 1 ～ 8）
展開されるチャンネルはチャンネル番号の小さいほうから TF5 では 24 チャンネル , TF3 は 16 チャンネル , TF1 は 8 チャンネルに限定されます。

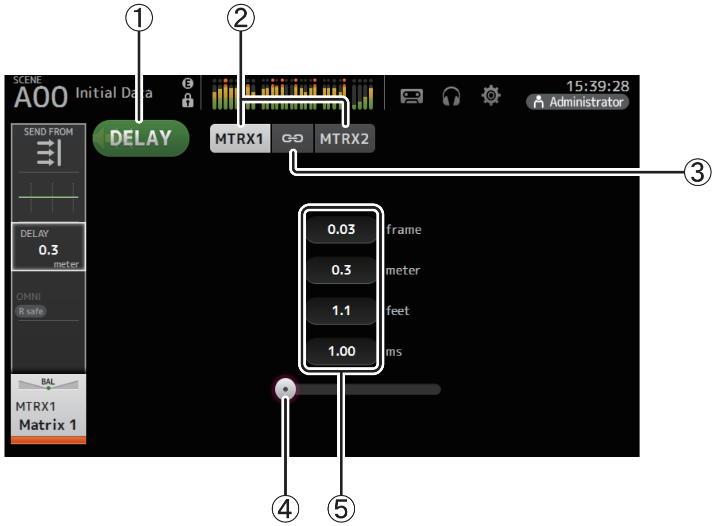
DCA マスターの操作と、割り当てられているチャンネルの個別操作を同時に行なうのに便利です。

NOTE

TF-RACK では OVERVIEW 画面にだけ表示されます。このとき展開されるチャンネルは TF1 と同じです。

DELAY 画面(V2.5 以降)

MATRIX チャンネルから出力する信号のディレイや、ST IN チャンネルに入力する信号のディレイ(V4.0 以降)を設定します。



① **DELAY ボタン**
DELAY のオン / オフを切り替えます。

② **表示切り替えボタン(V3.5 以降)**
MATRIX チャンネルが Stereo に設定されているときに、パラメーターを表示する MATRIX チャンネルを選択します。
ST IN チャンネルでは、2 つのボタンが常に表示されています。(V4.0 以降)

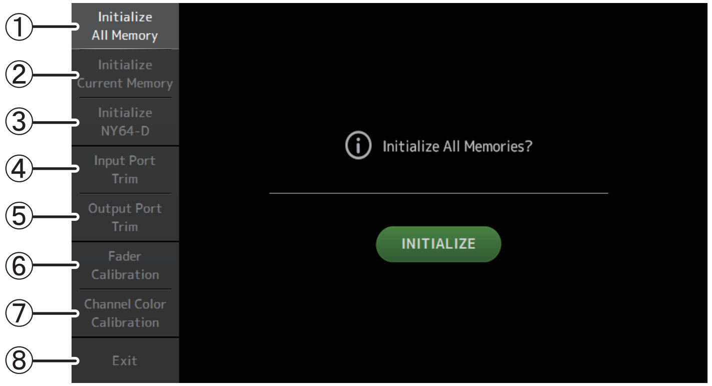
③ **LR Link ボタン(V3.5 以降)**
MATRIX チャンネルが Stereo に設定されているときに、オンにすると左右のチャンネルの DELAY のオン / オフとディレイタイムの操作をリンクします。ディレイタイムが違う値で設定されている場合は、差分を保ったままディレイタイムがリンク動作します。
ST IN チャンネルでは、LR Link ボタンが常に表示されています。(V4.0 以降)

NOTE
MATRIX チャンネルでは、Stereo に設定されているときだけ表示されます。Stereo/MONOx2 の切り替えは、SETUP 画面にある BUS SETUP 画面で設定します。(→ P.33)

④ **DELAY スライダー**
ディレイタイムを設定します。
ディレイタイムは frame(フレーム)、meter(メートル)、feet(フィート)、ms(ミリ秒)単位で表示されます。

⑤ **DELAY 設定テキストボックス**
ディレイを、frame(フレーム)、meter(メートル)、feet(フィート)、ms(ミリ秒)で指定できます。タッチすると、数値で入力する画面が表示されます。

TF シリーズのメンテナンスを行なう画面です。



① Initialize All Memory 画面を表示します。
② Initialize Current Memory 画面を表示します。（→ P.94）
③ Initialize NY64-D 画面を表示します。（→ P.94）（V3.0 以降）
④ Input Port Trim 画面を表示します。（→ P.95）
⑤ Output Port Trim 画面を表示します。（→ P.95）
⑥ Fader Calibration 画面を表示します。（→ P.96）（TF5/TF3/TF1）
⑦ Channel Color Calibration 画面を表示します。（→ P.97）（TF5/TF3/TF1）
⑧ メンテナンス画面を閉じます。

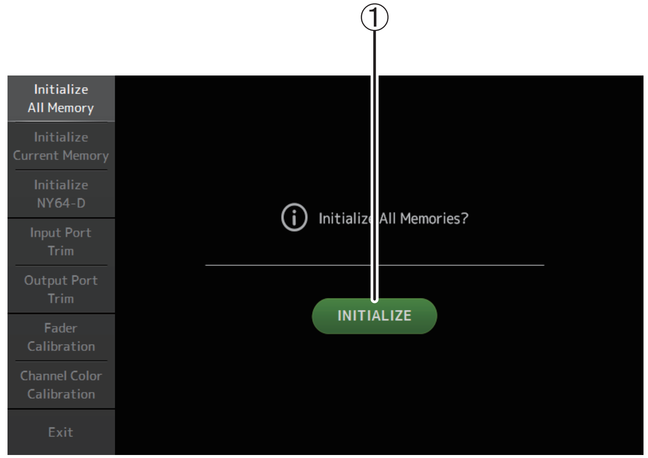
メンテナンス画面の表示と操作のしかた

1. トップパネルのホームキー（⌂）を押した状態で電源を入れる

メンテナンス画面を表示します。
各ボタンをタッチすると専用画面を表示します。
Exit ボタンをタッチすると元の画面に戻ります。

Initialize All Memory 画面

シーンメモリーやライブラリーを含む、すべてのメモリーを工場出荷時の状態に戻します。



① INITIALIZE ボタン

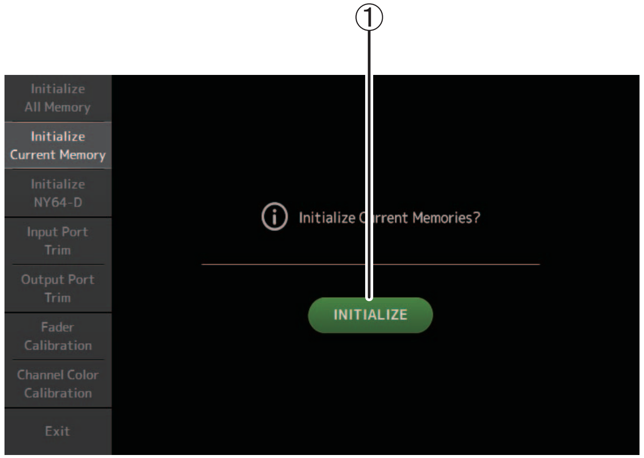
内蔵メモリーを初期化します。
初期化されるデータは、シーンすべて、プリセットすべて、ミキシングデータ、セットアップデータです。
タッチすると、実行を確認する画面を表示します。OK ボタンをタッチすると、初期化を実行します。
初期化が終わるまでボタンをタッチしないでください。
初期化が完了したあとは、Exit ボタンをタッチせずに、引き続きほかのメニューを選択することもできます。

NOTE

- 内蔵メモリーを初期化すると、それまでメモリー内に保存されていた内容が失われますので、慎重に操作してください。
- 内蔵時計、Network 設定は初期化をしても保持されます。
- NY64-D が装着されている場合は、接続されている Dante 機器との再設定のため、一度電源を入れなおすことをおすすめします。

Initialize Current Memory 画面

シーンメモリーやライブラリーを除くカレントメモリーを工場出荷時の状態に戻します。



① **INITIALIZE ボタン**

カレントメモリーを初期化します。

初期化されるデータは、ミキシングデータとセットアップデータです。

タッチすると、実行を確認する画面を表示します。OK ボタンをタッチすると、初期化を実行します。

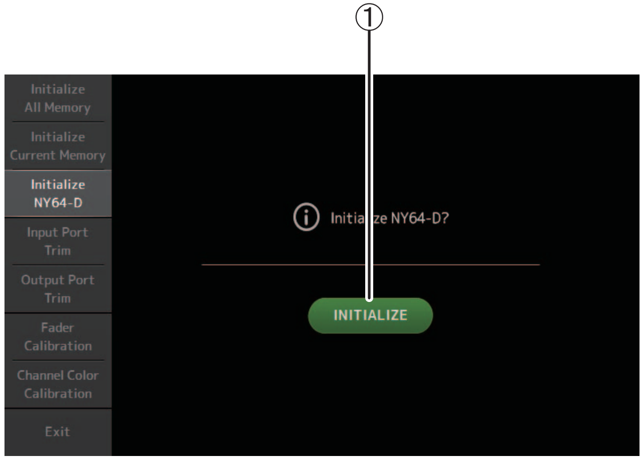
初期化が終わるまでボタンをタッチしないでください。

初期化が完了したあとは、Exit ボタンをタッチせずに、引き続きほかのメニューを選択することもできます。

NOTE

カレントメモリーを初期化すると、それまでカレントメモリー内に保存されていた内容が失われますので、慎重に操作してください。

Initialize NY64-D 画面(V3.0 以降)



① **INITIALIZE ボタン**

拡張スロットに挿入した NY64-D の設定を初期化します。初期化のあとは、接続されている Dante 機器との再設定のため、一度 TF シリーズ本体の電源を入れなおすことをおすすめします。

NOTE

- Dante Device Lock がかかっている NY64-D も初期化されます。この場合、NY64-D の Dante Device Lock は初期化後に解除されます。
- Dante Domain Manager のドメイン登録が解除されます。(V3.6 以降)
- NY64-D の Receive/Transmit の Dante Channel Label に TF の入出力チャンネルに対応したラベルが書き込まれます。(V3.6 以降)

Input Port Trim 画面

指定した入力端子のゲインを 0.01dB 単位で微調整します。

①

②

① **アナログ入力端子選択ボタン**
調整する入力端子を選択します。
入力端子を選択し、[TOUCH AND TURN] ノブを回すと、値を調整できます。
調整後は、通常モードで起動してください。

② **Reset All ボタン**
すべて 0dB になります。工場出荷時も 0dB となっています。
タッチすると、実行を確認する画面を表示します。OK ボタンをタッチすると、リセットを実行します。

NOTE
リセットが完了したあとは、Exit ボタンをタッチせずに、引き続きほかのメニューを選択できます。

Output Port Trim 画面

指定した OMNI OUT 端子のゲインを 0.01dB 単位で微調整します。

①

②

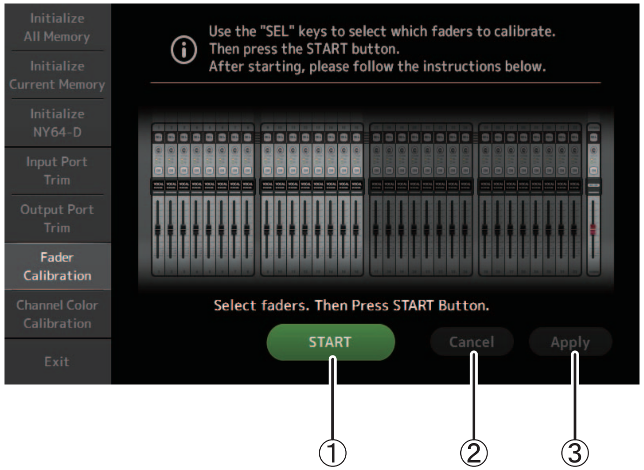
① **OMNI OUT 端子選択ボタン**
調整する OMNI OUT 端子を選択します。
OMNI OUT 端子を選択し、[TOUCH AND TURN] ノブを回すと、値を調整できます。
調整後は、通常モードで起動してください。

② **Reset All ボタン**
すべて 0dB になります。工場出荷時も 0dB となっています。
タッチすると、実行を確認する画面を表示します。OK ボタンをタッチすると、リセットを実行します。

NOTE
リセットが完了したあとは、Exit ボタンをタッチせずに、引き続きほかのメニューを選択できます。

Fader Calibration 画面(TF5/TF3/TF1)

使用環境によっては、モーターフェーダーの挙動にずれが生じる場合があります。この挙動のずれは、キャリブレーション機能を使って調整できます。



① START ボタン
調整を実行します。
タッチすると、実行を確認する画面を表示します。OK ボタンをタッチすると、調整を実行します。

② Cancel ボタン
調整を中止します。

③ Apply ボタン
調整を反映し、終了します。

フェーダーを調整する

1. **トップパネルの[SEL]キーを押してキャリブレーションするフェーダーを選択する**

2. **FADER CALIBRATION MODE 画面の START ボタンをタッチする**

3. **確認ダイアログの OK ボタンをタッチする**

4. **キャリブレーションが終了したら、APPLY ボタンをタッチする**

5. **起動メニューの Exit ボタンをタッチして、通常モードで起動する**

NOTE
- この操作で、指定したチャンネルストリップセクション、マスターセクションのフェーダーに対して、自動でキャリブレーションを行ないます。
- フェーダーキャリブレーションが完了したあとは、Exit ボタンをタッチせずに、引き続きほかのメニューを選択できます。

再調整が必要なフェーダーが見つかった場合の対処方法

フェーダーキャリブレーションで再調整が必要なフェーダーが見つかった場合は、該当するフェーダーの [ON] または [CUE] キーが点滅します。次の手順で操作してください。

1. **ディスプレイに表示されている「Found faders requiring adjustment. Please calibrate the faders again.」ポップアップ画面を、Close ボタンを押して閉じる**

2. **ディスプレイ内の Apply ボタンを押す**
再調整が必要なフェーダーの [SEL] キーが点灯します。

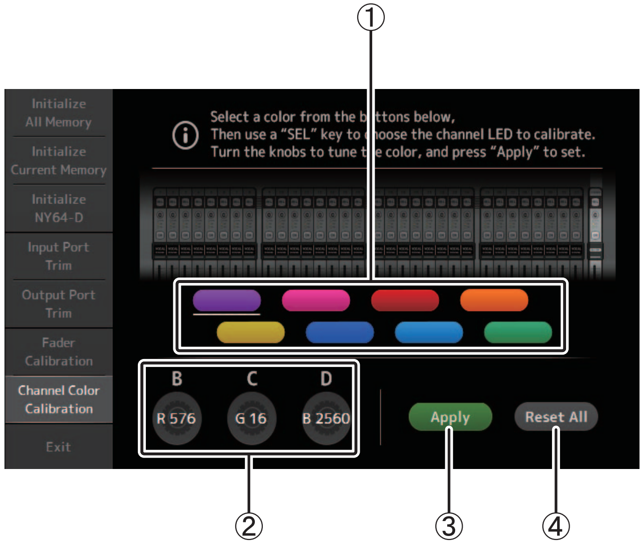
3. **該当のフェーダーを手で上下いっぱいまで数回動かす**
フェーダーの動作に、引っ掛かりなどがないかを確認します。

4. **上記の「フェーダーを調整する」の手順 2 からを再実行する**

数回やり直しても同じポップアップ画面が表示される場合は、お買い上げの販売店またはクイックガイドの巻末に記載のヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

Channel Color Calibration 画面（TF5/TF3/TF1）

必要に応じて、LED カラーの発色を調整できます。LED カラーの調整は、1 つずつ行ないます。



① **カラーボタン**
色を選択します。

② **RGB ノブ**
色を調整します。

③ **Apply ボタン**
調整を反映し、終了します。

④ **Reset All ボタン**
調整を実行します。
タッチすると、実行を確認する画面を表示します。OK ボタンをタッチすると、調整を実行します。

チャンネルカラーを調整する

1. チャンネルカラーを調整したいインジケーターを、トップパネルの[SEL]キーで選択する

2. COLOR フィールドのカラーボタンをタッチして、調整したい色を選択する

3. トップパネルの[SEL]キーが点灯していないほかのインジケーターと見比べながら、[TOUCH AND TURN]ノブ、または USER DEFINED KNOBS の B、C、D を使って、RGB ADJUSTMENT フィールドにある RGB ノブを回し、色を調整する

4. 調整が終わったら、画面右側の APPLY ボタンをタッチして、変更を確定する

5. Exit ボタンをタッチして、通常モードで起動する

NOTE

- TF3、TF1 の場合、その機種にないチャンネルは表示されません。
- 同時に複数のチャンネルを調整することはできません。
- APPLY ボタンは、RGB 値を変更したときだけ表示されます。
- すべての LED カラーインジケーターを工場出荷時の状態に戻したいときは、Reset All ボタンをタッチします。
- 初期化が完了したあとは、Exit ボタンをタッチせずに、引き続きほかのメニューを選択できます。

Scene/Preset 対象パラメーターリスト

CH1 ～ 40

		Channel Library Recall*3							Scene	Scene Recall Safe 対象								Stereo Link
		Recall CH				Recall EQ	Recall Gate	Recall Comp		All	HA	Input Select	Processing	Send To	Fader	On	Name	
		(All)	(Exclude) HA	(Exclude) Input Select	(Exclude) Name													
HA	Gain	O		O	O				O	O	O							O
	+48V	O		O	O				O	O	O							
	ϕ	O		O	O				O	O	O							
	Digital Gain	O		O	O				O	O	O							O
Input Select		O	O		O				O	O		O						O
Channel Name		O	O	O					O	O							O	
Category, Color, Icon		O	O	O					O	O							O	O
Stereo Link									O	O								O
Direct Out*1	ON	O	O	O	O				O	O								O
	Point	O	O	O	O				O	O								O
HPF		O	O	O	O	O			O	O			O					O
PEQ		O	O	O	O	O			O	O			O					O
GATE*1		O	O	O	O		O		O	O			O					O*2
COMP*1		O	O	O	O			O	O	O			O					O*2
Automixer*4		O	O	O	O				O	O			O					
Automixer Group Bypass*5																		
TO AUX	Level								O	O				O				O
	Pan								O	O								
	ON								O	O				O				O
	Pre								O	O				O				O
TO FX	Level								O	O				O				O
	ON								O	O				O				O
	Pre								O	O				O				O
TO ST	Assign	O	O	O	O				O	O								O
	Pan	O	O	O	O				O	O								
TO SUB	Level	O	O	O	O				O	O				O				O
	ON	O	O	O	O				O	O				O				O
ON									O	O						O		O
Fader									O	O					O			O
DCA Assign									O	O								O
Mute Assign*6									O	O								O
Mute Safe																		O
Recall Safe																		O
CUE																		O

*1 CH1 ～ 32 のみ
*2 Parameter のみリンクします。(ゲインリダクションの制御はリンクしません)
*3 CH1 ～ 32 で作成した Library は CH33 ～ 40 には Recall できません。同様に、CH33 ～ 40 で作成した Library は CH1 ～ 32 には Recall できません。
*4 CH1 ～ 8 のみ(V3.5 以降) CH9 以降で作成した Library を CH1 ～ 8 に Recall しても、AUTOMIXER のパラメーターは更新されません。
*5 Automixer Group Bypass はライブラリーおよびシーンに含まれません。(V4.0 以降)
*6 Mute Group Master On/Off はライブラリーおよびシーンに含まれません。(V4.0 以降)

ST IN 1, 2

		Channel Library Recall					Scene	Scene Recall Safe 対象								Stereo Link
		Recall CH				Recall EQ		All	HA	Input Select	Processing	Send To	Fader	On	Name	
		(All)	(Exclude)													
			HA	Input Select	Name											
HA	φ	O		O	O		O	O	O							
	Digital Gain	O		O	O		O	O	O							O
Input Select		O*1	O*1		O*1		O	O		O						O
Channel Name		O	O	O			O	O							O	O
Category, Color, Icon		O	O	O			O	O							O	O
PEQ		O	O	O	O	O	O	O			O					O
Delay		O	O	O	O		O	O			O					O*3
TO AUX	Level						O	O				O				O
	Pan						O	O								
	ON						O	O				O				O
	Pre						O	O				O				O
TO FX	Level						O	O				O				O
	ON						O	O				O				O
	Pre						O	O				O				O
TO ST	Assign	O	O	O	O		O	O								O
	Balance	O	O	O	O		O	O								O
TO SUB	Level	O	O	O	O		O	O				O				O
	ON	O	O	O	O		O	O				O				O
ON							O	O						O		O
Fader							O	O					O			O
DCA Assign							O	O								O
Mute Assign*2							O	O								O
Mute Safe																O
Recall Safe																O
CUE																O

*1　Input Select は同じチャンネルで作成した Library のみ Recall できます。
*2　Mute Group Master On/Off はライブラリーおよびシーンに含まれません。(V4.0 以降)
*3　ステレオリンクを外すこともできます。(V4.0 以降)

FX1, 2

		Channel Library Recall					Scene	Scene Recall Safe 対象								Stereo Link
		Recall CH			Recall FX	Recall EQ		With Send*1	All	FX	Processing	Send To	Fader	On	Name	
		(All)	(Exclude)													
			FX	Name												
Channel Name		O	O				O		O						O	O
Category, Color, Icon		O	O				O		O						O	O
FX		O		O	O		O		O	O					O	-
PEQ		O	O	O		O	O		O		O					O
TO AUX	Level						O		O			O				O
	Pan						O		O							
	ON						O		O			O				O
	Pre						O		O			O				O
TO ST	Assign	O	O	O			O		O							O
	Balance	O	O	O			O		O							O
TO SUB	Level	O	O	O			O		O			O				O
	ON	O	O	O			O		O			O				O
ON							O		O					O		O
Fader							O		O				O			O
DCA Assign							O		O							O
Mute Assign*2							O		O							O
Mute Safe																O
Recall Safe																O
CUE																O

*1 With Send の場合は、CH1 ～ 40, STIN1,2 からの TO FX のパラメーターが Safe されます。
*2 Mute Group Master On/Off はライブラリーおよびシーンに含まれません。(V4.0 以降)

AUX

		Channel Library Recall								Scene	Scene Recall Safe 対象									Stereo Link
		Recall CH*4				Recall EQ	Recall GEQ*1	Recall COMP*1	Recall FX*2		With Send	All	FX*2	GEQ*1	Processing	Fader	On	Gain/φ	Name	
		(All)	(Exclude)																	
			GEQ*1	FX*2	Name															
Channel Name		O	O	O						O		O							O	O*2
Category, Color, Icon		O	O	O						O		O							O	O
Signal Type*1										O		O								O
Pre Fader Send Point*5										O		O								O
Pan Link		O	O	O	O					O		O								O
PEQ		O	O	O	O	O				O		O			O					O
GEQ*1		O		O	O		O			O		O		O						O*3
COMP		O	O	O	O			O		O		O			O					O
Ins FX*2		O	O		O				O	O		O	O							O
TO ST Assign*2		O	O	O	O					O		O								O
TO SUB*5	Level	O	O	O	O					O		O								O
	ON	O	O	O	O					O		O								O
ON										O		O					O			O
Fader										O		O				O				O
Send From	Level									O	O									O
	Pan									O	O									O
	ON									O	O									O
	Pre									O	O									O
OUTPUT	Balance	O	O	O	O					O		O								O
	Out Gain	O	O	O	O					O		O						O		
	φ	O	O	O	O					O		O						O		
Recall Safe																				O
CUE																				O

*1　AUX1 ～ 8 のみ
*2　AUX9/10 ～ 19/20 のみ
*3　GEQ の L/R LINK がオンのときのみ
*4　AUX1 ～ 8 で作成した Library は AUX9/10 ～ 19/20 には Recall CH できません。同様に、AUX9/10 ～ 19/20 で作成した Library は AUX1 ～ 8 には Recall CH できません。
*5　V3.5 以降

STEREO、SUB

		Channel Library Recall						Scene	Scene Recall Safe 対象								Stereo Link*1
		Recall CH			Recall EQ	Recall GEQ*1	Recall COMP		With Send*2	All	GEQ*1	Processing	Fader	On	Gain/φ	Name	
		(All)	(Exclude) GEQ*1	(Exclude) Name													
Channel Name		O	O					O		O						O	O
Category, Color, Icon		O	O					O		O						O	O
LPF*2		O						O		O		O					
PEQ		O	O	O	O			O		O		O					O
GEQ*1		O		O		O		O		O	O						O*3
COMP		O	O	O			O	O		O		O					O
ON								O		O				O			O
Fader								O		O			O				O
STEREO/SUB Level Link*2								O		O*2			O*2				-
Send From*2	Level							O	O*5								
	ON							O	O*5								
OUTPUT	Balance*1	O	O	O				O		O							O
	Out Gain	O	O	O				O		O					O		
	φ	O	O	O				O		O					O		
Recall Safe																	O
CUE																	O

*1　STEREO のみ
*2　SUB のみ
*3　GEQ の L/R LINK がオンのときのみ
*4　STEREO で作成した Library は SUB には Recall CH/EQ できません。同様に、SUB で作成した Library は STEREO には Recall CH/EQ できません。
*5　Send From AUX9 ～ AUX20 が追加されました。（V3.0 以降）

MATRIX (V2.5 以降)

		Channel Library Recall			Scene	Scene Recall Safe 対象									Stereo Link
		Recall CH													
		(All)	(Exclude) Name	Recall EQ		With Send	All	FX	GEQ	Processing	Fader	On	Gain/φ	Name	
Channel Name		O			O		O							O	
Category, Color, Icon		O			O		O							O	O
Signal Type					O		O								O
PEQ		O	O	O	O		O			O					O
DELAY		O	O		O		O			O					O*1
ON					O		O					O			O
Fader					O		O				O				O
Send From	Level				O	O									O
	Pan/Balance				O	O									O
	ON				O	O									O
OUTPUT	Balance	O	O		O		O								O
	Out Gain	O	O		O		O						O		
	φ	O	O		O		O						O		
Recall Safe															O
CUE															O

*1　DELAY の L/R Link がオンのとき

DCA

	Scene	Scene Recall Safe 対象			
		All	Fader	On	Name
Channel Name	O	O			O
Category, Color, Icon	O	O			O
ON	O	O		O	
Fader	O	O	O		
DCA Assign	O	O			
Recall Safe					
CUE					

OMNI OUT

	Scene	Scene Recall Safe 対象
OMNI OUT Patch	O	O（全 OMNI OUT 一括）

アクセス制限テンプレートの対応パラメーターリスト

CH1-40

		HA	Input Select	Processing	Send To	Fader/ON	Name	Other
CH1-40	High Level	O	O	O	O	O	O	O
	Mid Level	O	O	O	O	O	X	O
	Low Level	X	X	X	X	O	X	X

ST IN

		HA	Input Select	Processing	Send To	Fader/ON	Name	Other
ST IN 1-2	High Level	O	O	O	O	O	O	O
	Mid Level	O	X	O	O	O	X	O
	Low Level	X	X	X	X	O	X	X

FX RTN

		With Send	FX	Processing	Send To	Fader/ON	Name	Other
FX RTN 1-2	High Level	O	O	O	O	O	O	O
	Mid Level	O	O	O	O	O	X	X
	Low Level	X	X	X	X	O	X	X

DCA

		Fader/ON	Name	DCA Assign
DCA 1-8	High Level	O	O	O
	Mid Level	O	X	X
	Low Level	O	X	X

OUTPUT

		With Send	FX	GEQ	Processing	Fader/ON	Gain/ϕ	Name	Other
AUX1-8	High Level	O	–	O	O	O	O	O	O
	Mid Level	O	–	O	O	O	X	X	O
	Low Level	X	–	X	X	O	X	X	X
AUX9/10-19/20	High Level	O	O	–	O	O	O	O	O
	Mid Level	O	O	–	O	O	X	X	O
	Low Level	X	X	–	X	O	X	X	X
STEREO	High Level	–	–	O	O	O	O	O	O
	Mid Level	–	–	X	X	O	X	X	X
	Low Level	–	–	X	X	O	X	X	X
SUB	High Level	O	–	–	O	O	O	O	–
	Mid Level	O	–	–	X	O	X	X	–
	Low Level	X	–	–	X	O	X	X	–
MATRIX1-4	High Level	O	–	–	O	O	O	O	O
	Mid Level	X	–	–	X	X	X	X	X
	Low Level	X	–	–	X	X	X	X	X

GENERAL

		High Level	Mid Level	Low Level
Scene A	Store	O	O	X
	Recall	O	O	O
Scene B	Store	O	O	X
	Recall	O	O	O
Library A	Store	O	O	X
	Recall	O	O	X
Library B	Store	O	O	X
	Recall	O	O	X
Setup	+48V Master	O	X	X
	Bus Setup	O	O	X
	Brightness	O	O	O
	Custom Fader Bank	O	O	X
	File Load	O	X	X
	Network	X	X	X
	OMNI OUT Patch	O	X	X
	Preference	O	O	O
	Recall Safe	O	X	X
	Slot Setup	O	X	X
	Time	X	X	X
	User Defined Control	O	X	X
Other	Automixer Group Bypass	O	O	O
	Monitor Delay	O	X	X
	Mute Group Name	O	X	X
	Mute Group Master	O	O	O
	Mute Safe	O	X	X
	Oscillator	O	O	X
	Stereo Link	O	O	X

クイックコンフィグ時のチャンネル対応表

Tio1608-D : TF INPUT	SLOT : TF INPUT CHANNEL	
Tio1608-D UNIT ID 1: INPUT1	SLOT IN 1	CH1 Input Select
Tio1608-D UNIT ID 1: INPUT2	SLOT IN 2	CH2 Input Select
Tio1608-D UNIT ID 1: INPUT3	SLOT IN 3	CH3 Input Select
Tio1608-D UNIT ID 1: INPUT4	SLOT IN 4	CH4 Input Select
Tio1608-D UNIT ID 1: INPUT5	SLOT IN 5	CH5 Input Select
Tio1608-D UNIT ID 1: INPUT6	SLOT IN 6	CH6 Input Select
Tio1608-D UNIT ID 1: INPUT7	SLOT IN 7	CH7 Input Select
Tio1608-D UNIT ID 1: INPUT8	SLOT IN 8	CH8 Input Select
Tio1608-D UNIT ID 1: INPUT9	SLOT IN 9	CH9 Input Select
Tio1608-D UNIT ID 1: INPUT10	SLOT IN 10	CH10 Input Select
Tio1608-D UNIT ID 1: INPUT11	SLOT IN 11	CH11 Input Select
Tio1608-D UNIT ID 1: INPUT12	SLOT IN 12	CH12 Input Select
Tio1608-D UNIT ID 1: INPUT13	SLOT IN 13	CH13 Input Select
Tio1608-D UNIT ID 1: INPUT14	SLOT IN 14	CH14 Input Select
Tio1608-D UNIT ID 1: INPUT15	SLOT IN 15	CH15 Input Select
Tio1608-D UNIT ID 1: INPUT16	SLOT IN 16	CH16 Input Select
Tio1608-D UNIT ID 2: INPUT1	SLOT IN 17	CH17 Input Select
Tio1608-D UNIT ID 2: INPUT2	SLOT IN 18	CH18 Input Select
Tio1608-D UNIT ID 2: INPUT3	SLOT IN 19	CH19 Input Select
Tio1608-D UNIT ID 2: INPUT4	SLOT IN 20	CH20 Input Select
Tio1608-D UNIT ID 2: INPUT5	SLOT IN 21	CH21 Input Select
Tio1608-D UNIT ID 2: INPUT6	SLOT IN 22	CH22 Input Select
Tio1608-D UNIT ID 2: INPUT7	SLOT IN 23	CH23 Input Select
Tio1608-D UNIT ID 2: INPUT8	SLOT IN 24	CH24 Input Select
Tio1608-D UNIT ID 2: INPUT9	SLOT IN 25	CH25 Input Select
Tio1608-D UNIT ID 2: INPUT10	SLOT IN 26	CH26 Input Select
Tio1608-D UNIT ID 2: INPUT11	SLOT IN 27	CH27 Input Select
Tio1608-D UNIT ID 2: INPUT12	SLOT IN 28	CH28 Input Select
Tio1608-D UNIT ID 2: INPUT13	SLOT IN 29	CH29 Input Select
Tio1608-D UNIT ID 2: INPUT14	SLOT IN 30	CH30 Input Select
Tio1608-D UNIT ID 2: INPUT15	SLOT IN 31	CH31 Input Select
Tio1608-D UNIT ID 2: INPUT16	SLOT IN 32	CH32 Input Select
Tio1608-D UNIT ID 3: INPUT1[*1]	SLOT IN 33	CH33 Input Select[*1]
Tio1608-D UNIT ID 3: INPUT2[*1]	SLOT IN 34	CH34 Input Select[*1]
Tio1608-D UNIT ID 3: INPUT3[*1]	SLOT IN 35	CH35 Input Select[*1]
Tio1608-D UNIT ID 3: INPUT4[*1]	SLOT IN 36	CH36 Input Select[*1]
Tio1608-D UNIT ID 3: INPUT5[*1]	SLOT IN 37	CH37 Input Select[*1]
Tio1608-D UNIT ID 3: INPUT6[*1]	SLOT IN 38	CH38 Input Select[*1]
Tio1608-D UNIT ID 3: INPUT7[*1]	SLOT IN 39	CH39 Input Select[*1]
Tio1608-D UNIT ID 3: INPUT8[*1]	SLOT IN 40	CH40 Input Select[*1]

TF OUTPUT CHANNEL : SLOT		Tio1608-D : TF OUTPUT
CH1 Direct Out	SLOT OUT 1	接続なし
CH2 Direct Out	SLOT OUT 2	接続なし
CH3 Direct Out	SLOT OUT 3	接続なし
CH4 Direct Out	SLOT OUT 4	接続なし
CH5 Direct Out	SLOT OUT 5	接続なし
CH6 Direct Out	SLOT OUT 6	接続なし
CH7 Direct Out	SLOT OUT 7	接続なし
CH8 Direct Out	SLOT OUT 8	接続なし
CH9 Direct Out	SLOT OUT 9	接続なし
CH10 Direct Out	SLOT OUT 10	接続なし
CH11 Direct Out	SLOT OUT 11	接続なし
CH12 Direct Out	SLOT OUT 12	接続なし
CH13 Direct Out	SLOT OUT 13	接続なし
CH14 Direct Out	SLOT OUT 14	接続なし
CH15 Direct Out	SLOT OUT 15	接続なし
CH16 Direct Out	SLOT OUT 16	接続なし
CH17 Direct Out	SLOT OUT 17	接続なし
CH18 Direct Out	SLOT OUT 18	接続なし
CH19 Direct Out	SLOT OUT 19	接続なし
CH20 Direct Out	SLOT OUT 20	接続なし
CH21 Direct Out	SLOT OUT 21	接続なし
CH22 Direct Out	SLOT OUT 22	接続なし
CH23 Direct Out	SLOT OUT 23	接続なし
CH24 Direct Out	SLOT OUT 24	接続なし
CH25 Direct Out	SLOT OUT 25	接続なし
CH26 Direct Out	SLOT OUT 26	接続なし
CH27 Direct Out	SLOT OUT 27	接続なし
CH28 Direct Out	SLOT OUT 28	接続なし
CH29 Direct Out	SLOT OUT 29	接続なし
CH30 Direct Out	SLOT OUT 30	接続なし
CH31 Direct Out	SLOT OUT 31	接続なし
CH32 Direct Out	SLOT OUT 32	接続なし
AUX1 Output	SLOT OUT 33	Tio1608-D UNIT ID 1: OUTPUT1
AUX2 Output	SLOT OUT 34	Tio1608-D UNIT ID 1: OUTPUT2
AUX3 Output	SLOT OUT 35	Tio1608-D UNIT ID 1: OUTPUT3
AUX4 Output	SLOT OUT 36	Tio1608-D UNIT ID 1: OUTPUT4
AUX5 Output	SLOT OUT 37	Tio1608-D UNIT ID 1: OUTPUT5
AUX6 Output	SLOT OUT 38	Tio1608-D UNIT ID 1: OUTPUT6
AUX7 Output	SLOT OUT 39	Tio1608-D UNIT ID 2: OUTPUT1
AUX8 Output	SLOT OUT 40	Tio1608-D UNIT ID 2: OUTPUT2

*1　TF1、TF-RACK は接続なし

Tio1608-D : TF INPUT	SLOT : TF INPUT CHANNEL	
接続なし	SLOT IN 41	接続なし
接続なし	SLOT IN 42	接続なし
接続なし	SLOT IN 43	接続なし
接続なし	SLOT IN 44	接続なし
接続なし	SLOT IN 45	接続なし
接続なし	SLOT IN 46	接続なし
接続なし	SLOT IN 47	接続なし
接続なし	SLOT IN 48	接続なし
接続なし	SLOT IN 49	接続なし
接続なし	SLOT IN 50	接続なし
接続なし	SLOT IN 51	接続なし
接続なし	SLOT IN 52	接続なし
接続なし	SLOT IN 53	接続なし
接続なし	SLOT IN 54	接続なし
接続なし	SLOT IN 55	接続なし
接続なし	SLOT IN 56	接続なし
接続なし	SLOT IN 57	接続なし
接続なし	SLOT IN 58	接続なし
接続なし	SLOT IN 59	接続なし
接続なし	SLOT IN 60	接続なし
接続なし	SLOT IN 61	接続なし
接続なし	SLOT IN 62	接続なし
接続なし	SLOT IN 63	ST IN 2L Input Select
接続なし	SLOT IN 64	ST IN 2R Input Select

TF OUTPUT CHANNEL : SLOT		Tio1608-D : TF OUTPUT
AUX9 Output	SLOT OUT 41	Tio1608-D UNIT ID 2: OUTPUT3
AUX10 Output	SLOT OUT 42	Tio1608-D UNIT ID 2: OUTPUT4
AUX11 Output	SLOT OUT 43	Tio1608-D UNIT ID 2: OUTPUT5
AUX12 Output	SLOT OUT 44	Tio1608-D UNIT ID 2: OUTPUT6
AUX13 Output	SLOT OUT 45	Tio1608-D UNIT ID 3: OUTPUT1
AUX14 Output	SLOT OUT 46	Tio1608-D UNIT ID 3: OUTPUT2
AUX15 Output	SLOT OUT 47	Tio1608-D UNIT ID 3: OUTPUT3
AUX16 Output	SLOT OUT 48	Tio1608-D UNIT ID 3: OUTPUT4
AUX17 Output	SLOT OUT 49	Tio1608-D UNIT ID 3: OUTPUT5
AUX18 Output	SLOT OUT 50	Tio1608-D UNIT ID 3: OUTPUT6
AUX19 Output	SLOT OUT 51	Tio1608-D UNIT ID 3: OUTPUT7
AUX20 Output	SLOT OUT 52	Tio1608-D UNIT ID 3: OUTPUT8
MATRIX1 OUT（V2.5 以降）	SLOT OUT 53	接続なし
MATRIX2 OUT（V2.5 以降）	SLOT OUT 54	接続なし
MATRIX3 OUT（V2.5 以降）	SLOT OUT 55	接続なし
MATRIX4 OUT（V2.5 以降）	SLOT OUT 56	接続なし
STEREO L Output	SLOT OUT 57	Tio1608-D UNIT ID 1: OUTPUT7, Tio1608-D UNIT ID 2: OUTPUT7
STEREO R Output	SLOT OUT 58	Tio1608-D UNIT ID 1: OUTPUT8, Tio1608-D UNIT ID 2: OUTPUT8
SUB Output	SLOT OUT 59	接続なし
接続なし	SLOT OUT 60	接続なし
MONITOR L Output	SLOT OUT 61	接続なし
MONITOR R Output	SLOT OUT 62	接続なし
接続なし	SLOT OUT 63	接続なし
接続なし	SLOT OUT 64	接続なし

* クイックコンフィグ機能がオフのときも、ミキサーと SLOT のチャンネルの対応は、上記の表のとおりです。

本体メッセージ

メッセージ	説明
Item Already Exists. Replace it?	Library の Store（上書き時）実行時。
File Already Exists, Replace it?	Save As 時に名前が重複していた場合。 Save で上書きする時。
Exceed Maximum Number! Library A:XXXX items, Library B:XXXX items	Library が最大数を超えるため Load できない。
File System is Not Ready. This Operation can Overwrite Existing Files or Directories.	USB 挿入直後（リスト作成中）に、録音をはじめようとした。または、ファイルやディレクトリの名前を変更しようとした。
Over Current Error! This USB Device is Not Supported. Please Disconnect.	USB の過電流のため、USB デバイスを切断した。
Tio OUTPUT is in Use by Another TF. "with OUTPUT" in Quick Config is Turned off.	Tio1608-D の OUTPUT を Quick Config で使用している TF シリーズが既にあるので、本機の Quick Config の "with OUTPUT" のチェックを外した。
Operation Failed!	実行に失敗した。（汎用的なエラー） Unknown よりも弱い。 Unknown と Igonore の間くらいの感覚。
Invalid Name!	命名規則に違反している。
Operation Ignored.	そのときの状態では、ノブにアサインされた機能は働かない。使えない。 User Defined Knobs Tips 操作がメッセージの対象。 User Defined Knob にアサインされた機能が、その状態では使えない時に出す。
SCENE #XX is Empty!	リコールしようとしたシーンにデータがストアされていない、またはデータが壊れていてリコールできない。
SCENE #XX is Read Only!	読み込み専用のシーンに対して上書きでストアしようとした。
Cannot Store!	シーンメモリーやライブラリーのストアに失敗した。
Cannot Recall!	シーンメモリーやライブラリーのリコールに失敗した。
Operation Failed. Library X Memory Full.	最大数に達した状態でデータの追加をしたとき。 X には A または B が入ります。
Wrong Word Clock! (Slot)	NY64-D の Sample Rate 設定が適切ではないので、TF シリーズが同期できない。
Turn Off 1-knob Mode to Adjust.	1-knob モードが有効 （オフにしてください）。
Nothing to Paste!	コピーバッファーが空の状態でペーストされた。
Cannot Bookmark This Screen.	この画面はブックマーク登録できない。
Page Does not Exist.	ページが存在していない。
Cannot Close This Popup.	ポップアップを閉じることができない。
Not Bookmarked.	まだ Bookmark されていません。
File Busy! Operation Denied.	USB メモリーにアクセス中のため、処理できなかった。
Unsupported File Format!	USB メモリーから、対応していないフォーマットのファイルを読み込もうとした。

メッセージ	説明
Storage Not Found!	USB メモリーが認識できなかった。
Couldn't Write File.	USB メモリーにファイルを保存できなかった。
File Protected!	USB メモリー上のファイルが書き込み禁止になっているため上書きできなかった。
Already Exists!	Make Directory 時、既にその名前のディレクトリが存在する時。 Edit でファイル・ディレクトリ名を変更するときも。
Couldn't Access File.	USB メモリー上のファイルが何らかの理由でアクセスできなかった。
File Error!	内部的なファイルアクセスエラー。
Format Error!	フォーマットに失敗した。
Loading Title List.	USB Recorder でオーディオファイルを読み込み中。（V4.0 以降）
USB Storage Unmounted! Recorder Stopped.	USB Recorder 動作中に USB メモリーを抜いたため、Recorder の処理を停止した。
USB Storage Full! Recorder Stopped.	USB Recorder 動作中に USB メモリーの容量が不足したため、Recorder の処理を停止した。
Recorder supports a maximum of 150 items in a folder. Please remove some files from this folder to continue.	RECORDER で読み込むオーディオファイル数がフォルダ数含め 150 を超えている。（V4.0 以降）
USB Storage Busy: Recorder Stopped!	USB ストレージデバイスの処理に時間がかかり、録音 / 再生を停止した。
Illegal Storage Format! Format USB Device with the Other USB Port.	アロケーションユニットサイズが 4096 バイト未満の USB メモリーデバイスが iPad 端子に挿入された。この場合、録音するとフォーマットが壊れる場合があります。
Low Battery!	バックアップバッテリーの電圧が下がっている。
Illegal IP Address!	IP アドレスやゲートウェイアドレスの設定が不正である。
USB Sample Rate Mismatch on USB. Console:44100Hz	USB TO HOST 端子で接続された PC と TF との間で Sample Rate が異なっている。（コンソール：44.1kHz PC：48kHz） PC の Sample Rate の設定を 44.1kHz に設定してください。
USB Sample Rate Mismatch on USB. Console:48000Hz	USB TO HOST 端子で接続された PC と TF との間で Sample Rate が異なっている。（コンソール：48kHz PC：44.1kHz） PC の Sample Rate の設定を 48kHz に設定してください。
Two or More Devices Have Same Unit ID!	NY64-D 経由で Dante ネットワークに接続されている Tio1608-D の UNITID が重複している。
Dante Module Error!	NY64-D や Tio1608-D などの Dante モジュールのエラー。
Illegal Dante Module MAC Address!	NY64-D の MAC Address が壊れ通信不可能。
Dante Module Memory Error!	Tio1608-D などの Dante モジュールのメモリエラー。
Dante Audio Resource Overflow	NY64-D 経由で接続されている Dante ネットワークに許容量以上の音声データが送信されている。
Under Synchronization	NY64-D 経由で Dante ネットワークに接続されている Tio1608-D に対する設定を実行中。 Tio1608-D が Resume モードのときに、Slot Setup 画面に表示され続けることがありますが故障ではありません。

メッセージ	説明
Wrong Word Clock! (Dante Device)	NY64-D 経由で Dante ネットワークに接続されている機器の Sample Rate 設定が適切でないので、NY64-D と同期できない。
Linked at 10/100Mbps. Check Cables or Switches.	NY64-D 経由で接続されている Dante ネットワークにギガビットイーサーネットに対応していない Switch やケーブルが接続されている。
Error on the Dante Primary Port	リダンダンシーネットワークのときに　PRIMARY ネットワークに異常が発生し、SECONDARY ネットワークに退避した。
Error on the Dante Secondary Port	リダンダンシーネットワークのときに、SECONDARY ネットワークに異常が発生した。
Dante Patch or Setting Modified	Dante Controller などにより Quick Config の設定値と異なる状態になった。
Dante Setting Mismatch	Tio1608-D のパネルのスイッチの設定と実際の動作が異なる状態になっている。Tio1608-D に対して Dante Device Lock が有効になっていて、パネルの UNIT ID スイッチと実際の UNIT ID が異なったときや、電源を投入したあとに UNIT ID を操作したときなどに表示されます。
Restart Tio to Complete Quick Config	Tio1608-D の Device Config などの設定が Quick Config の設定値にならないので Tio1608-D を再起動してください。
No Option Card Installed	Slot に NY64-D カードが挿入されていない。 NY64-D カードが挿入されていない状態で、Quick Config ボタンを ON したときに表示されます。
TF Controls First 24 Dante Devices Found	NY64-D 経由で接続されている Dante ネットワーク上の I/O ラック（Tio1608-D、R シリーズ、DZR-D シリーズ、DXS-XLF-D シリーズなど）の数が制限を超えた。
TF Controls HAs of Maximum of 8 Dante Devices	NY64-D 経由で接続されている Dante ネットワーク上の HA を備えた Dante 機器の数が制限を超えた。
Unknown Option Card Installed!	拡張スロットに TF シリーズが対応していないカードが挿入されていると判断された。
Overcurrent Detected (Slot)	拡張スロットに挿入されたカードの過電流を検出した。
Slot Communication Error!	拡張スロットに挿入されたカードとの通信に問題がある。
Dante Module Restarted!	NY64-D の Dante モジュールがリスタートした。
Dante Setting Error! Please Restart the Console.	NY64-D の Dante モジュールにコンソールの再起動が必要なエラーが発生した。 この場合はコンソールを再起動してください。
Dante I/O Device Disconnected	Dante 機器と NY64-D との接続が切断された。
Two or More HA Controllers may Cause Conflict	Dante ネットワーク上に同じ HA をコントロールするコンソールが複数存在する場合、操作が競合する。 Slot Setup 画面で HA Control を ON にしたときに必ず表示されますが、故障ではありません。
Dante devices are locked. Use Dante Controller to unlock devices.	クイックコンフィグの対象になる機器や NY64-D に Dante Device Lock が有効になっている状態で Quick Config ボタンを押すと表示されます。Quick Config の自動パッチが行なわれない経路がありますが、故障ではありません。ロックを解除するには、Dante Controller（v3.10.0.19 以降）が必要です。
Permission Denied!	この操作をする権限が与えられていないため無視された。

メッセージ	説明
Operation ignored, you are not logged-in.	ログインしていないため操作ができない。
Incorrect password entered.	入力したパスワードが間違っている。
This console is enrolled in a Dante Domain. Quick Config is disabled.	Dante Domain Manager によってドメインに登録されたため、クイックコンフィグがオフになりました。

索引

Numerics
1-knob COMP 65
1-knob EQ 60
Intensity 60
Loudness 60
Vocal 60

A
ACCESS PERMISSION 画面 45
ASSIGN 画面 74
Auto CH Select 25
AUTOMIXER 画面 74
AUX1 ～ AUX8 チャンネル 48
AUX9/10 ～ 19/20 チャンネル 48
AUX9/10 ～ AUX19/20 7

C
CH STRIP セクション 47
CH VIEW 画面 76
Channel Color Calibration 画面 97
COMP 画面 65
CUE 19
CUSTOM FADER BANK 画面のメニュー 32

D
DCA ASSIGN 画面 90
DCA グループ 90
DELAY 画面 92

E
EQ 画面 59
EQ 画面のメニュー 63

F
Fader Calibration 画面 96
FADER セクション 49
FX 画面（FX1/FX2/INS FX1 ～ 6） 67

G
GainFinder 57
GATE 画面 63
GEQ 画面 85

I
Initialize All Memory 画面 93
Initialize Current Memory 画面 94
Input Port Trim 画面 95
INPUT 画面 57
IP アドレス 41

L
LOGIN 画面 44

M
MATRIX1 ～ MATRIX4 チャンネル 48
METER 画面 14
MONITOR 画面 19
MP3 15

O
OMNI OUT 34
OMNI OUT 画面のメニュー 34
Output Port Trim 画面 95
OUTPUT 画面 87
OVERVIEW 画面 47
OVERVIEW 画面の操作 54

P
Peak Hold 14
PHONES 端子 20

R
RECORDER 画面（INPUT/OUTPUT/TITLE LIST 画面） 15
RECORDER 画面のメニュー 19
RTA 表示 85

S
SAVE/LOAD 画面のメニュー 23
SCENE 画面 11
SCENE 画面のメニュー 13
SEND FROM 画面 88
SEND PAN 88
SEND TO AUX 画面 73
SETUP 画面 22
SOFT KEYBOARD 画面 10
SUB チャンネル 48

U
USER ACCOUNT 画面 44
USER DEFINED KEYS 27
USER DEFINED KNOBS 27

W
WAV 15

い
イニシャライズ（NY64-D） 94
イニシャライズ（本体メモリー） 93
インプットチャンネル 47

お
オーディオファイル 15
オシレーター 21

き
曲ファイル情報 18

く
グループチャンネル 49

け
ゲートウェイ 41

さ
再生 15
サブネットマスク 41
サマータイム 42

し
シーン 11
初期化（本体メモリー） 93

す
ステレオチャンネル 47
ステレオリンク 57

せ
専用画面 5, 57
専用画面を表示する 11

た
タイムスタンプ 42
ダイレクトアウト 77

つ
ツールバー 11

て
デジタルゲイン 57

な
内蔵時計 42

は
バージョン情報 43

ふ
ファンタム電源 58
フェイズ 58
フットスイッチ 29
プリセット 8
プレイモード（ループ再生） 18

め
メーターポイント 14
メニュー 10
メンテナンス画面 93
メンテナンス画面の表示と操作のしかた 93

も
モニター 19

ら
ライセンス情報 43
ライブラリー 8
ライブラリー画面 8

り
リコール対象選択 8

れ
レベルメーター 14

ろ
録音 15

わ
ワーニング / エラーメッセージ 108

■ 操作 / 設定

D

DCA グループ
割り当てるチャンネルを選ぶ..... 90

E

EQ
1-knob モードで EQ を操作する 61
GEQ を使う 86
HPF を設定する 62
LPF を設定する 62
マニュアルモードで EQ を操作する 61

あ

アクセス
アクセス制限をかける 46

か

カスタムフェーダーバンク
設定する 32
呼び出す 32

き

機能を割り当てる
[USER DEFINED KEYS] に機能を割り当てる 30
[USER DEFINED KNOBS] に機能を割り当てる 31
フットスイッチに機能を割り当てる 31

さ

再生
USB ストレージデバイスの曲を再生する 19

し

シーン
編集する 12
呼び出す 12

せ

設定
AUTOMIXER を設定する 75
AUX バスへの送り量を設定する... 73
GATE を設定する 64
MATRIX チャンネルへの送りを設定する 89
PREFERENCE を設定する 26
インサートエフェクトを設定する 68
インプットチャンネルからの送りを設定する 88
エフェクトを設定する 68
オシレーターを設定する 21
カスタムフェーダーバンクを設定する 32
コンプレッサーを設定する 66
出力を設定する 17
ステレオリンク、入力ソースを設定する 58
チャンネルカラーを設定する 97
入力を設定する 16
フェーダーを調整する 96

そ

操作
ボタン / スライダーの操作 10

ち

チェックする
音声入力をチェックする 20
チャンネル設定
コピー / ペーストする 55

ふ

プリセット
編集する 9
リコールする 9

り

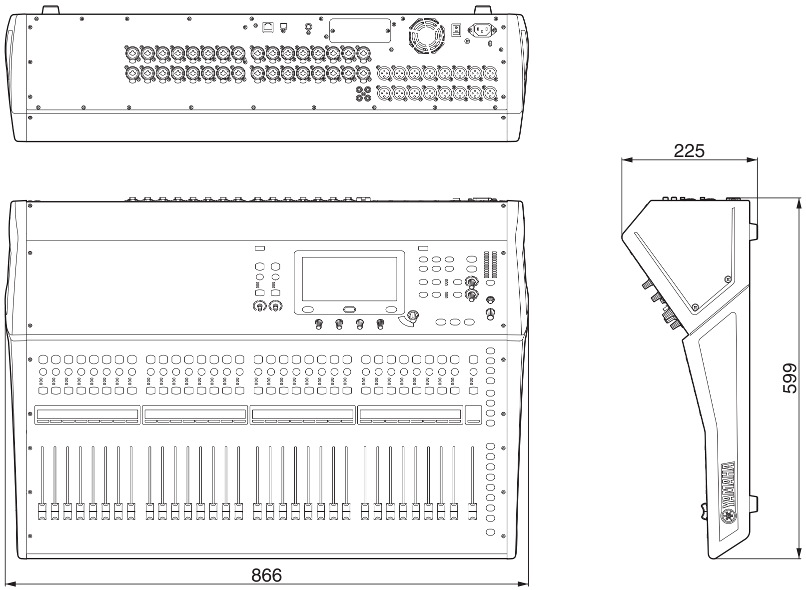
リコールセーフ機能
リコールセーフ機能を使う 38

ろ

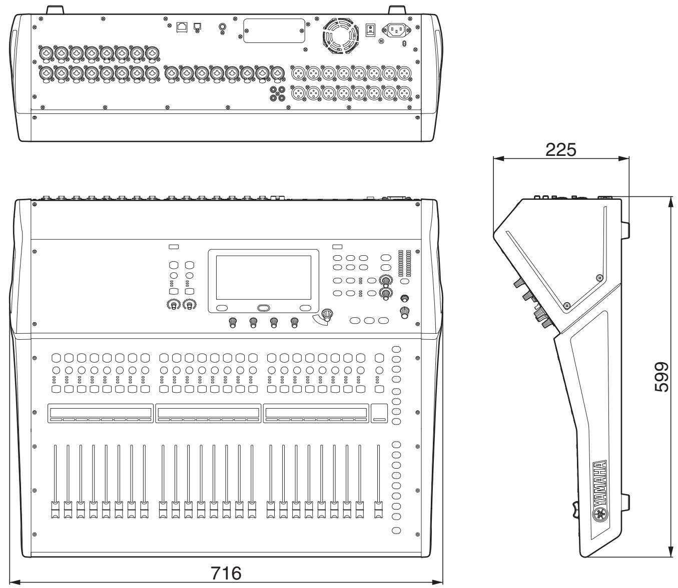
録音
録音する 18

寸法図

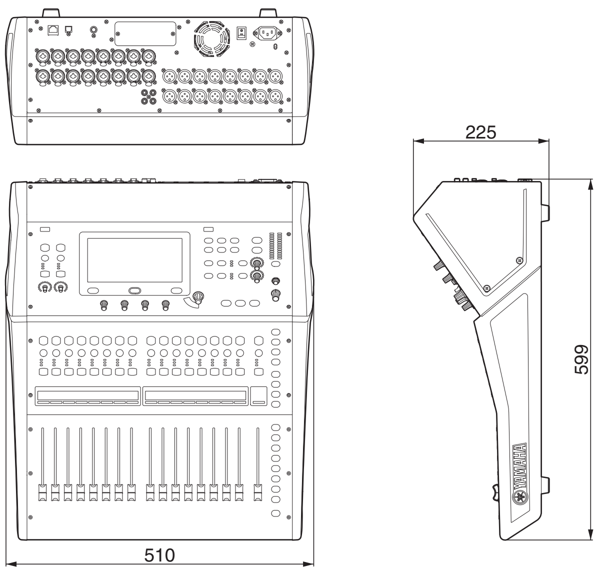
TF5



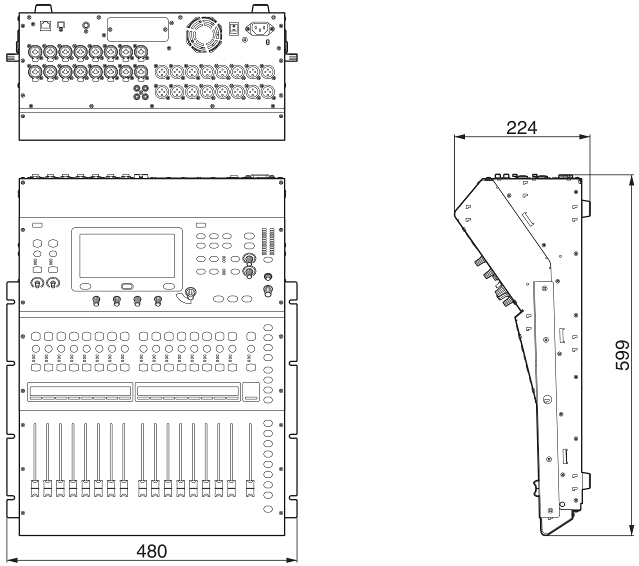
TF3



TF1

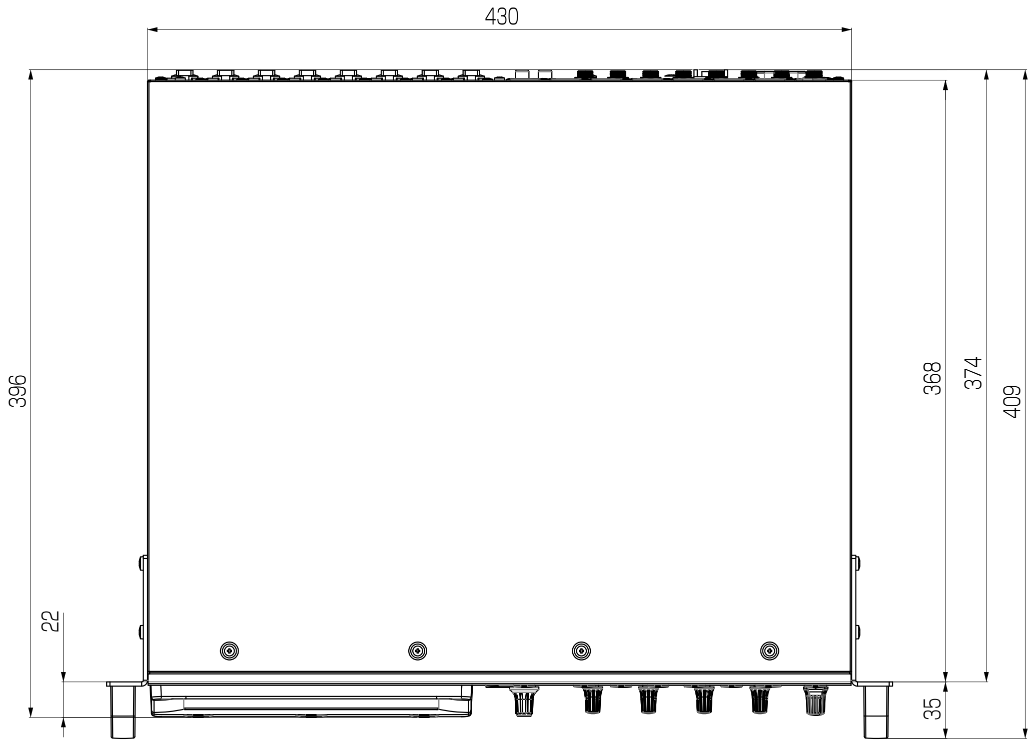


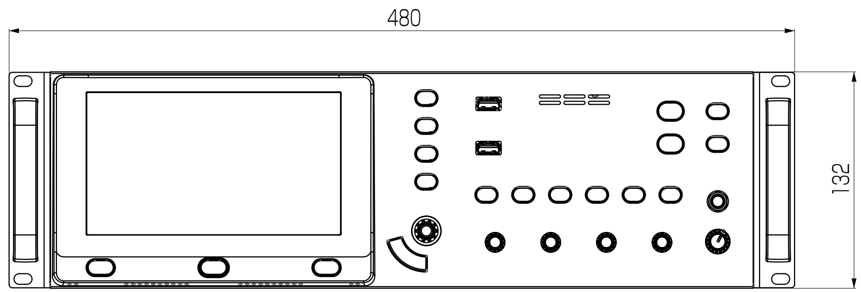
TF1 rack mount (14U)



単位:mm

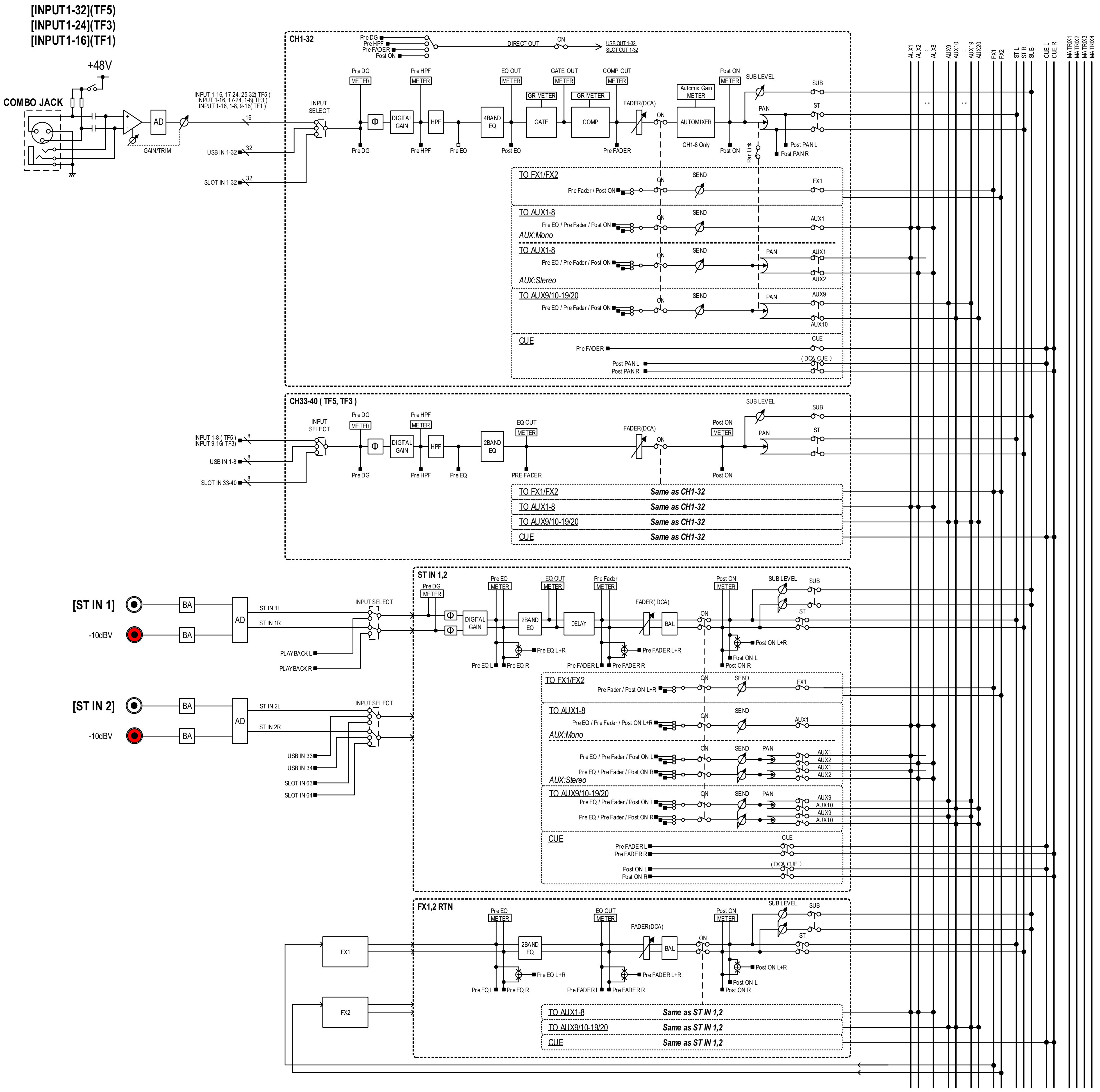
TF-RACK



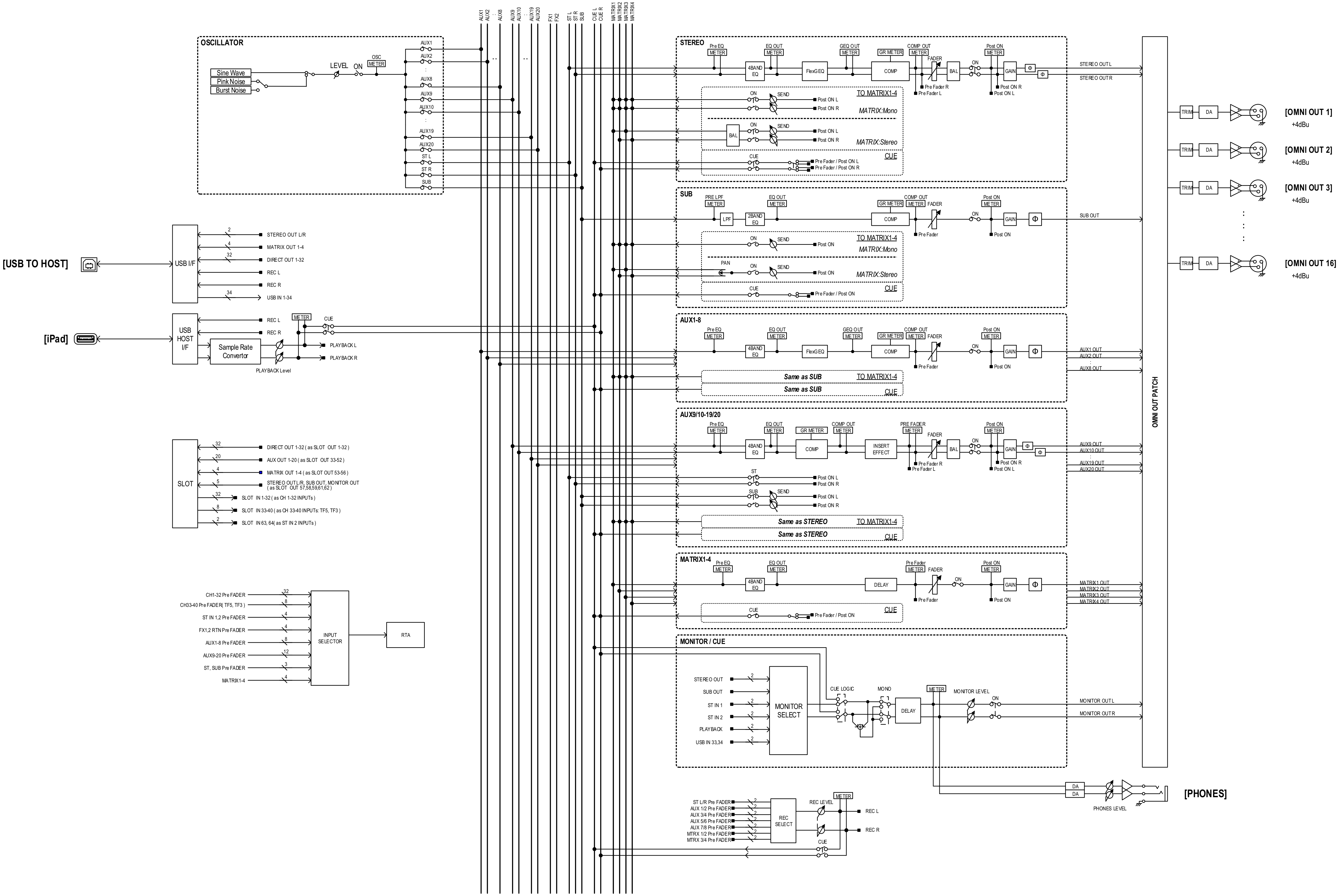


単位:mm

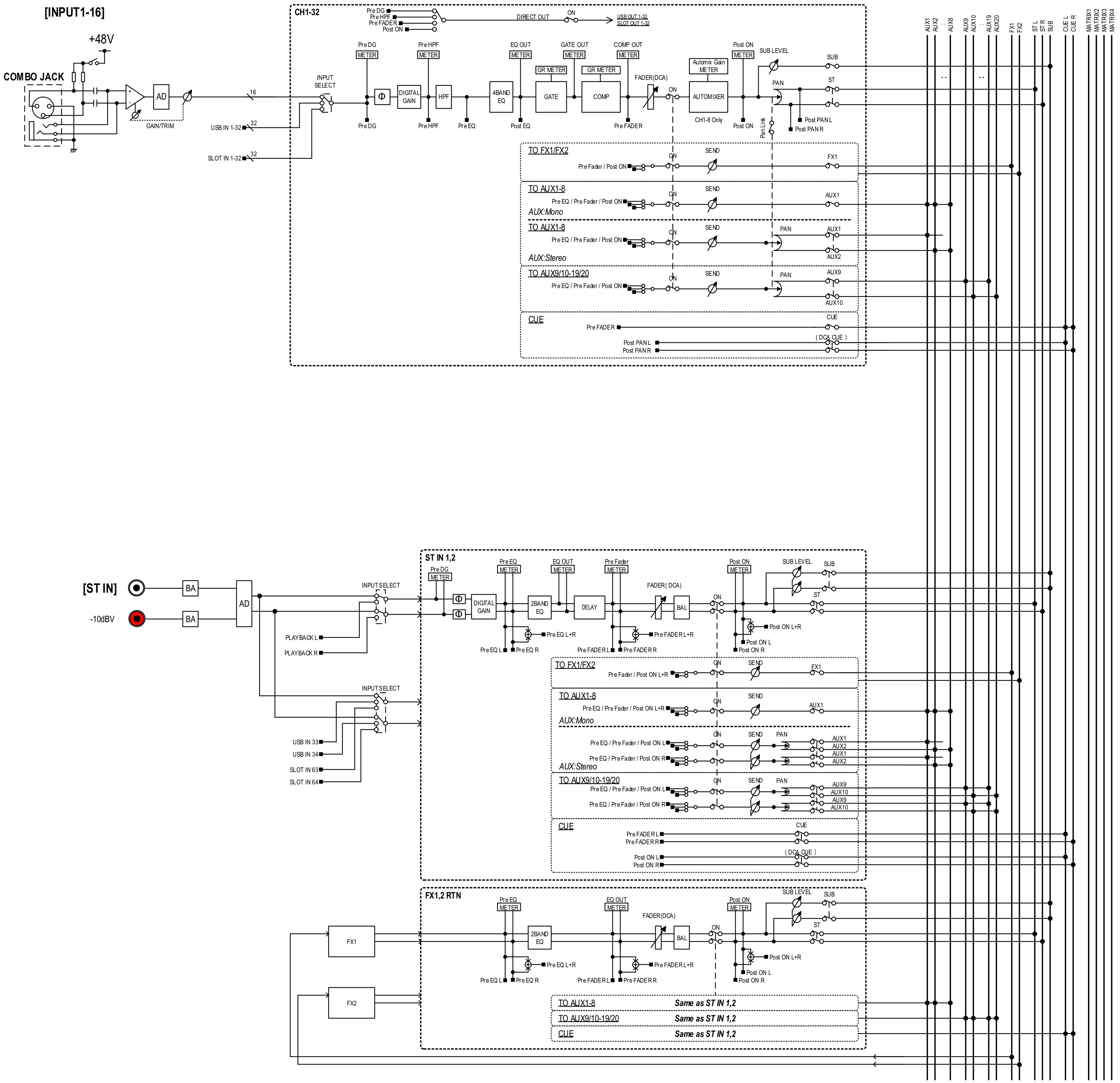
ブロックダイアグラム



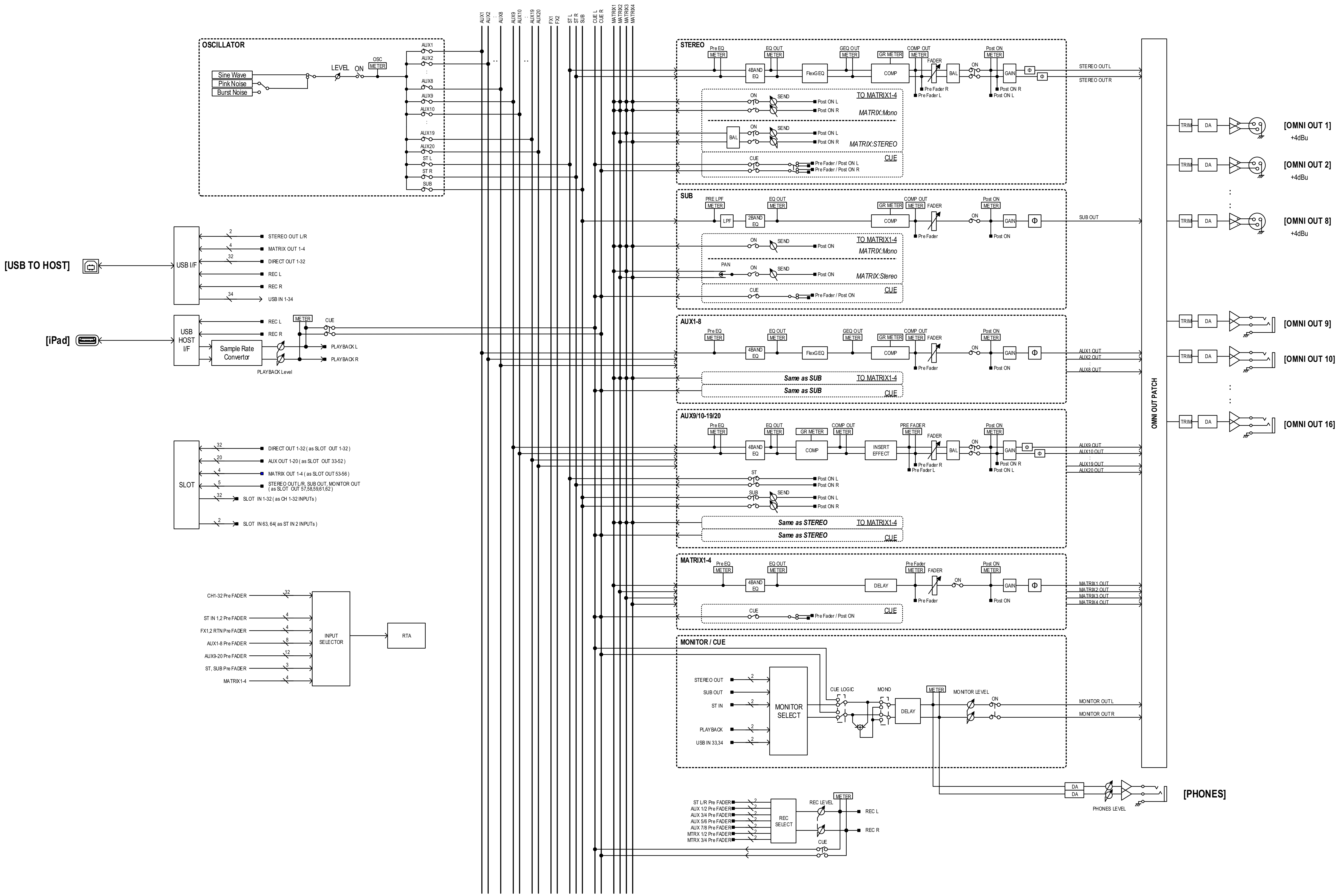
TF5,3,1 Mixer Block Diagram 1/2



TF5,3,1 Mixer Block Diagram 2/2



TF-RACK Mixer Block Diagram 1/2



TF-RACK Mixer Block Diagram 2/2

ヤマハ プロオーディオウェブサイト
http://www.yamahaproaudio.com/japan/
ヤマハダウンロード
https://download.yamaha.com/

Manual Development Group

2021年2月発行 CR-J0